

ノ問題ナルカ故ニ縱令當事者間ニ争ナシトスルモ裁判所ハ之カ爲メニ
羈束セラレヘキモノニ非ス(第百二十八條三六年一〇三五頁參照)

第二百三十九條

未タ判決ヲ言渡サス又ハ未タ判決ノ原本ニ署名捺印セサル間ハ裁判所

書記ハ其正本、抄本及ヒ謄本ヲ付與スルコトヲ得ス

裁判所書記ハ判決ノ正本、抄本及ヒ謄本ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺シテ之ヲ認證
ス可シ

○民事ノ判決書ニ付テハ刑事訴訟法第二十條ニ於ケルカ如ク判決正本ノ
每葉ニ契印スヘキ規定アラサルカ故ニ其契印ナキ正本ヲ以テ不適法ノ
モノト云フヲ得ス

三五 二 六九

○裁判ノ正本及ヒ謄本ハ原本ノ通り記載スヘキモノナレトモ裁判ニ干與
シタル判事ニ付テハ唯其署名ヲ記スルヲ以テ足り捺印マテ模寫スルコ
トヲ要セス又捺印アル旨ヲ記スルコトヲ要セサルモノトス

三五 二 七二

第二百四十一條

裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ判決中ノ違算、書損及

ヒ此ニ類スル著シキ誤謬ヲ更正ス

此更正ニ付テハ口頭辯論ヲ經シテ裁判ヲ爲スコトヲ得

右更正ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス更正ヲ宣言スル決定ニ

對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○判決ノ誤謬ヲ更正シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法第二百四十一條第

三項ニ依リ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ規定アルヲ以テ原
判決ニ對シ上告ニ於テ重ネテ此點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

三五 一 五七

○控訴審ノ判決ニ違算ノ點アルトキハ民事訴訟法第四百八條第二百四十
一條ノ規定ニ依リ同審ニ對シ其更正ヲ求ムヘキモノナレハ之ヲ理由ト
シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

三六 二二六

第二百四十四條

判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ有ス

○民事訴訟法第二百四十四條ノ意義ハ訴又ハ反訴ヲ以テ主張シタル請求
ニ對スル裁判ニ限り確定スト云フニ在リト解釋セサルヘカラス

三五 一 一五

○判決ハ當事者ノ提出シタル請求ヲ是認シ又ハ否認シタルモノ即チ判決
主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ有スルモノトス

三五 四 三七

○係争地ノ所有者ニ非サル旨ノ確定判決ハ其主張者ヨリ輾轉シテ係争地
ヲ取得シタリト主張スル者ニ其效力ヲ及ホスモノトシテ毫モ妨ケアル
コトナシ

三五 七 四

○裏書ニ因リ手形ヲ所持スル事實ヲ以テ請求ノ原因トシタル訴訟ニ於テ
裏書ノ無効ナル事由ニ依リ請求ヲ棄却シタル確定判決ハ其主文中ニ裏
書無効ノ事項ヲ包含スルヲ以テ該事項ハ確定力ヲ有スルモノトス

三五 二 八九

○既判效ヲ及ホスヘキ範圍ハ同一物ナル事件ニ限ルト同時ニ同一人ノ間

即ち確定判決ヲ受ケタル當事者間若クハ其一般承繼人ノ間ニ限ルモノニシテ其以外ノ第三者ニ付テハ縱令同一物件ヲ買得シ其權利ヲ承繼シタル者ト雖モ該確定判決ノ效力ニ依リ當然利益ヲ得若クハ之ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

○一事不再理ノ原則ハ既判力即ち實體上確定力ヲ生シタル範圍内ニ限リ之ヲ適用スヘキモノトス

第二百四十五條 口頭辯論ニ基キ爲ス裁判所ノ決定ハ之ヲ言渡スコトヲ要ス

第二百三十三條、第二百三十四條ノ規定ハ裁判所ノ決定ニ之ヲ準用シ又第二百三十五條、第二百三十九條及ヒ第二百四十條ノ規定ハ裁判所ノ決定及ヒ裁判長並ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令ハ職權ヲ以テ之ヲ當事者ニ送達ス可シ

○決定原本ニハ必スシモ決定ヲ爲シタル判事ノ署名捺印ヲ要スルモノニ非ス其決定書中ノ記載若クハ之ニ關スル審問調書又ハ其他ノ事由ニ因リ定數ノ判事カ適法ノ手續ヲ履行シ之ヲ爲シタル事實ヲ明確ナラシムルヲ以テ足ルモノトス

第三節 闕席判決

第二百五十六條 故障申立ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲ス

此書面ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 故障ヲ申立テラレタル闕席判決ノ表示

第二 其判決ニ對スル故障ノ申立

此書面ニハ本案ニ付テノ口頭辯論準備ノ爲ニ必要ナル事項アルトキモ亦之ヲ掲ケ可シ

同主旨判例
三四年二卷
六六頁

○民事訴訟法第二百五十六條ニ闕席判決ノ表示トアルハ他ノ判決ト識別シ得ヘキ方法ニ依リ其判決ヲ表示スルヲ以テ足ルモノニシテ必スシモ闕席判決ノ主文ヲ記載スルコトヲ要セス

第二百六十一條 新辯論ニ基キ爲ス可キ判決カ闕席判決ト符合スルトキハ闕席判決ヲ維持スルコトヲ言渡シ其符合セサル場合ニ於テハ新判決ニ於テ闕席判決ヲ廢棄ス

○新辯論ニ基キ爲スヘキ判決ハ故障ノ適法ナルヤ否ヤヲ判斷スル裁判ニ非サルヲ以テ之ニ關スル理由ヲ判示スヘキモノニ非ス

○闕席判決ノ主文ト新辯論ニ基キ爲スヘキ判決ノ主文ト符合スルトキハ其理由ノ異同ヲ問ハス闕席判決ヲ維持スヘキコトヲ言渡スヘキモノトス

第五節 證據調ノ總則

第二百七十三條 證據調ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ通例トス

證據調ハ此法律ニ定メタル場合ニ限り受訴裁判所ノ部員一名ニ之ヲ命ジ又ハ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

民事訴訟法 第二百六十一條 第二百七十三條

三五 八三

三五 九三

三五 二一

三五 二四三

三五 九一

三五 一四五

此證據調ヲ命スル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○一タヒ證人訊問ヲ他裁判所ニ囑託スヘキコトヲ決定シタルモ之ヲ囑託セシテ自ラ同證人ヲ訊問スルハ該囑託ノ決定ヲ變更シテ自ラ訊問シタルニ外ナラサレハ不適法ニ非ス

第二百七十四條

當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フ可キ限度ハ裁判所之ヲ定ム

當事者ノ演述ニ引續キ直チニ證據調ヲ爲サシテ受訴裁判所ニ於テ新期日ニ之ヲ爲シ又ハ受命判事者クハ受託判事ノ面前ニ於テ之ヲ爲ス可キトキハ證據決定ニ因リ之ヲ命ス可シ

○當事者ノ申出テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ハ裁判所之ヲ定ムトノ民事訴訟法第二百七十四條ノ規定ハ一ノ事實ヲ證明スル爲メ數多ノ證據申出ヲ爲シタル場合ニ適用スルニ止マルモノトス

○裁判所ハ當事者ノ申立テタル數多ノ證據中其調フヘキ限度ヲ定ムルコトヲ得ルモ當事者カ唯一ノ證據方法ヲ申立テタル場合ニ於テハ其申立ノ不適法ナラサル限リハ之ヲ却下シ舉證ナキ理由ヲ以テ其申立者ニ對シ敗訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

○法律上ノ問題ヲ解決スルノミヲ以テ事件ノ勝敗ヲ決シ得ルカ又ハ當事者ノ立證セントスル事實ニ關セス他ノ事實理由ニ依リ勝敗ヲ決シ得ヘキ場合ニ於テハ立證方法ハ不必要ニ屬スルカ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ

其申立ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ

○檢證ナルモノハ裁判官カ自働的ニ現物ヲ實檢シ考覈ヲ確ムル方法ナレハ其事實ヲ認定スルニ當リ檢證ヲ爲サ、レハ十分考覈ヲ得ヘカラスト認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲シ得ルト同時ニ當事者ノ申立アルモ他ノ方法若クハ情況等ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ檢證ヲ爲スモ既ニ確メタル考覈ヲ變スヘキ事情ナカルヘシト認ムルトキハ之ヲ爲サ、ルコトヲ得ヘキモノトス

○當事者雙方カ數多ノ證據ヲ舉ケテ辯論ヲ爲シタル後其一方ヨリ更ニ新事實ヲ主張シ檢證ヲ申請シタル場合ニ裁判所ニ於テ其新證據方法ヲ採用シ之カ證據調ヲ爲スモ既ニ得タル事實上ノ心證ヲ翻スニ足ラサルモノト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得ヘシ

第二百七十五條

證據調ニ付キ不定時間ノ障礙アルトキハ申立ニ因リ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ノ満了後ト雖モ訴訟手續ヲ遲滯セシメサル限リハ其證據方法ヲ用ヰルコトヲ得

○民事訴訟法第二百七十五條ニ所謂證據調ニ付キ不定時間ノ障礙アルトキトハ證人タルヘキ者外國ニ在ルトキノ如ク直チニ證據調ヲ爲シ得サル場合ヲ意味スルモノニシテ鑑定人ノ報告遲延スル場合ニ該當セス

三五	三六	三七	三八
一	二三五	七〇六	五〇一
三六	三七	三八	三九
三九	四〇	四一	四二

第二百七十六條 證據決定ニハ左ノ諸件ヲ掲ケ可シ

第一 證ス可キ係争事實ノ表示

第二 證據方法ノ表示殊ニ證人又ハ鑑定人ヲ訊問ス可キトキハ其表示

第三 證據方法ヲ申出テタル原告若クハ被告ノ表示

○證據決定ヲ爲スニ當リ證人ノ表示ヲ缺キタル不法アルモ其不法ヲ責問セサリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○人證ノ申出及ヒ證據決定ニ訊問スヘキ證人ノ氏名知レタルトキハ其氏名ヲ明示スヘキハ勿論ナレトモ若シ知レサルトキハ其人ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ掲記セハ右ノ申出若クハ決定ノ效力ニ妨アルヘカラス

第六節 人證

○證人ハ五官ノ作用ニ依リ直接ニ知リタル事實ニ限り證言スヘキモノニシテ慣例ノ存否ノ如キハ證人ノ證言シ得ヘキモノニ非ス

第二百九十一條 人證ノ申出ハ證人ヲ指名シ及ヒ證人ノ訊問ヲ受ク可キ事實ヲ表示シテ之ヲ爲ス

○人證ノ申出及ヒ證據決定ニ訊問スヘキ證人ノ氏名知レタルトキハ其氏名ヲ明示スヘキハ勿論ナレトモ若シ知レサルトキハ其人ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ掲記セハ右ノ申出若クハ決定ノ效力ニ妨アルヘカラス
第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者カ其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第三 問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アルトキ

第四 問ニ付テノ答辯カ證人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシム可キトキ

第五 證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニ非レハ答辯スルコト能ハサルトキ

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ハ例ヘハ證言ノ結果ニ依リ證人等カ保證人共同債務者若クハ償還義務者トシテ其義務ヲ履行セサルヘカラサルニ至リ又ハ債權者ヲシテ證人等ニ對シ債權ノ執行ヲ容易ナラシムルニ至ルカ如キ場合ヲ云フモノトス

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ノ規定ハ問ニ付テノ證人ノ答辯カ未タ確定セサル債務ニ付キ自己ノ債務タルコトヲ認諾スヘキトキノ如ク直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシムヘキ場合ニ於テ其適用ヲ受クヘキモノトス

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ノ規定ハ本訴訟ノ當事者間ノ權利關

三五
一〇
二〇九

三五
二
七九

三五
九
一四五

三五
二
四二

三五
九
一四五

三五
四
一

係ニ付キ其當事者ノ一方ト權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ在ル場合又ハ其一方ノ保證人ト爲リタル場合ノ如ク本訴訟ノ裁判ニ依リ直チニ損害ヲ生スヘキ場合ニ適用スヘキ法意ニシテ間接ニ利害ノ關係ヲ生スル場合ノ如キハ之ニ屬セス

第三百一條 拒絶ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シタル後決定ヲ以テ其裁判ヲ爲ス但第二百九十八條第一號ノ場合ニ於テ爲シタル拒絶ノ當否ニ付テハ所屬廳又ハ最後ノ所屬廳ノ裁定ニ任ス

原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ出頭シタル者ノ申述ヲ斟酌シテ決定ヲ爲ス
右決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

○證言拒絶ニ付テノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ其證言拒絶ノ當否ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者即チ證言拒絶事件ノ當事者タル證人喚問ヲ申請セル者及ヒ證人トジテ指名セラレタル者ナルヲ要ス

○民事訴訟法第三百一條ニ規定セル證言拒絶ノ當否ヲ裁判スルニ付キ當事者ヲ審訊スル手續ハ本案ニ關スル受訴裁判所カ裁判ヲ爲ス場合ニ付テノ手續ニシテ抗告裁判所カ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス場合ニ行フヘキ手續ニ非ス

第三百二條 原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ミ又ハ開示シタル原因ノ棄却確定シタル後ニ之ヲ拒ミタルトキハ申立ヲ要セスシテ決定ヲ以テ證人ニ對シ其拒絶ニ因リテ生シタル

費用ノ賠償及ヒ四十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス

證人ハ費用ノ賠償及ヒ罰金ノ言渡ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所ニ屬シテ之ヲ爲ス

○民事訴訟法第三百二條ニ謂フ原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ムトハ毫モ證言拒絶ノ事由ヲ陳述スルコトナク證言ヲ拒ムノ謂ニシテ證人カ拒絶ノ事由ヲ陳述セル場合バ縱令其原因正當ナラサルトキト雖モ之ヲ以テ原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ムモノト云フヲ得ス

第三百三條 原告若クハ被告ハ相手方ト相手方ノ證人トノ間ニ第二百九十七條第一號乃至第三百號ノ關係アルトキハ其證人ヲ忌避スルコトヲ得

○證人カ抗告人ト民事訴訟法第二百九十七條第一號ノ關係アルモ其訊問事項ニシテ同法第二百九十九條第四號ニ該當スルトキハ之ヲ忌避スルヲ得ス

○民事訴訟法第三百三條ノ證人忌避ノ規定ハ同法第二百九十七條第一號乃至第三號ノ關係アリテ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ場合ニノミ適用スヘキモノニシテ同第二百九十九條ニ依リ證人カ證言ヲ拒ムコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

三五	三五	三六	三六
三八	三五	三六	三六
三四	三七	三五	四〇
		三三	

(同案旨)

民事訴訟法第三百三條ハ同第二百九十七條ノ場合ニ限り忌避スルコトヲ得ル規定ニシテ同第二百九十九條ノ例外規定ノ場合ニモ尙ホ忌避スルコトヲ得ルノ法意ニ非ス

第三百五條 忌避ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因アリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス忌避ノ原因ナシト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○證人忌避ノ決定ハ必ス其理由ヲ付スルコトヲ要スルモノニ非サルヲ以テ單ニ其理由ノ明示ナキコトノミヲ以テ直チニ之ヲ違法ト爲スコトヲ得ス

○忌避ノ原因アリト宣言スル決定ハ終局判決前ニ爲シタル裁判ナリト雖モ之ニ對シ不服ヲ申立テ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ス

第三百六條 各證人ニハ其携帶ス可キ呼出狀其他適當ノ方法ヲ以テ人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタル後訊問前各別ニ宣誓ヲ爲サシム可シ
然レトモ宣誓ハ特別ノ原因アルトキ殊ニ之ヲ爲サシム可キヤ否ヤニ付キ疑ノ存スルトキハ訊問ノ終ルマテ之ヲ延フルコトヲ得

○證人ノ人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタルコトハ之ヲ證人訊問調書ニ記載スルコトヲ要セサレハ反對事實ノ證明セラレサル限りハ其人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタルモノト做スヲ相當トス

同主旨判例
三四年一〇
卷五九頁

第三百七條 證人ハ訊問前ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ誓ヲ宣フ可シ

又訊問後ニ宣誓ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ノ誓ヲ宣フ可シ

○同一ノ事柄ニ付キ同一ノ證人ヲ繼續シテ訊問スヘキ場合ニ於テハ最初ノ日ニ一タヒ宣誓セシムルトキハ其效力ハ其後ノ訊問ニ及フヘキカ故ニ訊問ノ都度更ニ宣誓セシムルコトヲ要セサルモノトス

第三百八條 刑事ハ宣誓前ニ相當ナル方法ヲ以テ宣誓者ニ僞證ノ罰ヲ諭示ス可シ

○證人ノ宣誓前ニ於テ僞證ノ罰ヲ諭示スルノ手續ヲ爲サ、リシトキト雖モ之カ爲メニ其爲シタル證言自體カ無効ニ屬スヘキモノニ非ス

第三百十條 左ノ者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルコトヲ得

第一 訊問ノ時未タ滿十六歳ニ達セサル者

第二 宣誓ノ何物タルヤヲ了解スルニ必要ナル精神上ノ發達ノ缺クル者

第三 刑事上ノ判決ニ因リ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

第四 第二百九十七條及第二百九十八條第三號並第四號ノ規定ニ依リ證言ヲ拒絕スル權利アリテ之ヲ行使セサル者但第二百九十八條第三號並第四號ノ場合ニ於テハ拒絕ノ權利ニ關スル事實ニ付キ證言ヲ爲スコトヲ申立テラレタルトキニ限ル

第五 訴訟ノ成續ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者

同主旨判例

○裁判所カ民事訴訟法第二百十條第五號ニ該當スル者ニ宣誓ヲ爲サシメ

民事訴訟法 第三百七條 第三百八條 第三百十條

三五三

三五八

三五〇

三五七

三五六

三五二

三三六卷
七一頁

テ訊問シタルニ當事者ニ於テ其證言ニ對シ何等ノ異議ヲ申述セザルト
キハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノトス

第八節 書證

○舊商業會議所條例ニ依レハ商業會議所ハ一人ノ爲メニ商慣習ノ存否
ヲ證明スヘキ職責ヲ有セザルヲ以テ其作成シタル書面ハ單一私人ノ
證明書ニ過キサズルモノトス

○官吏又ハ公吏ハ現ニ自ラ見聞シタル事實ヲ證明スルコトヲ得ルモ自ラ
見聞セザル事實ニ付キ證明ヲ與フル職權ヲ有セス又縱令此事實ニ付キ
證明ヲ與フルモ其證明ハ公正ノ效力ヲ有スルモノニ非ス

第三百五十一條 公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ヲ偽造若クハ變造ナリト主張スル
者ハ其證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立ヲ爲ス可シ

此場合ニ於テハ裁判所ハ其證書ノ眞否ニ付キ中間判決ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ

○商法第四百四十二條第二項ニ依リ町役場ニ問合ヲ爲シタル場合ニ於テ
町長カ其問合ニ對シテ作りタル書面ハ公正ノ證書ナレハ其效力ヲ爭ハ
ント欲スル者ハ眞否確定ノ申立ヲ爲サ、ルヘカラス

第三百五十二條 私署證書ノ眞否ニ付キ等アルトキハ裁判所ハ舉證者ノ申立ニ因リ檢眞
ヲ爲スコトヲ得

同主旨判例
二八年二卷
九四頁

○民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ舉證者ノ申立ニ因リ私署證書ノ檢眞ヲ爲スハ
當事者ノ一方カ之ヲ其相手方ヨリ出テタル私署證書ナリトシテ提出シ
タル場合ニ限ルモノトス

同主旨判例
三二年六卷
八四頁

○證書檢眞ノ手續ハ當事者間ニ於ケル私署證書ノ眞否ノ爭ヲ裁判セシム
ル手續ニシテ第三者ノ作成ニ係ル證書ニ適用スヘキモノニ非ス
○私署證書ノ檢眞ハ署名者カ其眞正ヲ爭フ場合ニ爲スヘキモノニシテ當
事者カ其先代ノ記名捺印アル私署證書ヲ認メサル場合ニ之ヲ爲スヘキ
モノニ非ス

第三百五十三條 私署證書ノ檢眞ハ總テノ證據方法及ヒ手跡若クハ印章ノ對照ニ因リテ
之ヲ爲ス

證書ノ眞否ヲ證セントスル當事者ハ裁判所ノ定ムル期間内ニ手跡若クハ印章ヲ對照ス
ル爲ニ適當ナル書類ヲ提出ス可シ

眞正ナリト自白又ハ證明シタル適當ノ對照書類ナキトキハ對照ノ爲メ原告若クハ被告
ニ對シ裁判所ニ於テ一定ノ語辭ノ手記ヲ命スルコトヲ得其手記シタル語辭ハ調書ノ附
録トシテ之ニ添附ス可シ

裁判所ハ手跡若クハ印章ヲ對照シタル結果ニ付キ自由ナル心證ヲ以テ裁判ヲ爲シ又必
要ナル場合ニ於テハ鑑定ヲ爲サシメタル後之ヲ爲ス

原告若クハ被告カ裁判所ノ定メタル期間内ニ對照書類ヲ提出セザルトキ又ハ對照ス可
キ語辭ヲ手記ス可キ裁判所ノ命ニ對シ十分ナル辯解ヲ爲サスシテ之ニ從ハザルトキ又

民事訴訟法 第三百五十三條

三五 二 二〇

三五 九 一五九

三五 二 一六〇

三五 一 一六

三五 一 二〇

三五 五 七

三五 九 二〇

ハ書様ヲ變シテ手記シタルトキハ證書ノ眞否ニ付テノ相手方ノ主張ハ其他ノ證據ヲ要セシテ之ヲ眞正ナリト看做スコトヲ得

○民事訴訟法第三百五十三條ニ謂フ適當ノ對照書類トハ署名者カ眞正ナリト自白シタルモノ、ミヲ指シタルモノニ非ス他ノ證據方法ニ依リ其眞正ナルコトノ證明セラレタリト認メ得ラル、モノモ亦之ニ包含ス

第三編 上訴

第一章 控訴

第三百九十八條 闕席判決ニ對シテハ期日ヲ懈怠シタル者ヨリ控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス但故障ヲ許ササル闕席判決ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限り控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得

同主旨判例
三二年一
卷八二頁

○民事訴訟法第三百九十八條ニ謂フ「懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキ」トハ當事者カ口頭辯論期日ヲ懈怠セサリシ場合ナルニ拘ハラヌ裁判所ハ其懈怠アルモノト誤認シ闕席判決ヲ爲シタルトキヲ示スモノナリ

第四百一條 控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ控訴裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス此控訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 控訴セラルル判決ノ表示

第二 此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述

此他控訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作り且判決ニ對シ如何ナル程度ニ於テ不服ナルヤ及ヒ判決ニ付キ如何ナル變更ヲ爲ス可キヤノ申立ヲ掲ケ若シ新ニ主張セントスル事實及ヒ證據方法アルトキハ其新ナル事實及ヒ證據方法ヲ掲ケ可シ

○控訴狀ニハ控訴院ヲ表示スヘキ文字ノ記載アレハ足ルモノニシテ其院長若クハ部長ナル文字ノ記載ハ控訴狀ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ
○民事訴訟法第四百一條若クハ第四百二十條等ニ變更ナル文字アルハ本案判決ヲ取消ス場合ニ之ヲ使用スヘシト云フ趣旨ヲ示スニ非スシテ當事者ノ申立ナキモノハ上訴ニ於テモ審理ヲ爲サストノ原則ヲ明カニシタルニ外ナラス

第四百五條 被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト

雖モ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

闕席判決ニ對シ附帶控訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトニ付テハ第三百九十八條ノ規定ニ從フ

○民事訴訟法第四百五條ハ一ノ訴ニ於テ數箇ノ請求ヲ爲シタルト本訴及ヒ反訴ニ於テ各請求ヲ爲シタルトニ拘ハラヌ第一審裁判所カ同一ノ判決ヲ以テ各請求ニ對シ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ該判決ニ對シ控訴人

三五
二〇
一八五

三五
九
五七

三五
三
六〇

三六
三
六三

ヨリ控訴ヲ提起シタルトキハ被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノトス

第四百八條 右ノ外控訴ノ訴訟手續ニハ地方裁判所ノ第一審ノ訴訟手續ノ規定ヲ適用ス但本章ノ規定ニ依リ差異ノ生スルモノハ此限ニ在ラス

○民事訴訟法第九十七條ノ規定ハ控訴審ノ裁判ニモ適用スヘキモノナレハ訴ノ原因ニ變更ナシトスル第二審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○控訴裁判所ニ於テ假執行ニ關スル宣言ヲ爲スニ當テハ單ニ民事訴訟法第五百九條ノ規定ノミニ止マラス第五百三條等ノ規定モ亦之ヲ適用シ得ヘキ法意ナルコトハ同第四百八條ノ規定ニ依リ自ラ明カナリ

○控訴審ノ判決ニ違算ノ點アルトキハ民事訴訟法第四百八條第二百四十一條ノ規定ニ依リ同審ニ對シ其更正ヲ求ムヘキモノナレハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十三條 訴ノ變更ハ相手方ノ承諾アルトキト雖モ之ヲ許サス

○訴ハ原因ト目的ト相濶テ成立スルモノナルカ故ニ民事訴訟法第九十五條第三號ノ規定中ニハ自ラ訴ノ變更ヲ包含シ第四百十三條ノ規定中

ニハ自ラ訴ノ原因ヲ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス

○起訴者カ控訴審ニ於テ訴ノ變更ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ以テ其變更シタル點ノミヲ排斥スヘク之カ爲メ訴其モノヲ却下スヘキモノニ非ス

第四百十五條 當事者ハ第一審ニ於テ主張セザリシ攻撃防禦ノ方法殊ニ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

○強制執行異議ノ訴ニ於テ起訴者カ控訴審ニ至リ辨濟スヘキ金額ヲ供託シ其事實ヲ新タニ提出シタルカ如キハ訴ノ變更ニ非スシテ民事訴訟法第四百十五條ニ所謂新ナル事實トアルニ該當スルニ付キ控訴審ニ於テモ其提出ヲ許サ、ルヲ得ス

第四百十六條 新ナル請求ハ第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合又ハ相殺スルコトヲ得ヘキモノニシテ且原告若クハ被告カ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハザリシコトヲ疏明スルトキニ限り之ヲ起スコトヲ得

○控訴審ニ於テハ民事訴訟法第四百十六條ニ規定セル場合ノ外新ナル請求ヲ爲スコトヲ得ス

○第一審ニ於テ申立テタル請求ト第二審ニ於テ申立テタル請求ト請求自體ノ異ナル場合ニ於テハ控訴裁判所ハ其請求カ債權ニ基クト物權ニ基

三六
一六〇

三五
四一〇

三五
九一五

三六
二二八

三五
九三三

三六
九三七

三六
九三六

三五
一一二

クトヲ問ハス新請求ヲ排斥シ舊請求ニ對シ其當否ヲ判斷スレハ足ルモノトス

○民事訴訟法第九十六條第二號ニ該當スル新ナル請求ハ第二審ニ至テ之ヲ提出スルモ請求者ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルコトヲ疏明スルヲ要セス

○民事訴訟法第四百十六條ニ當事者カ其過失ニ非スシテ第一審ニ提出シ能ハサルコトヲ疏明スルヲ要スル旨ヲ規定セルハ相殺スルコトヲ得ヘキ新ナル請求ニ關スルモノニシテ同法第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合ニ關スルモノニ非ス

第四百十八條 第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ハ第二審ニ於テモ亦其效力ヲ有ス

○民事訴訟法第四百十八條ノ裁判上ノ自白トハ一方ノ當事者ヨリ提出シタル陳述ニシテ權利ノ存在又ハ不存在ニ關係スル事實上ノ主張ニ對シ他ノ一方ノ當事者ニ於テ其主張事實ノ眞實ノ承認ヲ言明スル所ノ意思表示ヲ云フ從テ同法第一百一條第二項ニ依ル擬制的推定自白ノ如キハ所謂裁判上ノ自白ニ該當セス

第四百十九條 控訴裁判所ハ控訴ヲ許ス可キヤ否ヤ又控訴ヲ法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ起シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判

決ヲ以テ控訴ヲ不合法トシテ棄却ス可シ

○控訴期間ハ判決ノ有效ナル送達ヲ以テ始マルカ故ニ其送達ハ果シテ適法ノ場所ニ於テ適法ノ人ニ爲サレタルヤ否ヤハ控訴審カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬ス

第四百二十條 第一審ノ裁判ハ變更ヲ申立テタル部分ニ限り之ヲ變更スルコトヲ得

○民事訴訟法中第二審裁判所カ第一審判決ヲ取消シ更ニ其裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ取消ノ意義ヲ示ス用語ヲ限定シタル規定ナキヲ以テ第一審ノ判決ヲ取消スニ方リ廢棄ナル文字ヲ用ユルモ同法ニ違フコトナシ
○民事訴訟法第四百一條若クハ第四百二十條等ニ變更ナル文字アルハ本案判決ヲ取消ス場合ニ之ヲ使用スヘシト云フ趣旨ヲ示スニ非スシテ當事者ノ申立ナキモノハ上訴ニ於テモ審理ヲ爲サストノ原則ヲ明カニシタルニ外ナラス

第四百二十一條 第一審ニ於テ是認シ又ハ非認シタル請求ニ關スル總テノ爭點ニシテ申立ニ從ヒ辯論及ヒ裁判ヲ必要トスルモノハ第一審ニ於テ此爭點ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ササルトキト雖モ控訴裁判所ニ於テ其辯論及ヒ裁判ヲ爲ス

○第一審裁判所カ辯論ヲ係爭法律關係ノ當事者ナルヤ否ノ點ニ制限シテ原告ニ敗訴ヲ言渡シタル場合ニ於テハ第二審裁判所ハ事件ノ全部ニ付

三五	五	一一
三五	一〇	三
三六	三〇	
三六		三六一
三五	九	八一
三六		六三
三六		六三

キ裁判スヘキモノニシテ唯請求ノ原因ノミニ付キ裁判ヲ爲シ其數額ニ付テ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得ス

第四百二十二條 控訴裁判所ハ左ノ場合ニ於テ事件ニ付キ尙ホ辯論ヲ必要トスルトキハ

其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス可シ

第一 不服ヲ申立テラレタル判決力闕席判決ナルトキ

第二 不服ヲ申立テラレタル判決力闕席判決ニ對スル故障ヲ不適法トシテ棄却シタルモノナルトキ

第三 不服ヲ申立テラレタル判決力妨訴ノ抗辯ノミニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第四 請求カ其原因及ヒ數額ニ付キ爭アル場合ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決力先ツ其原因ニ付キ裁判ヲ爲シタルモノナルトキ

第五 不服ヲ申立テラレタル判決力證書訴訟及ヒ爲替訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ別訴訟ヲ以テ追行ヲ爲ス權ヲ留保シタルモノナルトキ

○第一審裁判所カ訴訟ノ要件ノミニ付キ判決ヲ爲スニ熟シタルモノト認メ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ請求ノ當否ニ付テノ第一審裁判ナキヲ以テ其控訴ヲ受ケタル第二審裁判所カ尙ホ事件ニ付キ裁判ヲ爲サシムル必要アリト認メタルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻シ更ニ本案ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシメサルヘカラス

第四百二十四條 控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ノ棄却ヲ言渡ス可シ

○第一審ニ於ケル證據調ニ關スル手續ノ違背ハ必スシモ其裁判ヲ廢棄スヘキ結果ヲ生スルモノニ非ス

第二章 上告

○第二審ノ判決言渡後ニ於テ合意上權利拘束ノ效力ヲ消滅セシメタルトキハ其理由ノ如何ニ拘ハラス上告ヲ爲スヲ得ス

○訴訟當事者ノ一方カ第二審判決後ニ死亡シ其承繼人ニ於テ未タ訴訟ヲ受繼セサル間ニ他ノ一方ヨリ提起シタル上告ハ不適法ニシテ承繼人ニ對シ何等ノ效力ヲモ有セサルモノトス

第四百三十三條 終局判決前ニ爲シタル裁判ハ亦上告裁判所ノ判斷ヲ受ク但此法律ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得スト明記シタルトキ又ハ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

○判決ノ誤謬ヲ更正シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法第二百四十一條第三項ニ依リ抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ規定アルヲ以テ原判決ニ對シ上告ニ於テ重ネテ此點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
○忌避ノ原因アリト宣言スル決定ハ終局判決前ニ爲シタル裁判ナリト雖モ之ニ對シ不服ヲ申立テ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ス

三五	三五	三六	三五	三五	三五
一〇	一		六	四	四
二八	五七	五九六	二五	一三〇	一三〇
					九〇二

第四百三十五條 法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

○制限外ノ利息ニ關スル契約ハ當然無効ナルヲ以テ法律上ノ充當ノ場合ニ於テ制限外ノ利息ニ付キ有效ニ充當スルコトヲ得ヘキモノト爲シタル裁判ハ不法ナリ

○共同訴訟人ノ一人カ私署證書ノ成立ヲ是認シ他ノ一人ハ之ヲ否認シタル場合ニ其真正ノ成立タルコトヲ確定セスシテ是認ノ效力ヲ否認者ニ及ホシタル判決ハ不法ナリ

第四百三十六條 裁判ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一 規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

第二 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除外セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除外ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ此限ニ在ラス

第三 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタルトキ

第四 裁判所カ其管轄又ハ管轄違ヲ不當ニ認メタルトキ

第五 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ

第六 訴訟手續ノ公行ニ付テノ規定ニ違背シタル口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲シタルトキ

第七 裁判ニ理由ヲ付セザルトキ

○裁判所カ職權上調査スヘキ事項ノ外ハ控訴審ニ於テ攻撃防禦ノ方法トシテ論述シタルモノニ非サレハ其事實理由ヲ判定セストノ口實ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○民事訴訟法第五十條第五項ニ於テ懈怠シタル共同訴訟人ニモ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ其訴訟人ヲシテ何時タリトモ訴訟手續ニ再ヒ加ハルノ便宜ヲ得セシムル爲メニ外ナラス故ニ懈怠シタル訴訟人カ呼出ナキニ拘ハラズ何等ノ異議ヲモ挾マスシテ口頭辯論ニ加ハリタル以上ハ送達及ヒ呼出ナキコトヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○判決ニ法定代理人ヲ表示セサル欠缺ハ民事訴訟法第四百三十六條ニ列舉セル事項ノ如キ常ニ法律ニ違背シタルモノトスヘキ要件ニ非ス

○控訴審ノ判決ニ違算ノ點アルトキハ民事訴訟法第四百八條第二百四十一條ノ規定ニ依リ同審ニ對シ其更正ヲ求ムヘキモノナレハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

○構成上欠缺アル裁判所ニ於テ鑑定セシメタル鑑定ヲ採テ判斷ノ資料ニ供シタル判決ハ利害ノ關係如何ヲ問ハス又當事者カ質責權ヲ行使シタルト否トヲ論セス民事訴訟法第四百三十六條第一號ニ該當スル所謂常

三五	二	二六
三六	九	一三四
三七	一七二	
三八	一七六	
三九	二二六	

ニ法律ニ違背シタル裁判ナリトス

○民法施行前ニ於テ未成年者ノ爲セル法律行爲ニ付テハ未成年者ノ能力ニ付キ事實承審官ノ認定スル程度如何ニ因リ法律ノ適用ヲ異ニスルヲ以テ承審官ハ其認メタル程度ニ付キ明確ニ其事實理由ヲ説示セサルヘカラス

○拒絕證書ニ商法第五百十五條規定ノ要件ヲ具備セサルヲ以テ無効ナル旨ヲ判示シタルニ止マリ其要件中ノ何如ナルモノヲ缺如シタルヤ之ヲ指摘セサル判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判タルコトヲ免カレズ

○原告ハ請求ノ全部ニ付キ理由アルコトヲ主張シ被告ハ其一部ニ付キ理由ノ存セサルコトヲ主張スル場合ニ於テ裁判所カ被告ノ主張ヲ正當ト認ムルトキハ其相當トスヘキ程度ニ付キ理由ヲ付スルノ必要アレトモ原告ノ主張ヲ是認スルトキハ其全部ニ付キ理由アルコトヲ説明スレハ足レリ

○後見人カ其任務ヲ辭シタルヤ否ヤノ争點ヲ判断スルニ當テハ民法第九百五條第九百四條ノ手續ヲ爲シタルヤ否ヤニ依テ之ヲ斷定スルヲ得ス必ス他ニ其辭任ノ有效ナルヤ否ヤヲ決スヘキ相當ノ理由ナカルヘカラス

○判決ノ理由ニ於テ損害金請求ノ一部ノ不當ナルコトヲ説明シ乍ラ其主文ニ於テ其請求ノ一部ヲ棄却スル旨ヲ記載セサルモ被告タル上告人ニ對シ何等利害ノ影響ヲ及ホスコトナケレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○「甲號證及ヒ各證人ノ供述ニ依リテ法律上離婚ノ原因トナルヘキ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタリシ事實アリト認ムル能ハス」トノ理由ヲ以テ離婚ノ請求ヲ棄却シタル判決ハ起訴者カ請求ノ原因トスル日常殘忍ノ取扱ヲ受ケタル事實ヲ認ムルコト能ハスト云フニ在ルカ又ハ此事實ハ之ヲ認メ得ルモ未タ以テ離婚ノ原因ト爲スニ足ルヘキモノト認ムルコト能ハスト云フニ在ルヤ其意味明瞭ナラスシテ理由不備ノ違法アルモノトス

第四百四十七條 上告ヲ理由アリトスルトキハ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ破毀ス可シ
訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シタルニ因リ判決ヲ破毀スルトキハ其違背シタル部分ニ
限リ訴訟手續ヲモ亦破毀ス可シ

○訴訟手續違背ノ有無ハ職權調査ニ屬スル事項ナルヲ以テ當事者ノ申立又ハ證明ヲ竣テ始メテ之ヲ判定スヘキモノニ非サルヤ勿論ナリト雖モ其違背ノ事實ヲ認識スルニ足ルヘキ事跡現ニ存在スルアルニ非サレハ

三六
七九

三五
四
六

三五
五
三

三五
八
一〇

三五
二
七

三六
二四七

三六
七六

漠然之ヲ推測スヘキモノニ非ス

第四百四十八條 判決ヲ破毀スル場合ニ於テハ第四百五十一條ノ規定ヲ除ク外更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻シ又ハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移送ス可シ

事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス

○控訴ノ判決カ上告ニ因リ破毀セラレ控訴審ニ差戻又ハ移送セラレタルトキハ事件ハ控訴ノ辯論及ヒ判決ヲ爲サ、リシ以前即チ嘗テ控訴審ニ繫屬シタルトキノ程度ニ復スヘキモノトス

第四百五十三條 裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ棄却ス可シ

○後見人ノ越權行爲ヲ無効ノモノト爲シ原判決理由ノ末段ニ於テ「無効ノ行爲ナルコトヲ知リツ、云々」ト掲載シタル説明ハ本院ノ判例ニ背クト雖モ同理由ノ前段ニ行爲追認ノ事實ヲ認ムル旨ノ説明アリテ實質上取消シ得ヘキ行爲ヲ追認セルコトノ事實ヲ認メタル筋合トナルニ付キ原判決ハ結局相當ニシテ違法ナキコトニ歸著ス

第二章 抗告

第四百五十五條 抗告ハ訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタル裁判ニ

對シ其他此法律ニ於テ特ニ掲ケタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

○執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ規定ニ於ケル費用ノ辨濟ヲ負擔スヘキ決定ヲ受ケタルカ如キ場合ノ外ハ常ニ公務上ニ關シ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

第四百五十六條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲ス

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

○控訴院カ上告裁判所ノ資格ヲ以テ爲シタル裁判ニ對スル抗告ハ之ヲ許容スヘキモノニ非ス

○民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ謂フ新ナル獨立ノ抗告理由ナルモノハ攻撃セラレヘキ裁判ニ因リ直接ニ生シタル抗告理由ニシテ其裁判ニ付シタル理由ノ新ナルモノニ對シ其當否ヲ攻撃スル場合ニ於テハ右ノ規定ニ所謂新ナル獨立ノ理由アリト云フヘカラス

○民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ謂フ抗告裁判所ノ裁判トハ抗告事件ノ本體ノ裁判即チ破産宣告申立ノ抗告事件ニ付テ之ヲ云ヘハ破産ノ宣告ヲ爲スカ又ハ其申立ヲ却下スル裁判ヲ謂フモノニシテ單ニ前審ノ決定ヲ廢棄シ破産宣告ノ裁判ヲ同審ニ委任スルモノ、如キハ未タ本體

三五 一〇 一八五

三六 二八二

三五 〇 一八

三五 六 一六

三六 四六

三五 四 一〇五

ノ裁判ト謂フヲ得ス

(同主旨)

民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ謂フ抗告裁判所ノ裁判トハ抗告事件ノ本體ニ關スル裁判ヲ云フモノニシテ單ニ前審ノ決定ヲ廢棄シ未タ本體ニ付キ裁判ヲ爲サトルモノノ如キハ該文詞中ニ包含セス

同主旨判例
三三三
三三三
三三三
四〇頁

○抗告裁判所カ區裁判所ノ決定ヲ認可シ二箇ノ裁判同一ニ歸著シタル場合ニ於テハ抗告裁判所ノ裁判カ裁判所構成法ニ違背シ若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背スル如キ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

(同主旨)

下級裁判所ト上級裁判所トノ二箇ノ決定カ其結果同一ニ歸シタル場合ニ於テ再抗告ヲ爲シ得ルニハ裁判所構成ノ規定又ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ如キモノアルヲ要ス

○抗告人ニ於テ新ナル事實ノ申立ヲ爲シタルトキハ抗告裁判所ハ其主張ノ新事實カ正當ナルヤ否ヤヲ審査判定セサルヘカラス故ニ若シ之ヲ不問ニ付シタルトキハ重要ナル訴訟手續ニ違背セルモノニシテ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○抗告裁判所ノ裁判ニ因リ生シタル新ナル獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所ノ裁判カ前審ノ裁判ト主文上ニ差異ヲ生シタルカ若クハ抗告裁判所

同主旨判例
三三三
三三三
三三三
一〇頁

カ重要ナル訴訟手續ニ違背シタル場合ニ非サレハ存セサルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ謂フ新ナル獨立ノ抗告理由ハ抗告裁判所ノ裁判カ前審ノ裁判ト主文上ニ差異ヲ生シタルカ又ハ抗告裁判所カ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルトキニ限リ生スルモノトス

民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所ノ裁判カ前審ノ裁判ト主文上ニ差異ヲ生シタルカ又ハ抗告裁判所カ重要ナル訴訟手續ニ違背シタル如キ事實ヲ指稱スルモノトス

○抗告裁判所カ原決定中支拂停止ノ日時ヲ指定セル部分ヲ變更シテ之ヲ其レヨリ以前ノ日時ト爲シタルトキハ民事訴訟法第四百五十六條ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

第四百六十二條 抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ以テ通例トス

抗告裁判所ハ抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告ヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得

陳述ハ口頭ヲ以テ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ亦口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ハ口頭辯論ノ爲ニ當事者ヲ呼出スコトヲ得

○口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ裁判所カ口頭辯論ヲ命スルモノハ固ト記録ノミニ依リ審理スルコトヲ得ヘキ事件ニ付

三五二 八七

三五八 一七

三六四 四四

三六三 三三

三六四 四七五

三六九 九五八

三五二 一

三六三 六二

三六〇 九六〇

キ其釋明ヲ期スル任意ノ手續ニ過キサレヲ以テ縱令之ヲ命シタルトキト雖モ本來口頭辯論ヲ要スル事件ニ於ケルモノト同視スヘキニ非ス

第四百六十三條 抗告裁判所ハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又法律上ノ方式ニ從ヒ若クハ其期

間ニ於テ提出シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査ス可シ

若シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不適法トシテ棄却ス可シ

○抗告裁判所ノ決定ヲ不當トシ全部廢棄ヲ求メ其理由ハ別ニ申立ツヘキ旨ノ抗告狀ヲ提出シタルモ爾後何等ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ該抗告ハ不適法トシテ棄却スヘキモノトス

第四百六十四條 抗告ヲ適法ニシテ且理由アリトスルトキハ抗告裁判所ハ不服ヲ申立テ

ラレタル裁判ヲ廢棄シテ自ら更ニ裁判ヲ爲シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ニ之ヲ通知ス可シ

○抗告裁判所カ前審ノ裁判ヲ廢棄シ前審裁判所ニ委任シテ爲サシメタル裁判ハ抗告裁判所ノ裁判ニ非ス

第四編 再審

第四百八十三條 第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スル目的ヲ以

テ判決ヲ爲サシメタリト主張シ其判決ニ對シ不服ヲ申立ツルトキハ原狀回復ノ訴ニ因ル再審ノ規定ヲ準用ス

此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告ト爲ス

○第三者カ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定ニ準據シ他人ノ間ニ言渡サレタル判決ニ對シ不服ヲ申立テ得ルハ其債務者ト他人ノ間ノ訴訟ニ於テ債務者カ他人ト通謀シ故意ニ敗訴シ以テ債權者ノ共同擔保物タル自己ノ財産ヲ減少シ債權者ヲシテ債權ノ實益ヲ享受スルコト能ハサルニ至ラシムルカ如キ場合ナラサルヘカラス

第五編 證書訴訟及ヒ爲替訴訟

○爲替訴訟ハ民事訴訟法第四百八十四條第四百八十五條第四百九十四條及ヒ第四百九十六條第一項ノ規定ニ適合スルニ於テハ之ヲ許スヘキモノニシテ其請求ノ緩慢ナルヤ否ヤハ之カ許否ヲ決スヘキ標準ト爲ラス

第四百八十四條 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ

目的トスル請求ハ其請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルコト

ヲ得ヘキトキハ證書訴訟ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得

○判決執行ノ時ニ至レハ算數上直チニ其金額ヲ確定スルコトヲ得ヘキ請求ハ民事訴訟法第四百八十四條ニ所謂一定ノ金額ノ支拂ヲ目的トスル

三五
二
一〇〇

三六
二
一〇四

三七
二
九六

三八
二
一三六

三九
二
一四〇

請求ニ外ナラス

○訴狀ニ爲替訴訟ノ特別事項ノ記載ヲ缺クトキト雖モ一般ノ要件ヲ具備スル場合ニハ其訴ハ通常訴訟トシテ繫屬シ權利拘束ノ效力ヲ發生スルヲ以テ爾後其特別事項ノ記載ヲ補充シ以テ爲替訴訟ニ變更スルコトヲ得ス

第四百八十五條 訴狀ニハ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ掲ケ且證書ノ原本又ハ謄本ヲ添フルコトヲ要ス

○民事訴訟法第四百八十五條ノ規定ハ請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證明スヘキ證書ノ原本又ハ謄本ヲ訴狀ニ添附スヘシトノ義ニ外ナラサレハ此要件ヲ具備スル證書ノ抄本ヲ添附スレハ足ルモノニシテ必スシモ其謄本ヲ添附スルコトヲ要スルモノニ非ス

第四百八十八條 原告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ通常ノ手續ニテ訴訟ヲ繫屬セシメテ證書訴訟ヲ止ムルコトヲ得

○證書訴訟トシテ提起シタル訴訟カ其特別要件ヲ具備セサルトキト雖モ一般訴訟要件ヲ具備スルモノナルトキハ其事件ノ權利拘束ヲ生スルコトヲ妨ケサルヲ以テ若シ原告カ更ニ通常訴訟手續ニ依リテ審理ヲ求メントスル場合ニ於テハ裁判所ハ其申立ニ因リ本案ニ付キ裁判ヲ爲サハ

ルヘカラス

○訴訟提起ノ時ニ於テ爲替訴訟タリシモノニシテ通常訴訟ニ變更シタルモノハ縱令其訴狀ノ方式爲替訴訟ノ要件ニ適合セサル場合ト雖モ通常訴訟ノ訴狀タル方式ニ缺クル所ナキトキハ權利拘束ノ效力ヲ生スルニ妨ケナシ

○民事訴訟法第四百八十八條ノ規定ハ之ヲ擴充シテ第二審ニ繫屬シタル證書訴訟若クハ爲替訴訟ニ適用スルコトヲ得サルモノトス

○支拂地ノ裁判所ニ爲替訴訟ヲ提起シタルトキハ之ヲ通常訴訟ニ引直スモ同裁判所ハ依然其管轄權ヲ持續スルモノトス

第四百九十一條 主張シタル請求ヲ争ヒタル被告ニハ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル總テノ場合ニ於テ其權利ノ行使ヲ留保ス可シ
判決ニ此留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ依リ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得

留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ強制執行ニ付テハ之ヲ終局判決ト看做ス

○證書訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ權利ノ行使ヲ留保スル旨ノ判決アリタルトキ被告ヨリ期日指定ノ申請ヲ爲サス判決ノ送達後一年餘ヲ經過スルトモ其事件ハ普通訴訟トシテ依然繫屬スルモノトス而シテ期日指定ノ申請ハ原告ヨリモ之ヲ爲スコトヲ得

三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
三	二	九	二	八	九	三	六
二六	九七	六	二一	二四	二六	二七	二七

第四百九十二條 被告ニ權利ノ行使ヲ留保シタルトキハ訴訟ハ通常ノ訴訟手續ニ於テ繫屬ス

此手續ニ於テ證書訴訟ヲ以テ主張シタル請求ノ理由ナカリシコトノ顯ハルルトキハ前判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ却下シ且其生セシメタル費用ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ原告ニ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂ヒ又ハ給付シタルモノノ辨濟ヲ申立ニ因リ原告ニ言渡ス可シ

右手續ニ於テ原告若クハ被告カ出頭セサルトキハ關席判決ニ關スル規定ヲ準用ス

○證書訴訟ニ於テ敗訴ノ被告ニ權利ノ行使ヲ留保スル旨ノ判決アリタルトキ被告ヨリ期日指定ノ申請ヲ爲サス判決ノ送達後一年餘ヲ經過スルトモ其事件ハ普通訴訟トシテ依然繫屬スルモノトス而シテ期日指定ノ申請ハ原告ヨリモ之ヲ爲スコトヲ得

第四百九十四條 商法ニ規定シタル手形ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張スルトキハ爲替訴訟トシテ以下二條ニ掲ケル特別ノ規定ヲ適用ス

○訴狀ニ爲替訴訟ノ特別事項ノ記載ヲ缺クトキト雖モ一般ノ要件ヲ具備スル場合ニハ其訴ハ通常訴訟トシテ繫屬シ權利拘束ノ效力ヲ發生スルヲ以テ爾後其特別事項ノ記載ヲ補充シ以テ爲替訴訟ニ變更スルコトヲ得ス

第四百九十五條 爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ起スコトヲ得

數人ノ爲替義務者カ共同ニテ訴ヲ受ク可キトキハ支拂地ノ裁判所又ハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各之ヲ管轄ス

○支拂地ノ裁判所ニ爲替訴訟ヲ提起シタルトキハ之ヲ通常訴訟ニ引直ス

三六 九七六

モ同裁判所ハ依然其管轄權ヲ持續スルモノトス

○同一ノ手形ヨリ生シタル手形債務ヲ負荷セル者二人以上アル場合ニ於テ其債權者カ各手形債務者ニ對シテ支拂命令ヲ發セラレシコトヲ申請セントスルトキハ民事訴訟法第四百九十五條第二項ニ準據シ債務者中ノ一人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ニ其申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

三六 三九七

第四百九十六條 訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケルコトヲ要ス

訴ノ許ス可キモノナルトキハ直チニ口頭辯論ノ期日ヲ定ム

口頭辯論ノ期日ト訴狀送達トノ間ニハ少ナクトモ二十四時ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス
○商法手形ノ規定ニ因ル請求ヲ證書訴訟ヲ以テ主張セントスルトキハ其訴狀ニハ一般訴狀要件ノ外尙ホ「爲替訴訟トシテ訴フル旨」ヲ掲ケ爲替訴訟ノ特別手續ニ依リテ裁判上ノ保護ヲ求ムル意思ヲ表示セサルヘカラス

三六 一三六

第六編 強制執行

第一章 總則

第五百三條 前二條ニ掲ケタル外左ノ場合ニ於テハ財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ限リ

債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

第一 債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立ツルトキ

第二 債權者カ判決ノ確定ト爲ルマテ執行ヲ中止セハ假ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受ク可キコトヲ疎明スルトキ

○控訴裁判所ニ於テ假執行ニ關スル宣言ヲ爲スニ當テハ單ニ民事訴訟法第五百九條ノ規定ノミニ止マラス第五百三條等ノ規定モ亦之ヲ適用シ得ヘキ法意ナルコトハ同第四百八條ノ規定ニ依リ自ラ明カナリ

第五百九條 第一審又ハ第二審ノ判決ニシテ假執行ノ宣言ナカリシモノ又ハ條件附ノ假執行ノ宣言アリタルモノハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立テサル部分ニ限リ口頭辯論ノ進行中ニ爲シタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ上級審ニ於テ其判決ニ假執行ノ宣言ヲ付ス可シ

○控訴裁判所ニ於テ假執行ニ關スル宣言ヲ爲スニ當テハ單ニ民事訴訟法第五百九條ノ規定ノミニ止マラス第五百三條等ノ規定モ亦之ヲ適用シ得ヘキ法意ナルコトハ同第四百八條ノ規定ニ依リ自ラ明カナリ

第五百十一條 第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ス可シ口頭辯論ノ延期ニ付テノ第四百十條ノ規定ハ此場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第二審ニ於テ假執行ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルトコトヲ得ス

○民事訴訟法第五百十一條第三項ノ規定ニ依レハ第一審判決ニ假執行ノ宣言アリテ其假執行宣言ニ付キ第二審裁判所カ裁判シタル場合ト第二審裁判所カ新ニ假執行ノ宣言ヲ爲シタル場合トヲ問ハス假執行ニ付テ第二審ノ爲シタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルトコトヲ得サルモノトス

第五百二十二條 執行文ノ付與ニ對シ債權者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若リハ之ヲ立テシメスニテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルトコトヲ得

○民事訴訟法第五百二十二條ノ執行文付與ニ對スル異議ノ申立ニ付テハ之ニ對シ終局判決ヲ以テ裁判スヘキ旨ノ規定アラサルニ因リ裁判所ハ決定ヲ以テ裁判ヲ爲スヘキモノトス

第五百四十七條 強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラルコト無シ

然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疎明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスニテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行

三五 九 一五

三五 九 一五

三五 五 六

三五 一〇 一〇〇

ヲ履行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ履行ス

○民事訴訟法第五百四十七條ニ謂フ強制執行ノ停止トハ執行力其モノヲ停止スルノ云ニ非スシテ執行手續即チ著手シタル差押ノ遂行若クハ競賣ノ如キ行爲ヲ停止スルノ謂ナリ

三六

一三〇

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ訴テ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

右訴ヲ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

○民事訴訟法第五百四十九條ハ第三者カ單純ニ強制執行ノ目的物ニ付キ自己ノ所有權ヲ主張スル場合ノミナラス自己ノ所有權ヲ基礎トシテ形式上之ニ附加セル負擔ヲ排除セントスル場合ヲモ包含スルモノトス

第五百五十條 強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ

第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言

シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本

第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三 執行ヲ免カラルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

○民事訴訟法第五百五十條第一號ノ中段以下ニ「又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本」トアル規定ハ強制執行中物件差押ノ解放ヲ命スル旨ヲ記載シタル執行力アル判決ノ正本ヲモ包含スヘキ法意ナリ

第五百五十八條 強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○不動産競賣開始決定ヲ不當ナリトスル場合ハ即チ強制執行ノ手續ニ付

三五

二五八

三五

五

三三

キ口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ニ對スル不服ノ申立ナレハ民事訴訟法第五百五十八條ノ規定ニ依リ即時抗告ヲ以テスルコトヲ得ヘキモノトス

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

第五百六十六條 債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス

其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスルトキニ限リ其效力ヲ生ス

執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知ス可シ

第五百六十七條 前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

○執達吏ハ債權者ノ指示ニ從ヒ或物件ヲ債務者ノ占有シ居ル所有物ナリト認メテ假差押ヲ爲シタル後確定判決ニ依リ該物件ノ所有第三者ニ屬スルコトヲ認メラレタルトキハ執達吏ニ於テ委任行爲ヲ實行スルニ當

リ委任者ノ指示ニ從ヒ物件ノ所有者ヲ誤認シタルニ過キスシテ法規ニ違背セル假差押ヲ爲シタルモノニ非ス

第五百八十九條 民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ實得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

○配當要求ノ原因タル債權證書ハ確定日附アルヲ要セスシテ配當ノ結果間接ニ第三者ニ對シ其效力ヲ及ホスモノトス

○配當ヲ要求スル債權ニ對シ債務者力之ヲ認メテ爭ハサル場合ニ於テ其債權ヲ虚偽ナリ不成立ナリト主張スル第三者ハ之ヲ立證スル責任アリ

第五百九十二條 配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

○民事訴訟法第五百九十二條ノ規定ハ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スルモノト否トヲ區別セサルニ因リ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル者モ亦同條ニ依リ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナリ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第六百條 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラシコトヲ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

民事訴訟法 第五百八十九條 第五百九十二條 第六百條

三五 二〇 二〇

三五 二 九

三五 二 九

三五 二 九

○約束手形ノ如キ裏書ヲ以テ移轉シ得ル證券ニ因ル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノナレハ若シ執達吏カ證券ヲ占有シテ差押ヲ爲シタル事實ナキニ拘ハラズ執行裁判所ニ於テ轉付命令ヲ發シタルトキハ其命令ハ轉付ノ效力ヲ生スルコトナシ

第六百三條 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因ル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス

○約束手形ノ如キ裏書ヲ以テ移轉シ得ル證券ニ因ル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲スヘキモノナレハ若シ執達吏カ證券ヲ占有シテ差押ヲ爲シタル事實ナキニ拘ハラズ執行裁判所ニ於テ轉付命令ヲ發シタルトキハ其命令ハ轉付ノ效力ヲ生スルコトナシ

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第二款 強制競賣

第六百四十八條 左ニ掲グル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出チ爲シタル者

○民事訴訟法第六百四十八條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アル不動産上權利者トハ不動産上ニ物權ヲ有スル者即チ抵當權者又ハ質權者ノ如キヲ指稱セルモノニシテ賃借人ハ之ニ包含セス

第四章 假差押及ヒ假處分

○假差押ナルモノハ金錢ノ債權ノ強制執行ヲ保全スルヲ目的トスヘキモノナルカ故ニ其金錢ノ債權ニシテ確定スルニ至レハ假差押ハ之ヲ解除セスシテ直チニ強制執行ニ移リ即チ本差押ニ變更シ之ヲ續行スルヲ得ヘキモノトス

○假處分ハ假差押ト異ナリ原告ノ地位ニ立ツ者ナルト被告ノ地位ニ立ツ者ナルトヲ問ハス之カ申請ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其性質上該處分ニ係ル係争物ニ付キ雙方ノ權利ノ行使ヲ停止スヘキヲ常トス

第七百四十條 假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ケ可シ

第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示

請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

○假差押ノ申請ニ付テハ本案請求ノ趣旨ヲ表示スルヲ以テ足り請求ノ原因ハ之ヲ開示スルヲ要セス

三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七
三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一	四一
四二	四二	四二	四二
四三	四三	四三	四三
四四	四四	四四	四四
四五	四五	四五	四五
四六	四六	四六	四六
四七	四七	四七	四七
四八	四八	四八	四八
四九	四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇	五〇
五一	五一	五一	五一
五二	五二	五二	五二
五三	五三	五三	五三
五四	五四	五四	五四
五五	五五	五五	五五
五六	五六	五六	五六
五七	五七	五七	五七
五八	五八	五八	五八
五九	五九	五九	五九
六〇	六〇	六〇	六〇
六一	六一	六一	六一
六二	六二	六二	六二
六三	六三	六三	六三
六四	六四	六四	六四
六五	六五	六五	六五
六六	六六	六六	六六
六七	六七	六七	六七
六八	六八	六八	六八
六九	六九	六九	六九
七〇	七〇	七〇	七〇
七一	七一	七一	七一
七二	七二	七二	七二
七三	七三	七三	七三
七四	七四	七四	七四
七五	七五	七五	七五
七六	七六	七六	七六
七七	七七	七七	七七
七八	七八	七八	七八
七九	七九	七九	七九
八〇	八〇	八〇	八〇
八一	八一	八一	八一
八二	八二	八二	八二
八三	八三	八三	八三
八四	八四	八四	八四
八五	八五	八五	八五
八六	八六	八六	八六
八七	八七	八七	八七
八八	八八	八八	八八
八九	八九	八九	八九
九〇	九〇	九〇	九〇
九一	九一	九一	九一
九二	九二	九二	九二
九三	九三	九三	九三
九四	九四	九四	九四
九五	九五	九五	九五
九六	九六	九六	九六
九七	九七	九七	九七
九八	九八	九八	九八
九九	九九	九九	九九
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

第七百四十一條 假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
請求又ハ假差押ノ理由ヲ疏明セザルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ
爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差
押ヲ命スルコトヲ得

又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ疏明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命
スルコトヲ得
保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコ
トヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ

○民事訴訟法第七百四十一條第二項ニアル假差押ニ因リ債務者ニ生スヘ
キ損害トハ單ニ假差押ノ爲メニ生シタル訴訟費用及ヒ執行費用ヲ指ス
ノミナラス不當ナル假差押ノ爲メニ生シタル總テノ損害ヲ指スモノト
ス

○然レトモ不當ノ假差押ニ付テハ民事訴訟法ハ法律上ノ效果トシテ訴訟
費用執行費用及ヒ假差押物ヲ債務者ノ占有ニ復歸セシムル爲メノ費用
ヲ債權者ニ支拂ハシムルニ過キス

○債務者ニ於テ債權者ニ對シ前項以外ノ損害ヲ請求セント欲セハ宜シク
原告トシテ債權者ノ爲シタル假差押カ故意又ハ過失ニ出テタルコトヲ
立證セザルヘカラス然ラサレハ民法ノ規定ニ基キ債權者ニ賠償責任ヲ

生セシムルコトヲ得ス

第七百五十五條 係争物ニ關スル假處分ハ現状ノ變更ニ因リ當事者一方ノ權利ノ實行ヲ
爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

○假處分申請ノ當否ハ一ニ權利ヲ實行セントスル當時ノ現状如何ニ因リ
決定スヘキモノナルヲ以テ時期ヲ異ニスルトキハ當事者ニ於テ同一權
利ノ實行ニ關シ再三假處分ノ申請ヲ爲シ得ヘク斯ル場合ニハ其申請事
件ハ各箇相特立スルモノニシテ同一事件ニ非ス

○假處分ハ假差押ト異ナリ原告ノ地位ニ立ツ者ナルト被告ノ地位ニ立ツ
者ナルトヲ問ハス之カ申請ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其性質上該處分ニ
係ル係争物ニ付キ雙方ノ權利ノ行使ヲ停止スヘキヲ常トス

第七百五十九條 特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコト
ヲ得

○如何ナル事情カ民事訴訟法第七百五十九條ニ規定スル特別ノ事情ナル
ヤハ一ニ事實承審官ノ査定ニ依ルヘキモノトス

第七百六十條 假處分ハ争アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコト
ヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ
防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

○執行力アル公正證書ヲ以テ抵當權ヲ設定シタル債務者カ強制執行ノ着

三五二 二六

三五二 二六

三五二 二六

三六 四九

三六 一〇四

三五 四 一六

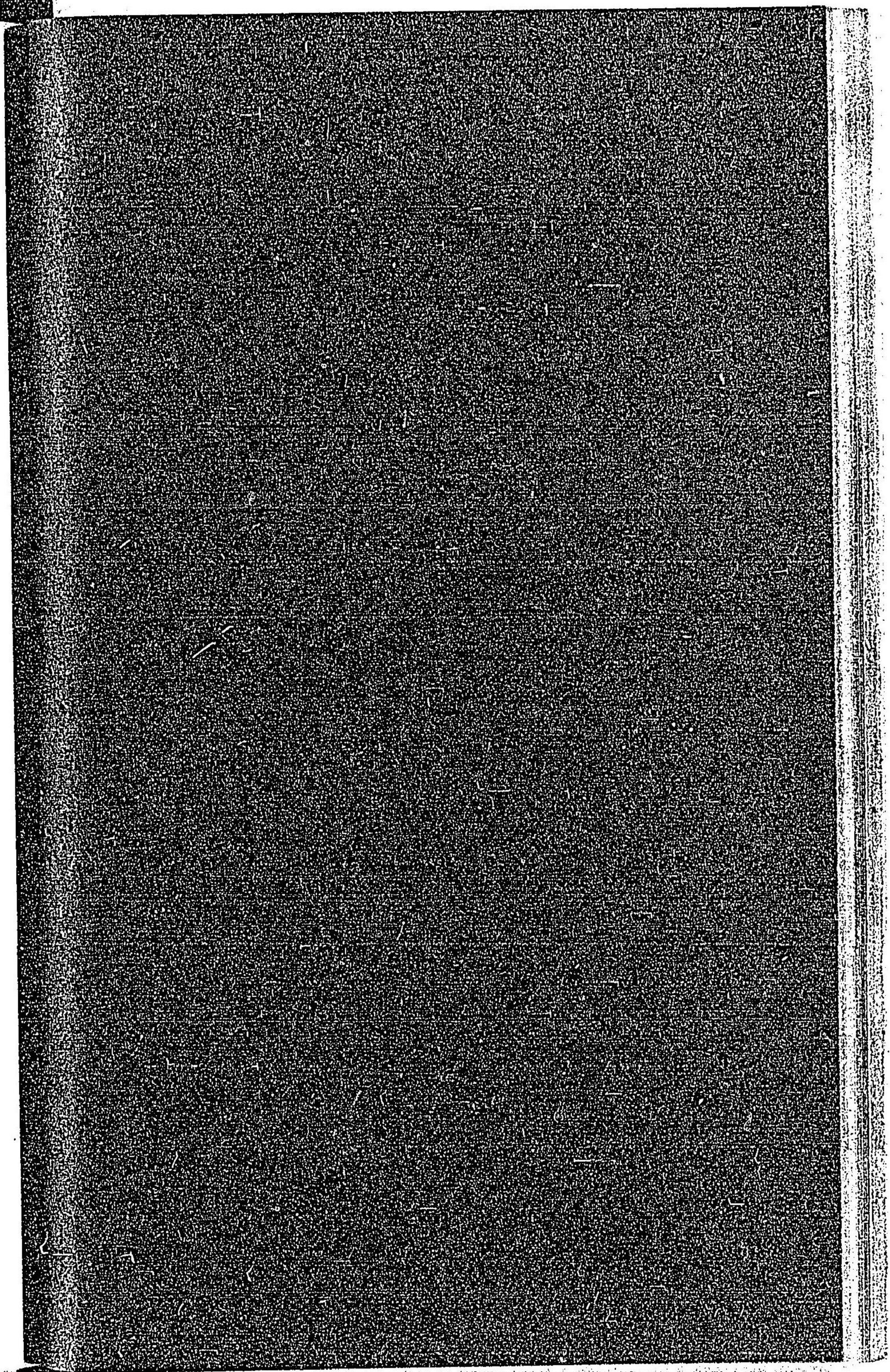
手ナキ以前其債權者ニ對シ抵當無効ノ確認並ニ抵當登記ノ抹消ヲ請求
セントスルトキハ民事訴訟法第七百六十條ノ規定ニ從ヒ強制執行ヲ爲
スヘカラサル旨ノ假處分ヲ申請スルコトヲ得

三五

一〇

一九三

諸
法
令



衆議院議員選舉法

第十一條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

- 一 禁治産者及進禁治産者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散者ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 剝奪公權者及停止公權者
- 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

○衆議院議員選舉法第十一條ハ選舉ノ時ニ當リ選舉權若クハ被選舉權ヲ有スヘキ者ノ資格ニ關スル規定ナルヲ以テ選舉終了ノ後ニ於テ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ同條第四號ノ規定中ニ包含セラレヘキニ非ス

第七十六條 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選舉若ハ當選無効トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

○選舉訴訟ノ判決ニ依リ選舉無効ト爲リタルトキハ地方長官ハ當選證書ヲ取消スヘキモノナレハ其判決ノ結果カ當選者ニ法律上直接ノ效力ヲ及ホスコト明確ナルヲ以テ該訴訟ニ於ケル當選者ハ民事訴訟法第五十三條ニ所謂權利上利害ノ關係ヲ有スルモノニ該當ス

第八十條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

○選舉長ニ屬スル權利ノ如キハ固ヨリ選舉長タル資格ニ專屬スルモノニシテ其資格ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得サルヤ勿論ナレハ民事訴訟法第五十八條ノ規定ノ如キハ之ヲ選舉訴訟ニ準用スヘキモノニ非ス

第一百條 當選人其ノ選舉ニ關シ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

○當選者ハ選舉訴訟若クハ當選訴訟ノ判決其他選舉ニ關スル處罰ノ結果當選ノ無効ニ歸スルニ依テ始メテ其議員タル資格ヲ失ヒ從テ之ニ屬スル權利ヲ失フニ止マリ選舉訴訟ノ提起アリタルカ爲メ直チニ其資格ニ屬スル權利ヲ失フモノニ非ス

第一百八條 選舉人名簿ニ關スル訴訟、選舉訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

○衆議院議員選舉法第八條ハ選舉訴訟ニ付テハ民事訴訟法中其性質上準用ヲ許サ、ル規定ヲ除キ他ノ規定ハ總テ之ヲ準用スルノ法意ナリ故ニ從參加ヲ爲スノ權能ヲ與ヘタル民事訴訟法第五十三條ノ如キモ亦該

訴訟ニ準用スヘキモノトス

○選舉訴訟ニ於テ選舉無効ナリト確定スルトキハ當選者ハ其議員タルノ權利ヲ喪失スルヲ以テ即チ其訴訟ニ關シ權利上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナリトス

明治二十二年法律第三號衆議院議員

選舉法(明治三十三年法律第七十三號) (衆議院議員選舉法ニ依リ廢止)

(參照)

衆議院議員ノ被選人タルヘキモノハ選舉人名簿調製前現ニ法定ノ國稅ヲ納メ仍ホ引續キ之ヲ納ムル者ニ限リ後日錯誤等ノ名義ヲ以テ國稅ヲ追納スルモ其資格ヲ補充スルヲ得ス

裁判所構成法

第二條 通常裁判所ニ於テハ民事刑事事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此ノ限ニ在ラス

○寺院ノ住職任免ノ當否ヲ判斷スルコトハ司法裁判所ノ職權ニ屬セスト雖モ主タル私權上ノ争ニ住職任免ノ當否ノ如キ争ノ加ハルトキハ司法裁判所ニ於テ此争ヲ豫斷スルコトヲ得ルモノトス

三五	三五	三五	三五
三	一	一〇	一〇
八二	二六	七二	三三

○水路浚渫ニ關スル水利組合管理者等ノ處分ハ行政上ノ處分行爲ニシテ
 上級行政廳ノ監督ニ屬ス故ニ斯ル處分ニ對シ互ニ不服アレハ水利組合
 條例第四十六條ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ司法裁判所ノ管轄ニ屬ス
 ヘキモノニ非ス

○漁業者間ニ於ケル漁場ノ區域漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付テノ爭
 議ハ行政官廳ノ處分ニ屬シ次テ行政裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナレ
 ハ名ヲ妨害排斥ニ籍リ司法裁判所ニ於テ訴追スルヲ許サス

○行政處分ヲ受ケサル者カ他人ニ對スル行政處分ノ爲メニ民法上ノ權利
 ヲ侵害セラレタルトキハ民事訴訟ノ方法ニ依リ其救済ヲ求メ得ルモノ
 トス

(同主旨)

行政處分ヲ受ケサル者カ他人ニ對スル行政處分ノ爲メニ民法上ノ權利ヲ侵害セラレタル
 トキハ民事訴訟ノ手段ニ依リテ其救済ヲ求メ得ルヲ以テ通例トス

第十條 法律ヲ以テ特定シタルモノヲ除外ノ場合ニ於テ適當ノ申請アルトキハ關係
 アル各裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁
 判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第一 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコ
 トヲ得ス且此ノ法律第十三條ニ依リ之ニ代ルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦

之ヲ行フコトヲ得サルトキ

第二 裁判所管轄區域ノ境界明確ナラサルカ爲其ノ權限ニ付疑ヲ生シタルトキ

第三 法律ニ從ヒ又ハ二以上ノ確定判決ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルト

キ

第四 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定判決ヲ爲シ又ハ權限ヲ有セストノ確定

判決ヲ受ケタルモ其ノ裁判所ノ一ニ於テ裁判權ヲ行フヘキトキ

○被告カ第一審裁判所ノ判決ヲ不當トシ控訴ヲ爲セシニ控訴裁判所ハ差
 戻ノ判決ヲ下シタルモ第一審裁判所ハ其判旨ニ從ヒテ審理判決ヲ爲サ
 ス控訴裁判所モ亦第一審裁判所カ差戻後未タ其點ニ付キ判決ヲ爲サ
 ルモノトシテ再度ノ控訴ヲ棄却シタルヲ以テ更ニ第一審裁判所ニ對シ
 本案ノ口頭辯論期日指定ノ申請ヲ爲シタルニ裁判スヘキ部分ナシトシ
 テ却下セラレ該決定ニ對スル抗告モ亦棄却セラレタル場合ハ裁判所構
 成法第十條第四號ノ規定ニ該當セス

第二十五條 地方裁判所ノ判事差支ノ爲或ル事件ヲ取扱フコトヲ得ス且同裁判所ノ判事
 中其ノ代理ヲ爲シ得ヘキ者ナキ場合ニ於テ其ノ事件緊急ナリト認ムルトキハ裁判所長
 ハ其ノ管轄區域内ノ區裁判所判事又ハ豫備判事ニ其ノ代理ヲ命スルコトヲ得

○地方裁判所支部ナルモノハ其本部タル地方裁判所ノ一部ニ過キスシテ
 獨立シタル裁判所ニ非スト雖モ其判事差支アルトキニ於ケル代理順序

三五 一〇 一六

三五 七 七

三五 一〇 五

三五 八 五

三六

九六三

ハ裁判所構成法第三十二條ニ依リ同法第二十五條ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ムヘキモノトス

第二編 第五章 執達吏

○執達吏ハ官吏ニシテ且當事者ノ代理人タルニ箇ノ資格ヲ有ス

第百五條 裁判所ニ於テ對審ノ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ハ其ノ理由ト共ニ公衆ヲ退カシムル前之ヲ言渡ス此ノ場合ニ於テ裁判所ノ判決ヲ言渡ストキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシムヘシ

○判決ノ言渡ハ裁判所構成法第百五條ニ依リ常ニ公行スルモノトス

第百十五條 裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ヅ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用キルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ヅ

○裁判所カ判決文中ニ外國文書ヲ引證スルニ當リ外國文ヲ採用スルノ必要ナル場合ニ於テ之ニ基キタル判斷ヲ開示スルニハ邦語及ヒ邦文ヲ以テセサルヘカラス

法例

第一條 法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

臺灣、北海道、沖縄縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

○法律ハ之ヲ施行スルニ先チ人民ヲシテ知ラシムル爲メニ之ヲ公布スルヲ通例ト爲スカ故ニ反證ナキ限りハ人民ハ法律ヲ知リテ法律行爲ヲ爲シタルモノト推定スルヲ通例トス

第十六條 離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

○離婚ノ訴訟ニ於テ起訴者カ請求ノ原因トシテ主張スル事實ハ果シテ夫ノ本國法ニ於テ離婚ノ原因ト認ムルモノナルヤ否ヤヲ判斷スルニ當リ若シ該國法上相手方カ惡意ヲ以テ起訴者ヲ遺棄シタルコトヲ必要トセハ其惡意ノ有無ノ如キハ固ヨリ右ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス

民法施行法

第一條 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

○民法實施前ニ生シタル借地關係ノ借地料増加ノ要求ニ付テハ民法施行法第一條ニ依リ民法ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ス

三五	三六	三五	三五	三五	三五
六	六	二六九	二六九	一	二〇
六	六	二六九	二六九	一	二〇

第二十三條、第二十五條乃至第三十二條及七前條ノ規定ハ前項ノ會社ニ之ヲ準用ス

○新商法施行前ニ設立セラレタル合資會社ノ解散前ニ於テ出資ノ催告ヲ受ケタルニ拘ハラズ出資ヲ爲サル社員ニ對シ清算人カ該出資ノ請求ヲ爲スハ會社ノ未收ノ債權ヲ行用スルニ外ナラス隨テ此場合ニハ商法施行法第三十八條ニ依リ舊商法第三百七條及ヒ第三百三十條ノ規定ヲ適用スヘキモノニシテ清算人ハ會社ニ現存スル財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルニ足ラサル事實ヲ立證スルヲ要セス

第三百三十八條

明治二十三年法律第三十二號商法第九百七十八條ヲ左ノ如ク改ム

商人カ支拂ヲ停止シタルトキハ裁判所ハ本人又ハ債權者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得此裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○破産宣告ニ對スル抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有セス

刑事訴訟法

三六

三四〇

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

要證ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

○刑事訴訟法第十三條ハ告訴告發等ニ關シ特別ニ損害賠償ノ責任ヲ定メタル法條ニシテ一般ノ賠償責任ヲ定メタル民法第七百九條ト抵觸スルモノニ非サルカ故ニ民法實施ノ後ト雖モ依然其效力ヲ有スルコト勿論ナリ

三五

九七

第二百九十條 上告裁判所ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲スコキトキハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ指定ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ其裁判所ノ民事部ニ移ス可シ

○大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百九十條ニ依リ私訴事件ノ判決ヲ破毀シテ控訴裁判所ノ民事部ニ移送シタルトキハ同裁判所ハ普通ノ民事事件トシ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ審判スヘキモノトス

三五

五四

民事訴訟用印紙法

民事訴訟用印紙法第六條第三號ニハ單ニ證據調ノ申立トアルノミニテ

三四年九卷
五六頁

同法官判例
二八年三卷
一六頁

其申立ニハ同時ニ數箇ノ證據方法ヲ包含スルト否トヲ區別スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ同一ノ申立ニ數箇ノ證據方法ヲ包含スルトキト雖モ五拾錢ノ收入印紙ヲ貼用スレハ適法ナルモノトス
○下級審ニ於テ民事訴訟用印紙ヲ貼用スヘキ書面ニ之ヲ貼用セス若クハ其貼用不足ナリシトキト雖モ上級審ニ至リ之ヲ貼用シテ其欠缺ヲ補充スレハ遡テ該書面ヲ有效ナラシムルコトヲ得ヘキモノトス

非訟事件手續法

○非訟事件手續法第二百一十一條第一項ノ登記ハ理事全員ノ申請ヲ要セス其内一名ニテモ之ヲ爲シ得ルノ律意ナリトス
○破産宣告ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第三編第三章ノ手續ニ依リ審理スヘキモノニシテ非訟事件手續法ニ遵由スヘキモノニ非サレハ該抗告ノ口頭辯論ハ之ヲ公開スルヲ通例トス
○非訟事件手續法第十條ハ同法中ニ規定シタル期間ニ適用スルコトヲ得ルニ止マリ商法ニ規定セル登記期間ニ適用スルヲ得ス

人事訴訟手續法

○準禁治産ノ宣告決定ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起スル者ハ縱令其決定ニ掲記セラレタル申立人以外ニ尙ホ申立人アル場合ト雖モ決定ニ掲記セラレタル申立人ノミヲ相手方ト爲スヘキモノニシテ其他ノ申立人ヲ相手方ト爲スヘキモノニ非ス
○家督相續無効ノ確認ヲ請求シタル後一定人申立ノ補充訂正ト稱シテ隱居無効ノ確認ヲ併セテ請求スルハ人事訴訟手續法第七條第二項ノ規定ニ違背シタル不適法ノ訴ナリトス

家資分散法

○家資分散ノ決定ニ對シテハ家資分散法第一條第三項ニ由リ即時抗告ヲ爲スヲ得ヘク其期間ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ七日ナリトス
○家資分散ハ民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテ宣告スヘキモノナレハ其決定ニ對スル抗告ハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヘキモノトス

利息制限法

○利息トハ元本ノ使用ノ對價トシテ債務者カ債權者ニ支拂フヘキモノトス

家資分散法 利息制限法

三五	三五	三五	三五	三五	三五
五	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一	一一	一一	一一	一一	一一
一二	一二	一二	一二	一二	一二
一三	一三	一三	一三	一三	一三
一四	一四	一四	一四	一四	一四
一五	一五	一五	一五	一五	一五
一六	一六	一六	一六	一六	一六
一七	一七	一七	一七	一七	一七
一八	一八	一八	一八	一八	一八
一九	一九	一九	一九	一九	一九
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二一	二一	二一	二一	二一	二一
二二	二二	二二	二二	二二	二二
二三	二三	二三	二三	二三	二三
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
三一	三一	三一	三一	三一	三一
三二	三二	三二	三二	三二	三二
三三	三三	三三	三三	三三	三三
三四	三四	三四	三四	三四	三四
三五	三五	三五	三五	三五	三五
三六	三六	三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七	三七	三七
三八	三八	三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一	四一	四一	四一
四二	四二	四二	四二	四二	四二
四三	四三	四三	四三	四三	四三
四四	四四	四四	四四	四四	四四
四五	四五	四五	四五	四五	四五
四六	四六	四六	四六	四六	四六
四七	四七	四七	四七	四七	四七
四八	四八	四八	四八	四八	四八
四九	四九	四九	四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
五一	五一	五一	五一	五一	五一
五二	五二	五二	五二	五二	五二
五三	五三	五三	五三	五三	五三
五四	五四	五四	五四	五四	五四
五五	五五	五五	五五	五五	五五
五六	五六	五六	五六	五六	五六
五七	五七	五七	五七	五七	五七
五八	五八	五八	五八	五八	五八
五九	五九	五九	五九	五九	五九
六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
六一	六一	六一	六一	六一	六一
六二	六二	六二	六二	六二	六二
六三	六三	六三	六三	六三	六三
六四	六四	六四	六四	六四	六四
六五	六五	六五	六五	六五	六五
六六	六六	六六	六六	六六	六六
六七	六七	六七	六七	六七	六七
六八	六八	六八	六八	六八	六八
六九	六九	六九	六九	六九	六九
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
七一	七一	七一	七一	七一	七一
七二	七二	七二	七二	七二	七二
七三	七三	七三	七三	七三	七三
七四	七四	七四	七四	七四	七四
七五	七五	七五	七五	七五	七五
七六	七六	七六	七六	七六	七六
七七	七七	七七	七七	七七	七七
七八	七八	七八	七八	七八	七八
七九	七九	七九	七九	七九	七九
八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
八一	八一	八一	八一	八一	八一
八二	八二	八二	八二	八二	八二
八三	八三	八三	八三	八三	八三
八四	八四	八四	八四	八四	八四
八五	八五	八五	八五	八五	八五
八六	八六	八六	八六	八六	八六
八七	八七	八七	八七	八七	八七
八八	八八	八八	八八	八八	八八
八九	八九	八九	八九	八九	八九
九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇
九一	九一	九一	九一	九一	九一
九二	九二	九二	九二	九二	九二
九三	九三	九三	九三	九三	九三
九四	九四	九四	九四	九四	九四
九五	九五	九五	九五	九五	九五
九六	九六	九六	九六	九六	九六
九七	九七	九七	九七	九七	九七
九八	九八	九八	九八	九八	九八
九九	九九	九九	九九	九九	九九
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

○謂ニシテ明治十年第六十六號布告利息制限法中ニモ特別ノ意義ヲ有セシメタル文詞ナキヲ以テ同法ニ所謂利息トハ元本使用ノ對價物カ金錢ナルトキノミヲ指シタルニ非サルコトヲ推知スルニ足ル

○遲滯ノ利息ヲ以テ元金トシ將來之ニ利息ヲ附スル契約ハ利息制限法ノ規定ニ違背セサル場合ニ限り其效力ヲ有シ之ニ反スル約旨ハ其違背ノ限度ニ於テハ效力ヲ生セサルモノトス

○制限外ノ利息ニ關スル契約ハ當然無効ナルヲ以テ法律上ノ充當ノ場合ニ於テ制限外ノ利息ニ付キ有效ニ充當スルコトヲ得ヘキモノト爲シタル裁判ハ不法ナリ

取引所法

○取引所ノ仲買人ハ賣主又ハ買主ノ委託ニ依リ取引當時ノ相場若クハ指直ニ從ヒ賣込又ハ買付ヲ爲スモノナルカ故ニ同一ノ仲買人カ同時ニ同一物ニ付キ賣主買主雙方ノ行爲ヲ攝行スルモ之カ爲メ雙方ノ利害ニ影響ヲ及ホス恐ナシ

○注文者ト其注文ヲ受ケタル取引所仲買人トノ關係ハ一種特別ノ委任關係ナルヲ以テ普通委任ノ法則ノミニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

三五	三五	三五	三五	三五
七	五	九	五	四
二五	一九	二四	七	三

ルコトヲ得

代理ニ關ル第二十五條ハ支部ニモ亦之ヲ適用ス

○支部ハ其地方裁判所ノ一部ニシテ獨立シテ一管轄ヲ爲スモノニ非ス(裁判所構成法第三十一條)從テ豫審終結決定ヲ以テ支部ノ公判ニ移シタル事件ヲ其本廳タル地方裁判所ニ於テ審判スルモ管轄違ナリト云フヲ得ス

三六

一〇五

第四百十五條

裁判所ニ於テハ日本語ヲ用ユ

當事者證人又ハ鑑定人ノ中日本語ニ通セサル者アルトキハ訴訟法又ハ特別法ニ通事ヲ用非ルコトヲ要スル場合ニ於テ之ヲ用ユ

○裁判所カ審問ノ際バイブ、ハンカチーフノ如キ我國一般常用ノ外國語ノ名詞ヲ雜ヘタリトスルモ之ヲ以テ裁判所構成法第百十五條ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

三五

七

五〇

民法

第四十四條 法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍内ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其事項ノ議決ヲ賛成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其賠償ノ責

ニ任ス

○法人ノ理事其他ノ代理人若クハ其被用者カ職務ノ執行ニ付キ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキハ之ヨリ生スル損害ハ法人ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務アルモノトス從テ法人カ不法行為ヨリ生スル損害賠償ノ責任ヲ負フヤ否ヤハ理事代理人又ハ被用者カ其職務ノ執行上他人ノ權利ヲ侵害シタルヤ否ヤニ因リテ定マルモノニシテ理事代理人又ハ被用者ノ故意若クハ過失ハ直チニ法人ニ對シテ其效力ヲ生スルモノトス

第九十條 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス

○日本ノ船舶ハ日本臣民ノミ所有シ得ヘク外國人ハ日本船舶ノ單獨ノ所有者タルコト能ハサルハ勿論日本船舶ノ共有者トシテ其持分ヲモ所有スルコト能ハス(船舶法第一條)從テ日本臣民カ其所有スル船舶ヲ日本ノ船舶トシテ外國人ト共有スヘキ契約ヲ爲スモ其契約ハ國法上日本船舶タルノ資格ナキ内外人ノ共有船舶ヲ日本船舶タラシムルノ效ヲ生セサルノミナラス公益上ノ理由ニ基ク國法ノ禁令ヲ回避スルヲ目的トスル不法ノモノナレハ所謂公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ニ該當シ全然無効ニシテ何等ノ效力ヲ生セサルモノトス

第九十四條 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○人ヲ欺罔シテ假裝ノ賣買ヲ爲スモノト誤信セシメ土地ヲ騙取シタル場合ニ於テハ其賣買ハ當事者ノ知悉セル虛偽ノ意思表示ニ出テタルモノナルヲ以テ當事者間ニ在テハ絶對ニ無効ナリトス

第九十五條 意思表示ハ法律行為ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

○架空ノ事實ヲ構造シ之ニ對シテ金員ヲ交付セシメタルトキハ被害者ハ無原因ニテ金員ヲ交付シタルコト、爲ルヲ以テ意思表示ノ要素ニ錯誤アリタルモノトス從テ其意思表示ハ當然無効ナリ

第九十六條 詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示ハ之ヲ取消スコトヲ得

或人ニ對スル意思表示ニ付キ第三者カ詐欺ヲ行ヒタル場合ニ於テハ相手方カ其事實ヲ知リタルトキニ限り其意思表示ヲ取消スコトヲ得

○意思表示カ詐欺取財ノ手段タル場合ト雖モ尙ホ意思表示トシテ其效ヲ生シ唯被害者ニ於テ詐欺ヲ理由トシ之ヲ取消スコトヲ得ルニ過キス從テ詐欺ニ因ル意思表示ノ取消ノ效力ニ關スル民法第九十六條末項ノ規定ハ此場合ニ於テモ適用セラルヘキヲ以テ取消ノ效果ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

同主判例
三二年六卷
六頁

三六
八四九

三六
八八〇

三六
二六一

三六
一七一

三六
五二五

○名ヲ契約ニ假託シテ爲シタル詐欺取財ニ付キ數人ノ共犯者アル場合ニ單ニ其中ノ或者ノミ契約當事者トシテ意思ノ表示ヲ爲シ他ノ者ハ直接ニ其契約ニ關與セザリシトキハ契約取消ノ意思表示ハ契約ノ當事者トシテ意思ノ表示ヲ爲シタル犯人ニ對シテノミ之ヲ爲スヲ以テ足ル從テ自餘ノ犯人ニ對シテ之ヲ爲スノ要ナシ

第二百七條 他人ノ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其代理權ヲ證明スルコト能ハス且本人ノ追認ヲ得ザリシトキハ相手方ノ選擇ニ從ヒ之ニ對シテ履行又ハ損害賠償ノ責任ス
前項ノ規定ハ相手方カ代理權ナキコトヲ知リタルトキ若クハ過失ニ因リテ之ヲ知ラザリシトキ又ハ代理人トシテ契約ヲ爲シタル者カ其能力ヲ有セザリシトキハ之ヲ適用セ

○代理權ナキ者ト雖モ代理權アリトシテ契約ヲ爲シタルトキハ履行又ハ損害賠償ノ責任スルヲ以テ本則トス從テ此等ノ證書ヲ以テ形式上無効無價値ノ物ト云フヲ得ス

第二百七條 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○民法第七十七條ニ所謂「第三者」トハ不動産其物ノ上ニ行ハル、特種ノ權利ヲ有スルカ爲メ不動産上物權ノ得喪變更ニ付キ利害關係ヲ有ス

ル者ノミヲ指稱スルモノトス從テ不動産其物ニ付キ何等ノ權利ヲ有セサル者ハ同條ニ所謂「第三者」中ニ包含セズ

第二百九十二條 平穩且公然ニ動産ノ占有ヲ始メタル者カ善意ニシテ且過失ナキトキハ即時ニ其動産ノ上ニ行使スル權利ヲ取得ス

○民法第九十二條ハ占有物カ占有ノ當初ヨリ動産タリシ場合ノ規定ナリトス從テ其占有物ニシテ當初不動産タリシ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

第二百九十三條 前條ノ場合ニ於テ占有物カ盜品又ハ遺失物ナルトキハ被害者又ハ遺失主ハ盜難又ハ遺失ノ時ヨリ二年間占有者ニ對シテ其物ノ回復ヲ請求スルコトヲ得

○民法第九十三條ノ盜品又ハ遺失物中ニハ當然通貨ヲ包含ス

○金錢ノ如キ通貨ニシテ盜品タリシ場合ニ於テハ常ニ他ノ動産ト均シク被害者ニ其回復請求ノ權利アルコトハ民法實施前ニ於テ認メラレタル判例ナリトス

第二百四十三條 各別ノ所有者ニ屬スル數個ノ動産カ附合ニ因リ毀損スルニ非サレハ之ヲ分離スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其合成物ノ所有權ハ主タル動産ノ所有者ニ屬ス分離ノ爲メ過分ノ費用ヲ要スルトキ亦同シ

第二百四十四條 附合シタル動産ニ付キ主從ノ區別ヲ爲スコト能ハサルトキハ各動産ノ所有者ハ其附合ノ當時ニ於ケル價格ノニ應シテ 成物ヲ共有ス

三六	三五	三五	三五
七五九		九	九
		五	五

三六	三五
二四七九	八
	七

第二百四十五條 前二條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル物カ混和シテ識別スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ之ヲ準用ス

○數人ヨリ騙取シタル金錢ノ一部カ被告ノ手ニ存在セシ爲メ贓物トシテ差押ヘラレタルトキハ被害者ハ民法第二百四十五條ノ規定ニ從ヒ騙取セラレタル金額ノ割合ヲ以テ之ヲ共有スルモノトス

第三編 第二章 第三節 賣買

○名ハ土地賣買ナルモ其實犯罪ノ手段タルニ於テハ其賣買ハ絶對ニ無効ニシテ民法上何等ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ此無効ノ賣買ニ基キ爲ケンタル登記モ亦無効ナリトス

第七百八條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

反對判例三
四年四卷一
七頁

○詐欺取財ノ被害者ト雖モ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

反對判例三
四年四卷一
七頁

○民法第七百八條ノ規定ハ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セララルヘキモノナリ

第七百九條 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

○法律ニ認許スル方法ニ依ラスシテ私力ヲ以テ擅ニ他人ノ行爲不行爲ヲ強制スルハ縱令實體上ニ於テ其行爲不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ有スル場合ト雖モ他人ノ權利ヲ侵害スル不法ノ行爲ナリトス

○甲カ權利ナクシテ乙ノ所有地内ニ建設シタル土藏ニシテ甲ニ於テ之ヲ收去スルノ義務ヲ負フ場合ニ在テハ其土藏ハ一ノ不動産トシテ何等ノ價值ヲ有スルモノニ非ス從テ縱令乙ニ於テ不法ニ之ヲ取毀テタルニモセヨ乙ニ對シ其價格全部ノ賠償ヲ命シタル判決ハ不法ナリ

第七百十條 他人ノ身體、自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

○夫ハ妻ニ對シ貞操ヲ守ラシムル權アルモノナレハ其妻ト姦シタル者ハ本夫ノ夫權ヲ侵害シタルモノナリ從テ夫權ノ損害ニ對スル賠償ヲ爲スノ義務アルモノトス

民法施行法

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社、寺院、祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セズ

○民法施行法第二十八條ハ神社寺院等ヲ以テ人格ナキモノト爲シタル趣

三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三
三	三	三	三

三	三	三
三	三	三
三	三	三
三	三	三

旨ニ非スシテ神社寺院等ハ人格アルモ之ニ對シテハ當分ノ内法人ニ關スル民法ノ規定ヲ適用セストノ趣旨ナリトス

第三十七條 民法又ハ不動産登記法ノ規定ニ依リ登記スヘキ權利ハ從來登記ナクシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘカリシモノト雖モ民法施行ノ日ヨリ一年內ニ之ヲ登記スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

○民法施行法第三十七條ハ從來ノ慣習上登記ヲ要セスシテ第三者ニ對抗スルコトヲ得タルモノ即チ地上權永小作權ノ類ニ付テ規定シタルモノニシテ所有權保存登記ノ如キハ同條ノ目的トスル所ニ非ス從テ保存登記ヲ爲サル所有者ヲ目シテ同條ノ手續ヲ怠リタル過失者ナリト云フヲ得ス

商法(明治二十三年法律第三十二號)

第五十二條 前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行爲ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行爲ヲ破産者ノ利益ノ爲メニ行ヒタル者ニモ之ヲ適用ス

○商法第五十二條ニ所謂會社ノ業務擔當ノ任アル社員トハ業務擔當ノ權限ヲ有スル社員ノ謂ナリトス從テ其權限ヲ有セサル社員ニシテ業務ヲ執リタル事實アリトスルモ商法第五十條同第五十一條ノ罰則ヲ

適用スヘキモノニ非ス

○債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ其決定ノ確定シタル事實アル以上ハ其決定ノ果シテ眞實ニ適合スルヤ否ヤハ過怠破産罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシトス

○商法第五十二條ニ因リ有罪破産ノ責罰ヲ受クヘキ者ハ會社カ破産宣告ヲ受ケタル場合ニ其支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ニ於テ債權者ヲ害スヘキ不當ノ行爲ヲ爲シタル代表者ナリトス從テ既ニ不當ノ行爲ヲ爲シタル以上ハ會社カ破産宣告ヲ受ケタル當時其代表者ニ非サリシトキト雖モ自ラ爲シタル不法行爲ノ責罰ヲ免カル、ヲ得ス

商法施行法

第九十四條 私設鐵道株式會社ニハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例ノ改正ニ至ルマテ舊商法及ヒ其附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス(明治二十三年法律第六十四號ヲ以テ私設鐵道法發布ニ因リ消滅)

○商法施行法第九十四條ハ同法第九十三條ノ例外規定ナリトス從テ私設鐵道株式會社ニ舊商法中會社ニ關スル罰則ヲ適用スヘキ場合ニ於テ其行爲カ私設鐵道條例改正以前ニ生シタルモノナルトキハ右例外規定タ

三

四九

三

三三六

三

二九四

三

一五九

三

一五九

ル第九十四條ニ依リ舊商法ヲ適用スヘキモノニシテ第九十三條ヲ適用スヘキモノニ非ス

民事訴訟法

第三十八條 忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス

第五十條 然レトモ總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定ス可キトキニ限り左ノ規定ヲ適用ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻撃及ヒ防禦ノ方法(證據方法ヲ包含ス)ハ他ノ共同訴訟人ノ利益ニ於テ效力生ス

共同訴訟人中ノ或ル人カ等ヒ又ハ認諾セサルトキト雖モ總テノ共同訴訟人カ悉ク等ヒ又ハ認諾セサルモノト看做ス

共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス

然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲スコキ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタル共同訴訟人ハ何時タリトモ其後ノ訴訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

○共同不法行為者ニ對シテ連帶ノ損害賠償ヲ請求スルモ其訴訟ハ民事訴訟法第五十條ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ訴訟ニ非ス

第五十一條 送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場所、年月日時、方法及ヒ受取人ノ受取證據ニ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス

受取人受取ヲ拒ミ若クハ受取證據ヲ出タスコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取證據ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ

第四百十三條第三項ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル吏員ノ報告書ヲ以テ送達ノ證ト爲スニ足ル

○送達證書ニハ送達吏ノ署名捺印ヲ爲スヲ以テ足り必スシモ其身送達吏タルコトヲ記載スルノ要ナキモノトス從テ送達證書ニ執達吏代理タルコトノ記載ナキモ無効ニ非ス

第四百六十六條 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從フ

抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲スコシ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二百五十三條、第六百八十條及ヒ第七百六十九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル抗告裁判所ニ抗告ヲ提出シタルトキハ急迫ナラスト認メタル場合ニ於テモ亦不變期間ヲ保存ス

再審ヲ求ムル訴訟ニ付テノ要件存スルトキハ不變期間ノ滿了後ト雖モ此訴ノ爲メ定メタル期間内ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

前條第一項ノ場合ニ於テハ抗告提出ノ爲メ定メタル方法ニ依リ不變期間内ニ受訴裁判

三五 五二七

三五 二四一

三五 五三八

三五 三八九

所ノ裁判ヲ求ムルコトヲ要ス受訴裁判所ハ其申請ヲ正當ト認メサルトキハ之ヲ抗告裁判所ニ送付ス可シ

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス

第五百七十九條 執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カラルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

○動産ノ強制執行ニ關スル民事訴訟法第五百七十九條ニハ「執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス」トアリ從テ執達吏カ動産ノ賣得金ヲ領收スルト同時ニ其金錢ハ債權者ニ交付セラレタルト同一ノ效力ヲ生シ其瞬間ヲ以テ該金錢ハ債權者ノ所有ニ歸シタルモノトス

府縣制

○府縣參事會ハ府縣ノ行政執行機關ニ非ス從テ府縣參事會員ハ公吏ニ非ス

○縣當局者ヨリ議案トシテ參事會ニ提出シタル以上ハ其議案カ委任事項タルト否ト又參事會ノ職務權限ニ屬スルト否トヲ問ハス縣參事會ハ之

ヲ調査シ相當ノ議決ヲ爲スヘキ職責ヲ有ス從テ縣參事會員ハ其議案調査ノ職責ナキモノト云フヲ得ス

○府縣吏員ハ府縣制第七十五條ノ規定ニ基キ置クモノニシテ雇傭關係ニ依リ雜務ニ從事スル雇員ニ非ス從テ純然タル公吏ナリトス而シテ岡山縣工手ナルモノハ右府縣制ノ規定ニ基キ訓令ヲ以テ定メタル職制上ノ職員ニシテ公吏ナリ

町村制

○村役場書記ハ町村制第七十二條ノ規定ニ依リ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌スルモノナレハ町村長ノ命アルトキハ町村長ヲ代理シ又町村長兼務ノ收入役ノ代理ヲ爲スノ職務ヲ有ス從テ書記ニシテ收入役ノ代理中其徵收シタル手数料ヲ保管セル際之ヲ竊取シタルトキハ監守盜罪ヲ構成ス

○町村組合ハ公法人ニシテ町村ナル公法人ト均シク自治團體ニ屬ス從テ之カ管理人又ハ其代理人トナリ行政事務ノ執行ヲ掌ル者ハ町村長又ハ助役ト均シク公吏ナリトス

○町村ノ收入ヲ受領スルハ一ニ町村收入役ノ權限ニ屬ス(町村制第六十二條第一項同第七十一條)從テ町村長ハ町村制上特ニ收入役ノ權限ニ

三	三七
三	一〇九
三	二二
三	二六
三	三三

三	二四
三	七〇
三	二四
三	七〇
三	二四

歸セシメアル町村収入ノ領收ニ關スル事項ニ付テハ外部ニ對シテ町村ヲ代表スルノ權限ヲ有セサルモノトス

○町村内ノ區カ其固有ノ財産ヲ所有スルトキハ其區ハ之ヲ一ノ法人トシテ其財産ノ主體タラシムルモノトス從テ財産ヲ所有スル町村内ノ區ハ獨立ノ法人ヲ組織シ之ヲ組織スル個々ノ住民ト其人格ヲ異ニスルコトハ町村制ノ精神ナリトス

○區ノ里道ハ一ノ營造物ニシテ其改修ニ關スル費用ハ區ノ支辨スヘキモノナルヲ以テ區會ノ決議スヘキ事項ニ屬ス而シテ村長ハ町村制第百十五條ニ依リ之ヲ管理スルノ職責ヲ有スルモノトス

市町村會議員選舉罰則

○市町村會議員選舉罰則第二條第二項ニ其授與ヲ受クル者云々トアルハ其第一項ノ目的ヲ以テ授與ヲ受ケタル者ヲ處罰スルノ趣旨ナリトス

郵便法

○郵便法第二條ノ罪ハ信書ノ送達ヲ以テ營業ト爲シタルニ依リ成立ス而シテ其送達賃金ヲ費消シタル事實ハ罪トナルヘキ事實ニ非サルヲ以テ

之ヲ認定シタル證據ヲ明示スルヲ要セス

○郵便電信局ノ通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ニ非ス從テ通信事務員ニシテ其監守ノ責アル郵便物ヲ竊取シタル所爲ハ郵便法第五十一條ニ依リ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘ處斷スヘキモノニシテ監守盜ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○郵便法第五十二條ノ郵便物ヲ受取人ニ非サル者ニ交付シ又ハ情ヲ知テ之ヲ受取リタル行爲ハ其行爲カ通信阻害ノ目的ニ出テタル場合ニ非サレハ之ヲ罰セサルノ法意ナリトス

移民保護法

○移民取扱人トハ移民ヲ募集シ又ハ其渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲スモノヲ謂フ(移民保護法第五條)而シテ渡航ノ方法ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ渡航者カ移民タルノ資格ヲ有スル以上ハ營業トシテ其渡航ヲ周旋シタルモノハ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタルモノトス

○營利ノ爲メ多數ノ移民ヲ募集シテ渡航セシメントテ計畫シ數回繼續ノ事業トシテ之ヲ爲スノ目的ナリシトキハ偶、一回ニシテ中止シタルモノヲ以テ營業行爲ニ非スト云フヲ得ス從テ行政廳ノ許可ヲ受ケスシ

三五	三六	三五	三五
二	二四六	三	三五
八六	五		

三五	三六	三六	三六
五	二六	二〇五	二〇六
二	二		

○間接國稅犯則者處分法第六條ノ臨檢ニ際シ云々トアルハ臨檢ノ場所ニ於テノミ犯則者及ヒ證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ得ルノ主旨ニ非スシテ臨檢ノ場所以外ニ於テモ臨檢ノ處分ニ引續キ有效ニ訊問ヲ爲スコトヲ得ルノ主旨ナリトス

○間稅官吏カ間接國稅犯則者ニ對シ告發ヲ爲スニハ間接國稅犯則者處分法第十一條ノ通告ヲ爲シタル後犯則者カ其通告ノ旨ヲ履行セサルトキニ限ル

○間接國稅犯則者處分法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルヤ否ヤヲ識別シテ同法第十一條ノ通告ヲ爲サス直チニ犯則事件ヲ告發スルト否トヲ定ムルハ間稅官吏ノ職權ニ屬ス從テ同官吏カ右通告ヲ爲サス直チニ之ヲ告發シタル以上ハ同法第十四條ニ規定シタル場合ノ一ニ該當スルモノト認メタルコトハ自ラ明カナリトス

○收稅官吏カ非現行犯ノ場合ニ於テ日沒後ニ至ルマテ臨檢搜索差押等ノ處分ヲ爲スハ間接國稅犯則者處分法第八條ニ違背スル行爲ナリトス從テ其處分ニ基キ作成シタル顛末書ハ無効ナリ

(同主旨)

收稅官吏ハ現行犯ノ場合ヲ除クノ外日沒ヨリ日出マテノ間ニ於テ臨檢搜索又ハ差押ヲ爲スコ

トヲ得ス(間接國稅犯則者處分法第八條)從テ此規定ニ背キテ爲シタル處分ニ基キ作成シタル調查顛末書ハ無効ナリトス

○裁判所ハ稅務署長カ犯則者ニ通告シタル罰金額ニ拘束セラル、モノニ非ス從テ其罰金額ヨリ重キ罰金ヲ科スルモ違法ニ非ス

○間接國稅犯則者處分法第三條ハ犯則者及ヒ其以外ノ人ニ對スル收稅吏ノ尋問ニ付キ何等ノ制限條件ヲ設クルコトナシ從テ其尋問ハ一ニ犯罪搜查ノ權アル收稅吏ノ機宜ノ處分ニ任シタルモノトス

○間接國稅犯則者ニ對スル告發ハ收稅官吏カ間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキ限ニ在ラス而シテ同法ニハ告發書ニ其作成ノ場所ヲ記載スヘキコトヲ命セサルヲ以テ其記載ナキモ不法ニ非ス

○收稅官吏ノ作成スル書類ニ付テハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ其作成ニ關スル特別ノ規定アリテ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキモノニ非ス而シテ右處分法第十條ニハ所屬官署ノ印ヲ捺捺スヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ其捺捺ナキモ無効ニ非ス

○間接國稅犯則者處分法第十四條但書ノ場合ニ於テ告發ヲ爲スノ權限ヲ有スル者ハ稅務管理局長若クハ稅務署長ニ限ル從テ此場合ニ於テ稅務

三五	四	一七
三五	六	二〇〇
三五	七	二〇一
三五	八	二〇八
三五		二五九
三五		二二七
三五		二五〇
三五		二五七

屬ノ爲シタル告發ハ無效ナリ

間接國稅犯則者處分法施行規則

○間接國稅犯則者處分法施行規則第十二條ニハ「犯則事件ノ調査及ヒ處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ」トノ規定アルモ無効ノ制裁ナキヲ以テ右規定ニ違背シタリトテ其書類ハ當然無効ナリト云フヲ得ス

森林法

○森林竊盜(森林法第三十八條)ニシテ其贓額ヲ確定セサレハ罰金ノ範圍ヲ定ムルコト能ハサル案件ナルニ贓物ノ價格ヲ明示セスシテ罰金ヲ言渡シタル判決ハ不法ナリ

○贓物ヲ以テ物ヲ製造シタル事實ハ森林竊盜罪ニ於ケル加重ノ情狀ニ過キス從テ特ニ其製造ノ場所及ヒ年月日ヲ判示スルノ要ナシ

○森林法第三十八條第七號ニハ「三人以上共謀シ又ハ五人以上ヲ雇使シテ其罪ヲ犯シタルトキ」トアリテ三人以上共謀若クハ五人以上雇使ノ一事實アルトキハ同條ノ犯罪ヲ構成シ二箇ノ事實併存スルモ爲メニ罪刑ヲ異ニスルコトナシ從テ第二審裁判所カ第一審裁判所ト共謀者ノ數

ニ付キ認定ヲ異ニスルモ雇使シタル人員ニ付キ認定ヲ同フスルトキハ犯罪構成ノ事實ヲ變更シタルニ非サルヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

○拂下木ノ伐採ヲ爲スニ際シ拂下木ニ押用セル公檢印ヲ他ノ良木ニ捺捺シ立會簿記載ノ拂下木ノ廻尺ヲ改竄シ看守ヲシテ伐採ノ許可ヲ與ヘシメ拂下以外ノ良木ヲ盜伐シタル所爲ハ森林竊盜ニシテ詐欺取財ニ非ス

○森林法ニ規定スル罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キスシテ數罪ヲ併科スルモノトス從テ二箇ノ罰金刑ニ對シ之カ換刑ヲ命スルニ付テモ亦各別ニ換刑スヘキモノニシテ罰金額ヲ通算シテ換刑ヲ爲スヘキモノニ非ス

○森林法第五十一條ハ森林法違背ノ數罪カ併發シタル時ト森林法違背ノ罪ト刑法上ノ罪トカ併發シタル時トヲ問ハス刑法ノ數罪俱發例ヲ用キサル法意ナリトス

○森林法第五十三條ハ贓物ノ種類ヲ列舉シタルモノニシテ贓物ヲ制限シタルモノニ非ス從テ盜伐シタル樹木ヲ以テ製造シタル角材ノ如キハ當然同條ニ包含ス、キモノトス

○森林法ニ所謂贓物トハ單ニ犯罪ニ因テ得タル物品ノミナラス其物品ヲ

三六 一五四九

三六 一三五二

三五 二九五

三五 四一六

三五 八一七

三六 三五八

三六 四三〇

三六 六〇三

三六 一七四

原料トシテ製造シタル物品ヲモ尙ホ贓物ト看做スモノトス

○森林法第三十八條第二號ニハ「其他ノ物品」ナル極メテ廣汎ナル文字ヲ用キ其物品ノ性質種類ニ付キ何等ノ制限區別ヲ設クルコトナシ從テ同規定ヲ適用スルニハ盜伐ノ目的タル木材カ犯人ノ加ヘタル工作ノ結果木材タルノ性質ヲ失却シ木材以外ノ物品ニ變シタル事實アルノミヲ以テ足レリトシ其物品ノ何タルヤハ之ヲ問フヲ要セサルモノトス

酒精及酒精含有飲料稅法

○苟モ免許ヲ得シテ竊ニ酒精含有飲料ヲ製造スルニ於テハ酒精及酒精含有飲料稅法第十五條同第二條ニ從ヒ處斷スヘキモノトス而シテ之ヲ製造スルニ當リ納稅濟ノ清酒又ハ酒精ヲ用ユルト其他ノモノヲ用ユルトハ同法ノ問ハサル所ナリトス

○酒精及酒精含有飲料稅法第八條ニ依リ免稅ヲ受ケタル酒精及ヒ酒精含有飲料ノ原料ト雖モ其原料ヲ以テ更ニ酒精含有飲料ヲ製造シタルトキハ其飲料ノ造石數ニ對スル造石稅ハ之ヲ免除セラレタルモノニ非ス

取引所法

○取引所法第三十二條ヲ以テ處罰スルニハ賣買取引ノ行爲アルヲ要ス
○名ヲ賣買取引ニ籍リ其實一種ノ賭博ヲ爲スモノハ賣買取引ノ行爲ナキヲ以テ取引所ノ定期取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲シタルモノ(取引所法第二十五條)ニ非ス

酒造稅法

○酒造稅法第三十一條ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕等ノ例ヲ用キサルコトヲ規定スルノミニシテ教唆ニ關スル特別ノ規定ナシ從テ刑法第百五條ノ教唆ノ規定ハ酒造稅法違反ノ場合ニ於テ全然之ヲ適用スルコトヲ要ス

○酒造稅法第三十二條ハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル犯罪行爲ヨリ生スル刑罰ノ責任ハ酒類製造人ヲシテ之ヲ負ハシムルコトヲ規定シタルニ過キササルモノトス從テ酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ稅法違反ノ行爲ヲ爲サシメタル者ハ刑法第百五條ニ依リ酒造稅法違反ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス

○酒造稅法第二十四條ニ所謂造石數ノ査定トハ製造シタル酒類其モノ、造石數ノ査定ヲ指稱シタルモノトス從テ査定ヲ受クヘキ清酒ノ一部ヲ

三六 一七四

三六 一七九

三六 九〇五

三六 一六〇四

三五 二一〇四

三五 二一〇四

三五 一七六

三五 一七六

他ニ移シ同一分量ノ古清酒ヲ補充シタル場合ト雖モ他ニ移シタル清酒ノ査定ハ之ヲ免カレタルモノナルヲ以テ同法條ノ犯罪ヲ構成ス

三五

九

一

○酒精ト酒精トヲ混和シタル粕澆醪ヲ搾揚クル爲メ搾器械使用ノ許可ヲ受ケ之ヲ搾揚ケスシテ別ニ製造シ置キタル濁酒ヲ搾ルカ爲メ之ヲ使用シ因テ得タル清酒ヲ粕澆醪ヨリ搾取シタルモノ、如ク假裝シ其査定ヲ經テ之ヲ販賣シタル所爲ハ濁酒ヨリ製出シタル造石數ニ相當スル税金ノ納付ヲ免カレント企テタルモノナリトス

三五

二

二〇八

○酒造税法第十八條ハ脱税ノ意思ナクシテ酒類ヲ製造場外ニ移出シ又ハ他人ニ讓渡シ質入シ消費スルコトヲ得サラシメタル取締上ノ禁令ニ過キス而シテ同法第二十四條ハ之ト異ナリ脱税ノ意思アリテ査定ヲ免カレ又ハ免カレントシタル者ヲ罰スヘキ法條ナリトス

三六

四

四六

○酒造税法ノ規定ハ各酒類毎ニ其製造ノ免許ヲ受ケシムルノ趣旨ナリトス從テ免許ヲ受ケスシテ數種ノ酒類ヲ製造シタル所爲ハ意思繼續ノ一犯罪ニ非スシテ數箇異別ノ犯罪ナリトス

三六

五

四六

○政府ノ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造スルノ罪ハ免許ヲ受ケサルコト、酒類ヲ製造シタルコトノ二要素ヲ以テ成立ス而シテ從犯ノ罪ハ正犯ノ犯罪ヲ構成スヘキ要素ノ一ヲ幫助スルトキハ成立スルモノナルヲ以テ

三六

六

三〇〇

他人カ酒類ヲ密造スルノ事實ヲ知り其原料タル米ヲ供給シタル所爲ハ免許ヲ受ケスシテ酒類ヲ製造シタル罪(酒造税法第二十二條)ノ從犯ナリトス

三六

六

三〇〇

○検査ヲ經テ石數ノ確定シタル清酒醪ニ他ノ清酒滓ヲ混和シ醪ノ量數ヲ増加シタルニ拘ハラヌ之カ相當醪ノ検査ヲ免カレタル所爲ハ酒造税法第二十七條ニ該當ス

三六

一

一六四

鐵道營業法

○線路彎曲シテ遠望ヲ妨クル踏切ニシテ往來頻繁而モ踏切番人ノ出務シ居ラサル場合ニ在リテハ汽車機關手ハ衝突等公衆ノ危害ヲ避クルカ爲メ注意汽笛ヲ鳴ラシ且危害ヲ避クル注意ヲ爲シ容易ニ停車シ得ヘキ準備ヲ以テ運轉スヘキハ其職責ナリトス從テ苟モ此職責ヲ盡サ、ルニ於テハ鐵道營業法第二十五條ノ制裁ヲ免カレス

三六

二

二二九

通貨及證券模造取締法

○通貨及證券模造取締法(明治二十八年法律第二十八號)ニ所謂模造トハ刑法上偽造ト認メ得ヘカラサルモノニシテ貨幣等ニ紛ハシキ外觀ヲ有

三六

二

二二九

スルモノヲ云フ從テ農工銀行ノ債券ヲ偽造シタルカ如キ所爲ニ對シテハ同法ヲ適用スヘキモノニ非ス

要塞地帯法

○要塞地帯法ト其地帯ノ區域ヲ定メタル陸軍省告示トハ相竣テ運用ヲ爲スモノトス從テ官報ヲ以テ正式ニ公布シタル告示ハ該法ト同一ノ效力ヲ有ス

軍機保護法

○軍機保護法第四條第一項ニ所謂防禦營造物ノ狀況ノ錄取ハ其狀況ノ精粗ヲ問ハス又其軍備ノ要機ニ關スル狀況ナルコトヲ必要トセス從テ苟モ許可ヲ得スシテ砲臺ニ海岸砲ヲ据付ケタルコト及ヒ其砲門ノ口徑員數等ヲ新聞紙上ニ錄取シタル以上ハ同條違反ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

船員法

○船員法第十九條ハ船長ハ人命船舶等ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅

客船員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ船舶ヲ去ルコトヲ禁シタルモノトス從テ立去ルノ意思アリタル以上ハ船客ヲ見捨ツルノ意思ノ有無ヲ問ハス同法條ノ違背タルヲ免カレス

商標法

○商標法第二條第五號ニハ此法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若クハ類似ノモノハ同條本文ニ因リ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ストアリ從テ該法律ノ施行(明治三十二年七月一日)以前ニ於テ他ニ使用者アル場合ハ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

○商標法第十六條ハ他人ノ登錄商標ナルコトヲ知り其承諾ヲ經スシテ製造シタル事實ト其之ヲ交付若クハ販賣シタル事實トノ二箇ノ行爲ヲ具備スルヲ待テ始メテ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ苟モ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シタル者ハ勿論其偽造ノ商標ヲ交付シタル者若クハ之ヲ販賣シタル者ハ皆同條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス
○商標公報ハ特許局カ商標法第十四條ノ規定ニ從ヒ商標登錄ニ關スル事項ヲ公示スル爲メ發行スルモノニシテ同法ト相竣テ運用ヲ爲スモノトス從テ商標公報ヲ以テ公示セラレタルモノハ何人ト雖モ之ヲ知了シタ

三六

二二

三五

一

五

三五

四

一九

三五

五

五

三五

四

六

三五

二六

ルモノト看做スヘキモノトス

著作權法

○著作者カ其權利ヲ登録スルト否トハ唯僞作者ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スルヲ得ルト否トノ差アルニ止マリ其權利ハ登録ノ有無ニ拘ハラズ常ニ之ヲ享有スルモノトス

葉煙草專賣法

○葉煙草專賣法第二十一條第一項ニ「葉煙草ノ讓渡ヲ受ケタルトキ云々」トアル其讓渡ナル語辭ハ廣ク賣買交換其他所有權ヲ移轉スヘキ方法ヲ指稱シタルモノトス從テ若シ營利ノ目的ヲ以テ葉煙草ヲ買受ケタル者ヲ處罰スヘキ特別ノ規定ナカラシムルハ該犯人ニ對シテモ同條項ノ規定ヲ適用スヘキモノナリト雖モ同法第二十一條ノ二ニ該犯人ヲ處罰スヘキ特別ノ規定アル以上ハ該犯人ニ對シテハ第二十一條第一項ノ規定ハ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

骨牌稅法

○骨牌製造ノ免許ヲ受ケタル者カ自己ノ製造シタル骨牌ヲ販賣スルニ非スシテ他人ノ製造シタル骨牌ヲ販賣セントスルニハ特ニ販賣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス
○骨牌稅法第二十四條ニハ骨牌ノ製造又ハ販賣ノ免許ヲ受ケサル者ノ所持ニ係ル骨牌ノ廢毀ニ付キ別ニ期間ノ規定アラサルヲ以テ同法施行ノ日ヨリ七日ヲ經過セハ直チニ其骨牌ヲ廢毀セシムルノ法意ナリト解釋スヘキモノトス

戶籍法

○戶籍法第二百十五條ニ所謂自己又ハ他人ノ利ヲ圖リ云々ノ利トハ詐欺ノ届出ヲ爲スニ因リ特ニ或利益ヲ得ルコトヲ目的トシタルモノナルヲ要ス而シテ利ナル文字ハ金錢上ノ利益ノミニ限ラス
○正當ニ入籍ノ手續ヲ爲ス能ハサルカ爲メ虛僞ノ事實ヲ記載シタル隱居届及ヒ入夫婚姻届ヲ戶籍吏ニ提出シタル所爲ハ自己ノ利ヲ圖ル爲メ詐欺ノ届出(戶籍法第二百十五條)ヲ爲シタルモノトス
○他人ノ私生兒ヲ貰受クルニ當リ幼兒生長後自己ヲ實親ト信セシメント欲シ又養子届出ノ手續ヲ免カレント欲シタルカ爲メ虛僞ノ認知届ヲ爲

三六

一四六

三六

一三五

三六

一三五

三六

一〇七

三五

二七八

三五

四 五四

三五

六 一四

シタルカ如キハ戶籍法第二百十五條ニ所謂利ヲ圖リタルモノト云フヲ得ス

○警察官ノ視察ノ煩ヲ免カル、爲メ虚偽ノ認知届ヲ爲シタル者ハ同條ニ該當ス

新聞紙條例

○傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ掲載スルコトヲ得ス(新聞紙條例第十六條第二項)トハ傍聽禁止中ニ於ケル被告事件ノ訊問辯論等ニ關スル内容ヲ掲載スルヲ得ストノ謂ナリ從テ其傍聽ヲ禁止セサル以前若クハ其禁止ヲ解キタル以後ノ事項ヲモ掲載スルコトヲ禁シタルモノニ非ス

○民主々義ト云ヒ階級制度ヲ全廢スルト云ヒ或ハ財富ノ分配ヲ公平ニスルト云フカ如キハ現時ノ制度ヲ破壞スルノ甚シキモノニシテ此等ノ理想ニ基キ政黨ヲ組織シ同志ヲ集合スルニ於テハ社會ノ秩序ヲ害スルモノトス從テ此等ノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第三十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○新聞紙條例第十三條末項ノ規定ハ其趣旨正誤要求者ノ何人タルヤヲ明

カニセントスルニ在ルモノトス從テ縱令氏名ノ明記ナキモ其何人ノ要求ニ係ルコトヲ知ルニ足ルトキハ有效ナル申込アリタルモノトス

○新聞紙條例ニハ正誤申込書ノ調製ニ關シ何等ノ規定ナキヲ以テ電報ヲ以テ正誤申込ヲ爲スモ有效ナリトス

○衆議院委員會ニ於ケル祕密ノ事項ハ法律ヲ以テ議員ノ外傍聽ヲ禁シタルモノトス從テ新聞紙上ニ其會議ノ事項ヲ掲載シタル所爲ハ新聞紙條例第十八條第二ニ該當ス

○新聞紙條例第二十五條ニ所謂「私行」トハ各人カ一個人トシテノ行動上ニ於テ爲ス所ノ總テノ行爲ヲ云フ而シテ其行爲ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤ又其行爲カ他人ノ利害ニ關係ヲ及ホスヤ否ヤハ之ヲ問ハサルモノトス

外國旅券規則

○變造ノ旅券タル事情ヲ告ケスシテ之ヲ他人ニ交付シタルトキハ其交付ノ時ニ於テ變造文書行使罪ヲ構成ス而シテ交付ヲ受ケタル者カ更ニ之ヲ巡查ニ提出シ使用シタルトキハ交付者ハ外國旅券規則第十六條ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

三五	三五	三五	三五
三	二	八	八
五	三	一〇〇	一〇〇

三六	三六	三六	三六
		九〇七	二七六
	一〇〇〇		二七六
三六			六二九

公證人規則

○公正證書ニ於ケル關係人ノ署名ハ該證書成立ノ一要件ニシテ其署名ナキモノハ公正ノ效ナキモノナレハ(公證人規則第三十四條)其署名ハ公正證書ノ一部ナリトス從テ其署名ノ部分ヲ偽造シタル所爲ハ公正證書偽造罪ヲ構成ス

林區署官制(明治三十六年勅令第二)百四十五號ヲ以テ改正

(參照) 大林區署官制第九條ニハ「森林監守ハ判任トシ四百六十八ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ受ケ森林保護ニ從事ス」トアリ而シテ國有林ト私有林トノ境界ヲ査定シ其境界ヲ標示スル爲メ國有林ノ樹木ニ檢印ヲ施スハ國有林ヲ保護スルカ爲メニ必要ナル處分ナリトス從テ官制上森林監守ノ司掌スヘキ森林保護ノ職務ニ屬スヘキモノトス

小學校令(明治三十六年勅令第七)十四號ニ依リ一部改正

(參照) 府縣師範學校長ハ小學校令ニ依リ其府縣ノ小學校圖書審查委員ト爲ルヘキ資格アルモ小學校圖書審查委員ハ臨時開設セラルヘキモノニシテ常設ノモノニ非ス從テ右校長ハ審查委員會ノ開設セラルトニ當リ初メテ其委員ト爲リ職務ヲ執行スルモノニシテ校長ノ常職トシテ

該委員會ノ職務ヲ執行スルモノニ非ス

小學校令施行規則(明治三十五年文部省令第三)號同上第十五號三十六年同

第十一號同第二十二號同第三十四號三十七年同第一號ニ依リ一部改正

(參照) 小學校令施行規則第六十三條ノ二ハ刑法ノ賄賂罪ニ比較スレハ其趣旨頗ル廣ク請託ノ有無ニ拘ハラズ職務ノ前後ヲ問ハサルヲ以テ其目的刑法ニ於テ罰セサル所爲ヲ罰セントスルニ在ルモノトス從テ刑法ニ處罰ノ明文アル所爲ニ對シテハ該規定ハ之ヲ適用スヘキモノニ非ス 小學校令施行規則追加第六十三條ノ二ハ金錢其他ノ利益ノ供與カ荷モ小學校教科用圖書ノ審查ハ檢定ニ關連スルモノナルニ於テハ其供與ノ時期供與ノ原因如何ニ拘ハラズ處罰スルノ趣旨ナリトス 小學校令施行規則第六十三條ノ二ハ小學校教科用圖書ノ審查ニ關スル審查委員ノ制裁ト其規定ニ關スル府縣知事ノ責罰トヲ規定シタルモノナリ

明治二十二年法律第二十八號

○明治二十二年法律第二十八號(議會並議員ノ保護ノ件)ニ所謂公然トハ秘密ニ對スルノ語ニシテ秘密ナラサル場合ハ常ニ公然ナリトス從テ公然ノ誹毀侮辱トナルニハ敢テ不特定ナル多數人ニ對シテ之ヲ爲スヲ要

小學校令施行規則 明治二十二年法律第二十八號

三六

三六

三六

三六

一八八六

二八六

二七

二四二

三六

三六

一一

一七

セズ特定シタル少數人ニ對スル場合ト雖モ苟モ其行爲ノ祕密ナラサル以上ハ公然ノ誹毀侮辱ナリトス

明治二十三年法律第九十九號

○明治二十三年法律第九十九號第一條(屋外竊盜ノ規定)ハ普通竊盜ニ關スル刑法第三百六十六條ノ例外ニシテ水火震災其他ノ變ニ乘シテ犯シタル竊盜(刑法第三百六十七條)及ヒ門戶墻壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キテ犯シタル竊盜(刑法第三百六十八條)ノ場合ニ適用スヘキ法律ニ非ス

○溜池ニ飼養シタル魚類ヲ竊取シタル所爲ハ即チ池沼ニ於ケル產物ヲ竊取シタルモノトス

明治二十三年法律第百號

○明治二十三年法律第百號ニ所謂公吏トハ主トシテ地方自治團體ニ屬スル行政事務ノ執行ヲ掌ル吏員ヲ指シタルモノトス而シテ市參事會員ハ右法律ニ所謂公吏ナリトス

明治二十四年勅令第三號(明治二十五年勅令第六號ニ依リ)

(一部改正)

○大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定スルニ付キ明治二十五年勅令第六號第三條ハ何等ノ制限ヲ爲スコトナシ從テ其指定ノ訴訟ノ起リタル前ナルト後ナルトハ之ヲ問ハサルモノトス

明治二十五年勅令第二百五十六號

○偽造ノ韓國通用白銅貨ヲ韓國專航ノ帆船ニ積込ミ韓國ニ向ヒ出帆シタル以上ハ該白銅貨ヲ帝國ヨリ輸出シタルモノトス從テ未タ韓國ニ輸入ノ目的ヲ遂ケサル場合ト雖モ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ニ依リ處罰スヘキモノトス

○輸出トハ內國所在ノ貨物ヲ外國ニ向ケ輸送スルコトヲ意味ス從テ內國ノ貨物ヲ船舶ニ積載シ外國ニ向ケ內國ノ港灣ヲ發スルトキハ此瞬間ニ於テ其貨物ハ海外ニ輸出セラレタルモノトス

○苟モ偽造ノ韓國白銅貨ヲ海外ニ輸送スルニ於テハ明治三十五年勅令第二百五十六號第二條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其輸送カ收利ノ目的ナルト

三六 一八七

三六 七〇一

三六 八七一

三五 八九

三五 六九

三六 六五

三六 六三

明治三十五年勅令第二百五十六號

他人ノ爲メナルトハ之ヲ問フノ要ナシ

二五二

三

六四二

大審院藏版

(明治三十五年同三十六年)

大審院刑事判例要旨類集

東京法學院大學發行

大審院刑事判例要旨類集追錄 目次

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第三條

第二章 刑例

第三節 附加刑處分

第四十三條

第四十四條

第四節 徵償處分

第四十七條

第四十八條

第五節 刑期計算

目次

一 同 二 同 三 同 五 同 同 同 六

第三章 靜謐ヲ害スル罪

二一

第一節 兇徒聚衆ノ罪

同

第三百三十七條

同

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

二二

第三百三十九條

同

第四百四十一條

二三

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

二四

第四百四十四條

同

第四百五十一條

二五

第四百五十二條

同

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

同

第四百六十五條

二六

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

同

第四百七十四條

同

第四章 信用ヲ害スル罪

二七

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

同

第四百八十二條

同

第二節 官印ヲ偽造スル罪

二八

第四百九十五條

同

第四百九十六條

同

第四百九十七條

同

第四百九十八條

二九

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

同

第二百三三條

同

第二百四四條

三五

第二百五五條

三七

第二百六六條

三八

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

同

第二百八八條

同

第二百九條
第二百十條

四〇
四一

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

四六

第二百十四條

同

第二百十五條

同

第六節 偽證ノ罪

四七

第二百十八條

同

第二百二十三條

四九

第二百二十五條

五〇

第二百二十六條

五一

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

同

第二百二十九條

同

第二百三十二條

五二

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

同

第二百三十四條

同

第六章 風俗ヲ害スル罪

同

第二百六十條

同

第二百六十一條

五三

第九章 官吏瀆職ノ罪

五四

第二節 官吏人民ニ對スル罪

同

第二百八十四條

同

第二百八十六條

五六

第二百八十八條

五七

第三節 官吏財産ニ對スル罪

五八

第二百八十九條

同

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

六三

第一章 身體ニ對スル罪

同

第一節 謀殺故殺ノ罪

同

第二百九十三條 六三
第二百九十八條 六四

第二節 毆打創傷ノ罪 同

第三百一一條 同

第三百四條 六五

第三百五條 同

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪 六六

第三百九條 同

第三百十一條 同

第五節 自殺ニ關スル罪 同

第三百二十條 同

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪 六七

第三百二十二條 同

第三百二十三條 同

第八節 墮胎ノ罪 同

第三百三十一條 同

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪 六八

第三百五十五條 同

第三百五十八條 同

第二章 財産ニ對スル罪 六九

第一節 竊盜ノ罪 同

第三百六十六條 七〇

第三百七十條 七一

第三百七十一條 同

第三百七十二條 七三

第三百七十七條 同

第二節 強盜ノ罪 七五

第三百七十八條 同

第三百八十條

七五

第四節 家資分散ニ關スル罪

七六

第三百八十八條

同

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關ス

ル罪

七七

第三百九十條

同

第三百九十一條

八五

第三百九十三條

同

第三百九十五條

八七

第三百九十六條

九一

第三百九十七條

同

第六節 贓物ニ關スル罪

九二

第三百九十九條

同

第四百一一條

九三

第七節 放火失火ノ罪

同

第四百二一條

同

第八節 洪水ノ罪

九四

第四百十一條

九五

第四百十三條

同

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害ス

ル罪

同

第四百十七條

九六

第四百二十一條

同

刑事訴訟法

第一編 總則

九七

第二條

同

第三條

一〇〇

第 四 條	一〇〇
第 五 條	一〇〇
第 六 條	一〇一
第 十 五 條	同
第 十 九 條	一〇二
第 二 十 條	一〇三
第 二 十 一 條	一〇五
第 二 十 一 條ノ二	一〇八
第 二 十 四 條	一一二

第二編 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

第 二 十 六 條	同
第 二 十 七 條	同

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避

第 四 十 條	同
	一一三

第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

第一章 捜査

第 四 十 二 條	一一四
第 四 十 三 條	一一五
第 四 十 五 條	同

第 四 十 七 條	同
-----------	---

第一節 告訴及ヒ告發

第 四 十 九 條	一一七
第 五 十 一 條	同
第 五 十 二 條	一一八
第 五 十 四 條	同

第二節 現行犯罪

第 五 十 八 條	同
第 五 十 九 條	同

第二章 起訴

同

第六十二條

一二〇

第三章 豫審

一一一

第六十七條

同

第三節 證據

一二三

第九十條

同

第九十二條

一二五

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質

一二六

第九十三條

同

第九十五條

一二七

第一百條

同

第一百一條

同

第五節 檢證、搜索及ヒ物件差押

一二八

第一百三條

同

第一百十條

一二九

第一百十一條

同

第六節 證人訊問

同

第一百五條

一三〇

第二十一條

同

第二十二條

同

第二十三條

一三二

第二十七條

一三五

第三十一條

同

第三十二條

一三六

第七節 鑑定

一三七

第三十五條

同

第三十六條

一三八

第八節 現行犯ノ豫審

一三九

第四十四條

同

第四十五條

一四〇

第四百四十七條
第四百四十八條

第十節 豫審終結

第六百六十三條
第六百六十九條
第六百七十一條
第六百七十三條

第四編 公判

第一章 通則

第七百七十七條
第七百七十九條
第七百八十二條
第七百八十三條
第七百八十四條
第七百八十六條

第九百九十條	同
第九百九十二條	一五五
第九百九十五條	同
第九百九十七條	一五六
第九百九十八條	一五七
第二百一一條	一五八
第二百二條	一五九
第二百三條	同
第二百四條	一六七
第二百五條	一六八
第二百八條	一六九
第二百九條	一七一
第二百十條	同
第二章 區裁判所公判	一七二
第二百十三條	同
第二百十四條	一七三

第二百十五條	一七三
第二百十七條	一七四
第二百十九條	同
第二百二十條	一七五
第二百二十三條	一七六
第二百二十四條	同
第二百二十五條	同
第二百二十六條	一七七
第二百二十七條	同
第二百二十八條	一七八
第二百二十九條	同
第二百三十三條	一七九

第三章 地方裁判所公判

第二百三十七條	一八〇
第二百三十八條	一八一
第二百三十九條	一八二

第二百四十一條

一八三

第五編 上訴

第一章 通則

第二百四十二條	同
第二百四十三條	同
第二百四十五條	一八五
第二百四十六條	一八六

第二章 控訴

第二百五十一條	同
第二百五十二條	一八七
第二百五十四條	一八八
第二百五十七條	同
第二百五十八條	一八九
第二百五十九條	一九〇
第二百六十一條	一九二
第二百六十二條	一九三
第二百六十二條	一九六

第二百六十四條
第二百六十五條

一九七
同

第三章 上告

一九九

第二百六十七條
第二百六十八條
第二百六十九條
第二百七十一條
第二百七十三條
第二百七十六條
第二百八十一條
第二百九十二條

同
同
同
二〇〇
二〇五
同
二〇六
同
二〇七

第四章 抗告

同

第二百九十四條
第二百九十六條

同
同

第六編 再審

二〇八

第三百一一條

同

第八編 裁判執行、復權及ヒ特赦

二〇九

第一章 裁判執行

同

第三百二十二條

同

衆議員議員選舉法

二一一

裁判所構成法

二一五

民法

二一七

民法施行法

二二三

商法(明治二十三年法律第三十二號)

二三四

商法施行法

二三五

民事訴訟法

二二六

府縣制

二二八

町村制

二二九

市町村會議員選舉罰則

二三〇

郵便法

二三〇

移民保護法

二三一

國稅徵收法

二三二

關稅法

二三三

間接國稅犯則者處分法

同

間接國稅犯則者處分法施行細則

二三六

森林法

同

酒精及酒精含有飲料稅法

二三八

取引所法

同

酒造稅法

二三九

鐵道營業法

二四一

通貨及證券模造取締法

同

要塞地帶法

二四二

軍機保護法

同

船員法

同

商標法

二四三

著作權法

二四四

葉煙草專賣法

同

骨牌稅法

同

戶籍法

二四五

新聞紙條例

二四六

外國旅行券規則

二四七

公證人規則

二四八

林區署官制

同

小學校令

同

小學校令施行規則

三四九

明治二十二年法律第二十八號

同

明治二十三年法律第九十九號

二五〇

明治二十三年法律第百號
明治二十四年勅令第三號
明治二十五年勅令第二百五十六號

二四

二五〇

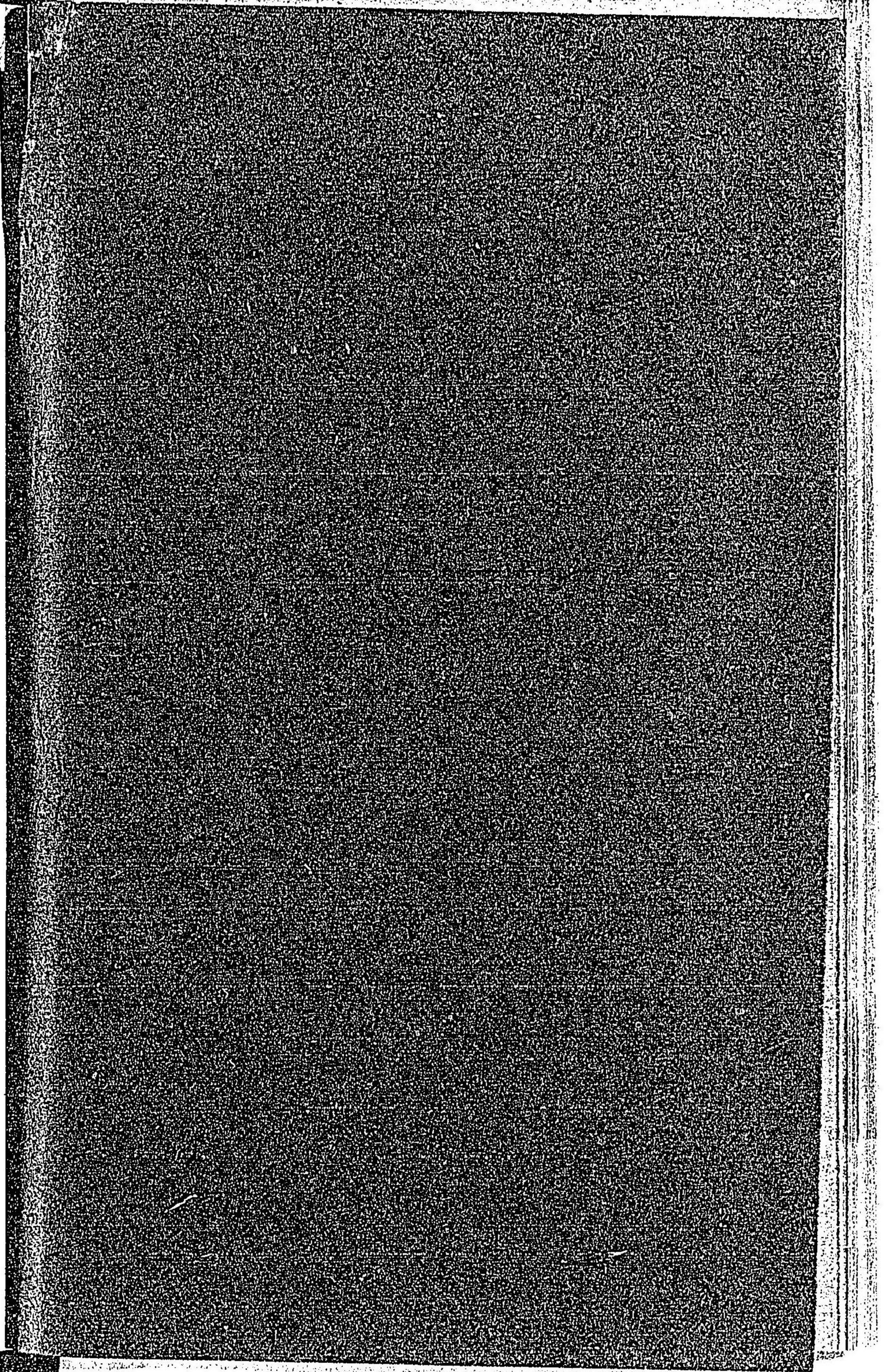
二五一

同

大審院刑事判例要旨類集追錄目次 終

刑

法



大審院刑事判例要旨類集追録

刑法

第一編 總則

第一章 法例

○目的タル行爲ニシテ罪トナラサルモ其目的ヲ達スル手段ニシテ犯罪ヲ構成スル以上ハ之ヲ處罰スヘキハ勿論トス

○刑法上被害者ト稱スヘキ者ハ犯罪ニ因リ私法上ノ權利ヲ侵害セラレ其賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキ地位ニ立ツモノヲ云フ而シテ證人カ偽證ヲ爲シタル場合ニ在テハ國家ノ公益ヲ害シタルニ過キササルヲ以テ其裁判所ヲ構成セル判事其人ノ私法上ノ權利ヲ侵害シタルモノト云フヲ得ス

第三條 法律ヲ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未ダ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス

○刑法第三條第二項ノ規定ハ新法發布前ニ終了シタル犯罪行爲ニ適用ス

刑法 第三條

三五	年
三六	卷
八四二	頁

ルコトヲ得ルニ止マリ新法發布前ニ犯サレタル犯罪カ新法發布後ニ繼續シタル場合ニ適用スルコトヲ得テ繼續犯ノ場合ニ於テハ單一ナル犯罪トシテ其全部ニ對シ新法ヲ適用スヘキモノトス

三五 一〇 四九

○控訴裁判所カ判決ヲ爲シタル當時ニ在リテハ舊衆議院議員選舉法ヲ適用スヘキモノナルモ上告裁判所カ判決ヲ爲ス當時ニ在リテハ舊選舉法ハ既ニ廢止ニ屬シ新選舉法ノ效力ヲ生シタル場合ニ於テハ刑法第三條第二項ニ遵由シ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘキモノトス

三五 一〇 三六

○腐敗清酒ヲ模造シ造石稅ノ免除ヲ得ントシタル犯罪行爲カ現行酒造稅法施行後ナルトキハ其清酒ノ釀造カ施行前ニ係ル場合ト雖モ現行酒造稅法ヲ適用スヘキモノトス

三六 四九

○法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得テ而シテ新法ノ刑舊法ノ刑ヨリ輕キ場合ニ付テハ刑法第三條第二項ノ例外アリト雖モ新舊兩法ノ刑全ク同一ナルトキハ該例外ノ場合ニ該當セス從テ舊法ヲ適用スヘキモノトス

三六 一四三

(同左)

新舊法ヲ比照スルニ當リ新舊共ニ其刑相均シキトキハ舊法ニ從ヒ處斷スヘキモノトス

三六 一〇八

第一章 刑例

第三節 附加刑處分

第四十三條

左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從テ

- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件
- 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
- 三 犯罪ニ因テ得タル物件

○定規ヲ變更シタル度量衡ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリトス從テ犯罪ノ用ニ供シタルト否トヲ問ハス又其罪體ニ係ルト否トヲ論セス其物件本來ノ性質ニ從ヒ刑法第四十三條第一號ニ依リ沒收スヘキモノトス

○通貨ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル玩弄紙幣ハ法令ニ於テ其製造竝ニ所持ヲ禁制シタルモノトス從テ之ニ對シ沒收ノ宣告ヲ爲スニハ刑法第四十三條第一號ヲ適用スヘキモノトス

○應禁物タルト同時ニ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルトキハ應禁物トシテ沒收スヘキモノトス

三五 五 四二

三五 八 三三

三五 一一 一三四

(同左)

犯罪ノ用ニ供シタル物件ト雖モ元來法律ニ禁制シタル物件トシテ當然沒收セラルヘキ場合ニ於テハ常ニ必ス刑法第四十三條第一號ヲ適用スルコトヲ要シ同條第二號ヲ適用シテ沒收ノ宣告ヲ爲スヘキモノニ非ス

三五 八 三三

同左判例
三〇年一
卷二三頁

○韓國通用ノ白銅貨ハ明治三十五年勅令第二百五十六號ニ依リ絶對ニ之ヲ偽造ヲ禁止セリ而シテ該勅令ハ同年十一月十五日ヨリ實施セラレタルヲ以テ縱令犯罪ノ當時ニ在テハ禁制品ニ非サルモ該勅令實施後ハ之カ所持ヲ許サ、ル禁制品ナリトス

○文書ヲ偽造シ之ヲ使用シテ文書偽造行使罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ文書ノ偽造ハ犯罪構成ノ要件ヲ爲スモノナルカ故ニ偽造文書其物ハ犯罪行爲ト離ルヘカラサル關係ヲ有スルモノニシテ法律ノ禁令ニ反シテ作成セラレタル不法ノ文書ニ外ナラス從テ偽造ノ文書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリトス

○要塞地帯法第七條ハ方法ノ如何ヲ問ハス要塞司令官ノ許可ヲ得スシテ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量シ又ハ其形狀ニ付キ或物體ノ上ニ後日ニ存在セシムヘキ性質ヲ有スル表顯ヲ爲スコトヲ禁止シタルモノトス從テ之ヲ表顯スル爲メ使用シタル寫真器械ハ犯罪組成ノ物件ニ非スシテ犯罪供用ノ物件ナリトス

○未遂罪ノ場合ト雖モ犯罪ハ既ニ成立シタルモノナルヲ以テ其犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ沒收スヘキモノトス

○單ニ兇器ヲ携帯シテ竊盜ヲ爲シタルニ止マラス尙ホ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタルノ事實アルトキハ其兇器ハ犯罪供用ノ物件トシテ沒收スヘキモノトス

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス

○刑法第四十四條ニ所謂所有主中ニハ眞ノ所有權ヲ有スル者ハ勿論荷モ物上ニ權利ヲ有スル者ハ盡ク之ヲ包含スルモノトス

第四節 徵償處分

第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

○刑法第四十七條ハ數名ニテ行ヒタル犯罪ニ付キ共犯人カ共ニ訴追セラレ同一ノ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ受クル場合ニ適用セラレヘキモノトス從テ共犯人中ノ一人ニ對シテノミ公訴起リタルトキハ共同被告ナキヲ以テ同條ヲ適用シ裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スル能ハサルハ當然ナリ

○共同被告人トシテ有罪ノ判決ヲ受ケタル以上ハ自ら訴追セラレサル前他ノ共同被告人ニ依リテ生シタル裁判費用ト雖モ共ニ連帶負擔スヘキモノトス

第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之

三五	三五	三六	三五
九	七	一七三	九
一四六	四〇	二八七	三四
		八四	五
			八七

同法官判例
三〇年一〇
卷六四頁

○ 審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

○ 刑法第四十八條ニハ「若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス」ト規定セルモ贓物ノ還給ハ民法上ノ請求權ヲ基礎トスル原狀回復ノ一方法ニ過キサレヲ以テ直チニ其還給ヲ命スヘキヤ否ヤハ民法上ノ權利關係如何ニ因リテ定マルヘキモノトス從テ恐喝取財カ當事者ノ意思表示ニ因由スル場合ニ於テハ被害者ヨリ財物證書類ノ還付ヲ請求シ又ハ其他ノ方法ニ因リ取消ノ意思ヲ表示スルニ非サレハ裁判所ハ進ンテ其還給ヲ命スルコトヲ得サルモノトス

第五節 刑期計算

第五十一條

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從テ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス

二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ上訴正當ナルト否トナ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

三 上訴中保釋ヲ得又ハ貴付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

○ 刑法第五十一條ニ所謂上訴ノ正當ナルトキハ前判宣告ノ日ヨリ起算ストアルハ上訴最終ノ結果ニ付テ言フヘキモノニシテ上訴審ノ階級ニ從ヒ之カ區別ヲ爲スヘキモノニ非ス從テ第一審判決ニ對シ控訴ヲ爲シ控

訴棄却ノ判決ヲ受クルモ更ニ上告ヲ爲シ其上告ニシテ正當ニ歸シタルトキハ第一審判決言渡ノ日ヲ以テ前判宣告ノ日ト爲サ、ルヘカラス

○ 刑法第五十一條第二號ハ檢事ノ上訴アリテ其上訴ニ對シ當否ノ判決アリタル場合ニノミ適用スヘキモノトス從テ被告ノ控訴取下ノ爲メ檢事ノ附帶控訴無効ニ歸シタルカ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○ 保釋ノ言渡ヲ受ケタルモ他事件ノ爲メ勾留狀ノ執行ヲ受ケ居リテ釋放セラレタルニ非サルトキハ保釋言渡ノ執行ハ自ラ停止セラレタルモノトス從テ其拘禁中ノ日數ハ保釋ヲ得タル日數中ニ算入セスシテ刑期ニ通算スヘキモノトス

○ 上訴中保釋ヲ得タル者ハ其保釋中ハ勾留ノ效力ヲ停止シ勾留ヲ受ケサル者ト異ナル所ナシ從テ刑法第五十一條第三號ニ因リ其保釋中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得サルモノトス

第三章 加減例

第七十條

禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ

減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルコトヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ルコトヲ得

三六	三七	三五	三六	三六
二七〇五	二七六	七	二九	二〇九

○賭場開張罪ノ從犯ヲ以テ論シ刑法第三百六十條ノ刑ニ一等ヲ減シ（二月七日以上九月以下ノ重禁錮一圓五十錢以上七十五圓以下ノ罰金）處斷スヘキモノナルコトヲ說示シナカラ二月ノ重禁錮七圓ノ罰金ニ處シタルハ刑ノ適用ヲ誤リタルモノトス

○刑法第三百六十七條ニハ云々六月以上五年以下トアリテ之ニ一等ヲ加重スレハ其長期ハ六年三月トナリ更ニ一等ヲ減スレハ四年八月九日トナリ又之ニ一等ヲ加重スレハ五年十月十一日トナル即チ此場合ニ於テハ加減ノ結果五年十月十一日以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキモノナルニ重禁錮六年ノ刑ヲ科シタルハ不當ナリトス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

罪本重ナル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ガシト爲スコトヲ得ス

○強盜ヲ毆打創傷シタル場合ト雖モ尙ホ毆打創傷罪ヲ構成ス從テ強盜ナ

リト誤信シテ他人ヲ毆打創傷セシメタル所爲ヲ以テ罪トナルヘキ事實ヲ知ラサリシモノト謂フヲ爲ス

○刑法第七十七條第四項ハ縱令實際ニ於テ法律規則ヲ知ラスシテ罪ヲ犯シタル者ト雖モ罪ヲ犯スノ意ナシト主張スルコトヲ許サ、ルコトヲ規定シタルモノトス而シテ同條項ニ所謂「法律規則」トハ其刑罰法ナルト否トヲ問ハサルモノトス

第二節 自首減輕

第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

○數箇ノ犯罪行爲アル場合ニ其中ノ一罪ニ付キ自首シタルトキハ減輕ノ恩典ハ單ニ其一罪ニノミ止マルヘキモノトス從テ之ヲ自首セサル他ノ犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

○詐欺取財ヲ行フニ因テ官私文書ヲ偽造シタル所爲ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ論スヘキ實質上ノ一罪ナリトス而シテ其重キ一罪ニ付キ處斷スル以上ハ自首減輕モ亦其一罪ノミニ付テ之ヲ行フヘク各罪ニ付キ一々減輕ヲ爲スヘキモノニ非ス

○警察署ハ司法警察官カ其管掌ニ係ル司法警察事務ヲ取扱フヘキ官署ナ

三五	三五	三六	三五
九	四	一四七	四
三	九六		四
			一五五
			一四六

ルヲ以テ犯罪ノ報告カ警察署ニ到達シ其官署ノ吏員ニ於テ之ヲ接受ス
ルト同時ニ犯罪ハ發覺シタルモノトス從テ其報告ヲ直接ニ受付ケタル
者ノ搜查權ヲ有スル司法警察官ナルト其指揮命令ヲ受クル巡查ナルト
ハ之ヲ問フノ要ナシ

第五章 再犯加重

第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

○前科ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱ヲ異ニスルモ再犯加重ノ法律適用トシ
テハ何等ノ影響ヲ有セス從テ第一審ニ於テ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ
名稱ヲ誤記シタルニ對シ第二審ニ於テ之ヲ更正スルモ第一審判決ヲ取
消スノ要ナシ

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者
ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共
ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス
罰金料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

○刑期服役中ト雖モ或場合ニ於テ犯罪行為ヲ爲スハ不能ノ事ニ非サルヲ
以テ服役中ノ犯罪ヲ判決スルニ當リ特ニ其場合ヲ說示セサルモ不法ニ
非ス

第七章 數罪俱發

第一百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處
斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

○數罪俱發例ヲ適用スルニ當リ重罪ト輕罪トニ付テハ刑法第百條一項ヲ
適用シ重罪ト重罪トニ付テハ犯情ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノトス
○二罪俱發シ一ノ重キニ從ヒ處斷シタル場合ニ於テハ二箇ノ犯罪事件ハ
互ニ分離スルヲ得サルモノトス從テ之ニ對スル被告ノ控訴中ニハ當然
二事件ヲ包含ス

(同主旨)

數罪俱發ニ付キ刑法第百條ヲ適用セラレ其數罪中一ノ重キニ從ヒ處斷セラレタル場合ニ在リ
テハ其判決ハ常ニ不可分ノモノナリトス從テ之ニ對スル控訴ニ於テ其一罪ノミノ取下ハ許ス
ヘカラサルモノトス

○金員ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ同時ニ偽造株券五枚ヲ交付シ之ヲ行使シ
タル所爲ハ一罪ニシテ數罪ニ非ス

○人ノ住居シタル家屋ト人ノ住居セサル家屋ト相密接セルモノヲ共ニ燒
燬セントシテ火ヲ放チ同時ニ之ヲ燒燬シタルトキハ人ノ住居セサル家

三五	三五	三五	三五	三五	三五
二	一	五	一	一	一〇
六二	二五	一	三〇	三	七五

同主旨判例
二四年一卷
一七二頁

屋ヲ燒燬シタル所爲ハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル重キ犯罪中ニ包括シ別ニ一罪ヲ構成セス

同主罰例
三三頁
三年八卷

○犯罪遂行ノ手段ニシテ他ノ罪名ニ觸ル、ニ於テハ特別ノ規定アル場合ノ外別罪ヲ構成ス從テ森林盜幫助ノ手段トシテ官印ヲ盜用シタル所爲ハ官印盜用ト森林盜幫助トノ二罪ナリトス

○犯人カ一ノ犯罪ヲ行ハントスルノ決意ヲ爲シ其決意ノ實行上犯罪遂行ニ必要ナル數箇ノ所爲ヲ爲シタル場合ニ其各所爲カ互ニ相連絡シ犯人カ當初企圖シタル目的ノ範圍内ニ於テ此等ノ行爲ヲ爲シタルモノナルニ於テハ各箇ノ所爲ハ獨立ノ犯罪ヲ構成セスシテ相共ニ一罪ヲ構成ス而シテ其行爲ノ日時場所ノ異同ハ之ヲ問フノ要ナシ

○徵收臺帳ヲ燒燬センカ爲メ市役所ニ放火シタル所爲ハ臺帳燒燬ノ所爲ト市役所燒燬ノ所爲ト箇々別々ニ放火シタル二箇ノ所爲アルニ非ス從テ二罪俱發ニ非スシテ市役所燒燬ノ一罪ヲ構成スルニ過キササルモノトス

○犯罪ノ手段タル行爲ト雖モ刑罰法ニ觸ル、トキハ之ヲ一箇ノ犯罪トシテ處斷スヘキモノトス

第二百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セ

ス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス
若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

○前ニ發シタル一罪ニ付キ既ニ期滿免除ニ依リ關席判決ヲ以テ言渡サレタル刑ノ執行ヲ免カレタル後餘罪發覺シ刑法第二百二條ヲ適用スルトキハ被告ハ刑ノ執行ノ全部又ハ一部ヲ免カル、ノ結果ヲ生スヘキモ前發ノ罪ニ付キ確定判決ヲ經タル以上ハ同條ノ規定ヲ適用スヘキハ當然ニシテ其被告カ刑ノ執行ヲ免カル、ヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○刑法第二百二條第一項ノ通算スヘキ刑ニハ死刑ヲ包含セス

○刑法第二百二條ニ依リ前發ノ刑ヲ通算スルハ二箇ノ犯罪カ同時ニ發シタルトキハ數罪俱發例ニ因リ一ノ重キニ從テ處斷スヘキニ發覺ノ時期ヲ異ニスルカ爲メ通算方法ヲ以テ特ニ刑ノ併科ヲ避クルモノニ外ナラス

第八章 數人共犯

○刑法ト罰令トヲ問ハス犯罪行爲ニ科スル刑期罰金ハ其共犯者各自ニ於テ全部ノ責任ヲ負フヘキモノトス從テ之ヲ分割負擔スルヲ得ヘキモノ

三 五六一

三 二九五

三 三三三

三 一五二七

三 一五六七

三五 一 三六

三六 四三三

三 一五六七

ニ非ス

第一節 正犯

第四百四條

二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス

○共犯ノ一人ハ他ノ共犯者ヲ代表シテ行動ヲ爲スモノナルカ故ニ共犯中一人ノ行爲ニ付テハ他ノ共犯者モ共ニ其責ニ任スヘキモノトス

○強盜ヲ爲サンコトヲ共謀シ其實行ニ與リタル以上ハ共犯者ノ一人カ爲シタル傷人ノ行爲ニ付テモ責任ヲ負フヘキハ當然トス

○實行正犯トハ犯罪ノ成立ニ重要ナル行爲ヲ爲ス者ヲ云フ從テ見張ナルモノカ竊盜罪ノ成立ニ重要ナル行爲ナル以上ハ實行正犯ノ責ニ任スヘキモノトス

○犯人カ或犯罪ヲ實行セントスルニ當リ其目的ヲ達スルカ爲メニハ犯人カ其犯罪ノ遂行ニ必要ナル所爲ヲ實行スルコト、犯罪實行ノ當時ニ於テ之ヲ妨クヘキ事實ノ存在セサルコトヲ必要トス從テ苟モ其所爲ニ依リ此二个ノ要件ノ一ヲ充タシタル以上ハ其所爲カ犯罪構成ノ要件タル積極的ノ實行行爲ナルト犯罪行爲ノ實行ニ對シ消極的ノ作用タル妨害排除ノ行爲ナルトニ論ナク其犯罪ノ實行ニ干與シタルモノトス

○共犯ノ關係アリトスルニハ各犯人カ其犯罪事實ヲ知りテ之ニ干與シタル事實アルヲ以テ足ル從テ共犯者カ豫メ通謀シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

ル事實アルヲ以テ足ル從テ共犯者カ豫メ通謀シタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

(同左)

或者カ犯罪ヲ行フノ事實ヲ知り他人カ其犯罪行爲ニ干與シタルトキハ即チ共犯ノ關係ヲ生ス從テ必スシモ共犯者ノ間ニ犯罪ヲ行フニ付キ通謀ノ事實アリタルコトヲ要セス

○見張ハ犯罪ノ實行ヲ確保スル爲メノ一ノ必要ナル手段ナリトス從テ實行ノ所爲ヲ擔任シタルト見張ノ所爲ヲ擔任シタルトハ其罪責ニ輕重ナキヲ以テ等シク實行正犯トシテ處罰スヘキモノトス

○數人カ共同シテ一ノ犯罪行爲ヲ行ヒタル場合ト雖モ其各自ニ對シ別々ニ刑ヲ科スヘキモノトス從テ其犯罪ノ單一ナルカ爲メ科刑モ亦單一ナリトシ共犯者全員ヲシテ單一ノ刑ニ服從セシムヘキモノニ非ス

第四百五條

人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者ハ亦正犯ト爲ス

○酒造稅法第三十二條ハ代理人家族其他ノ者ノ爲シタル犯罪行爲ヨリ生スル刑罰ノ責任ハ酒類製造人ヲシテ之ヲ負ハシムルコトヲ規定シタルニ過キササルモノトス從テ酒類製造人ノ代理人家族其他ノ者ヲ教唆シテ稅法違反ノ行爲ヲ爲サシメタル者ハ刑法第五百五條ニ依リ酒造稅法違反ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス

三六	二六二
三五	八九
三五	九四
三六	三六
三六	三三
三六	三二
三五	二五七
三五	二六
四	一七

○人ノ居宅内ニ忍入り竊盜ヲ爲スコトヲ教唆シタル者ハ其手段タル門戸
墻壁ノ踰越ニ付テモ責任ヲ負ハサルヘカラス

○人ヲ教唆シ自己ノ犯罪ノ證トナルヘキ物件ヲ隠蔽セシメタル所爲ハ刑
法第五十二條罪證隠蔽罪ノ教唆罪ヲ構成ス

○教唆罪ハ教唆者カ教唆ニ因テ犯シタル罪ノ要件タラサルヲ要スルヤ勿
論トス從テ刑ノ執行ヲ遁レンカ爲メ他人ニ囑託シ自己ニ代リテ受刑セ
シメ自己ヲ隠避セシメタル所爲ハ隠避罪ヲ教唆シタルモノト云フヲ得
ス

○侮辱ノ記事ヲ認メタル原稿ヲ新聞社員ニ交付シテ之ヲ新聞紙ニ掲載發
行セシメタル所爲ハ其編輯人ニ侮辱罪ヲ教唆シタルモノトス

○郵便局長ヲシテ其監守スル爲替金ヲ取出サシメタルモ自ラ其金員ノ取
出ニ干與セサルトキハ犯罪ノ實行ニ干與セサルモノナルヲ以テ監守盜
ノ教唆者トシテ責任ヲ負ハシムヘク共犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○人ヲ教唆シテ他人ノ印影ヲ盜捺セシメタルノ所爲ハ何等ノ犯罪ヲ
構成セス而シテ教唆者ニ於テ之ヲ行使シタルトキハ教唆者ハ私印盜用
私書偽造行使ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス從テ教唆罪ニ關スル法
條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○刑法第二百二十五條ハ同法第一百五條ノ單純ナル適用ヲ示シタルモノニ
シテ其例外ヲ示シタルモノニ非ス

○偽證ヲ囑託シタル者ト其囑託ヲ受ケ偽證シタル者トノ關係ハ則チ教唆
者ト被教唆者トノ關係ニシテ刑法ニ所謂共犯ナリトス

第二節 從犯

第三百九條 重罪輕罪ヲ犯スコトヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他豫備ノ所爲ヲ以
テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯
現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止テ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

○從犯ノ罪ハ正犯ヲ幫助スル罪ナルヲ以テ正犯ノ行爲ニシテ犯罪ノ構成
要素ヲ具備スル以上ハ從犯ノ罪モ亦成立スルモノトス從テ賄賂收受罪
ニ付テハ正犯ニシテ官公吏タル身分ヲ有スル以上ハ從犯ノ身分如何ヲ
問フノ要ナシ

○刑法第九條ハ正犯者カ罪ヲ犯ス意思ノ確定シ居ルコトヲ知テ之ヲ幫
助スル場合ノミナラス唯其意アルモノト察知シテ之ヲ幫助スル場合ヲ
モ包含ス從テ從犯者カ正犯者ノ決意以前ニ爲シタル行爲ト雖モ爾後正
犯者カ犯罪遂行ノ幫助ト爲リタル以上ハ其行爲ハ從犯罪ヲ構成スルモ
ノトス

同主旨判例
三二年五卷
三七頁

同主旨判例
三三年一〇
卷四九頁

三五	五
三五	七
三五	二
三五	二
三五	二〇六
三五	三四
三五	五〇二

三五	三九
三五	三
三五	三九
三五	三
三五	三九
三五	三
三五	三九

- 二 子孫及其配偶者
- 三 兄弟姊妹及其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子及其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姊妹及其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姊妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母父母
- 八 配偶者ノ兄弟姊妹及其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

○親屬例(刑法第一編第十章)ハ民法上親屬ト爲スヘキ者ヲ規定シタルニ非スシテ親屬又ハ姻屬ノ關係ヨリシテ刑法上特別ニ處分スヘキ者ヲ列舉シタルモノトス刑事訴訟法第二十四條モ亦同一ノ主旨ニ外ナラス從テ民法ノ制定ニ依リ親屬例ニ變更ヲ及ホスヘキモノニ非ス

第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹同シ養子其養家ニ於ル親屬例ハ實子ニ同シ

○親屬例(刑法第一編第十章)ハ民法上親屬ト爲スヘキ者ヲ規定シタルニ非スシテ親屬又ハ姻屬ノ關係ヨリシテ刑法上特別ニ處分スヘキ者ヲ列舉シタルモノトス刑事訴訟法第二十四條モ亦同一ノ主旨ニ外ナラス從

テ民法ノ制定ニ依リ親屬例ニ變更ヲ及ホスヘキモノニ非ス

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲スコト、其暴動カ多衆共同ノ意思ニ動キ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○兇徒嘯集罪(刑法第百三十七條)ハ多衆カ現ニ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲スコト、其暴動カ多衆共同ノ意思ニ基クコト、ニ依リテ成立ス從テ多數ノ人カ此等ノ暴動行爲ヲ爲スモ暴動者間ニ意思ノ合同ナキトキハ本罪ヲ構成セス

○兇徒嘯集罪(刑法第百三十七條)ハ多衆カ其共同ノ意思ヲ以テ暴動行爲ヲ爲スニ依リテ成立ス從テ多衆集合ノ初ニ於テ暴動ヲ爲スノ意思ナキモ其後ニ至リ暴動ノ意思ヲ生シ共同シテ暴動ヲ爲シタルトキハ本罪ヲ成立ス

三五
五
七四

三五
五
七四

三五
五
一〇五

三五
五
一〇五

○當初平穩ナル多衆ノ集合ト雖モ多衆ノ意思如何ニ依リ何時ニテモ兇徒
嘯集ニ變シ得ヘキモノトス而シテ其集合ノ全部之ニ變セサルモ一部ノ
人ニシテ暴動ノ意思ヲ生シ現ニ暴動ヲ爲シタルトキハ其之ニ干與シタ
ル者ニ對シテハ本罪ヲ構成ス

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三百二十九條

官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スル

ニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

○何人ト雖モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ妨害シタ
ル者ハ官吏抗拒罪(刑法第三百二十九條)ノ制裁ヲ受クヘキモノトス而シ
テ其妨害者ノ執行ヲ受クヘキ人タルト其以外ノ第三者タルトハ之ヲ問
フノ要ナシ

○巡查カ現行犯ト認メタルハ誤ナリトスルモ其當時眞ニ現行犯ナリト信
シ引致セントシタル場合ハ其引致手續ハ職務ノ執行タルコトヲ妨ケス
從テ其職務ニ對シ抗拒シタル所爲ハ官吏職務執行抗拒罪ヲ構成ス
(同第三)

官吏カ職務ヲ以テ正當ニ法律規則ヲ執行スル場合ニ在テハ縱令其執行カ事實上ノ誤認ニ基固

同主旨判例
三三三三卷
七頁

シタルトキト雖モ被執行者ハ之ニ服從スルノ義務アルモノトス從テ之ニ暴行ヲ加ヘ抗拒シタ
ル以上ハ官吏抗拒罪ヲ構成ス

第四百十一條

官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一

月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

○侮辱トハ誹毀ト罵詈トヲ意味スル法語ナリトス從テ罵詈ニシテ公吏ノ
職務ニ對スルモノナル以上ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス

○公廷内ニ於テ立會檢事ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ檢事ニ面
シタル儘故ラニ兩手ニテ顔ヲ撫テ大ナル咳嗽様ノ聲ヲ發シ雙手ヲ高ク
差伸シ大聲ヲ發シタル所爲ハ刑法第四百十一條第一項ニ所謂形容ヲ以
テ侮辱シタルモノトス

○訟廷ニ列席セル判事檢事等ニ對シ單一ノ行爲ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル所
爲ハ則チ一ノ官憲ニ對スル侮辱行爲ニシテ各人ニ對スル毎ニ一罪ヲ構
成スルモノニ非ス從テ審理ノ結果被害者ノ數ヲ増減スルモ之カ爲メ殊
別ノ判決ヲ爲スノ要ナシ

○刑法ニ所謂官吏中ニハ法律規則ニ依リ官吏ト同一ノ待遇ヲ受ケ又ハ之
ニ準スル旨ノ規定アル者ヲモ包含ス

○雇員ハ官吏ニ非ス

三五	三五	三五	三五	三五	三五
八	八	六	六	四	五
一〇三	一〇三	一三五	一三五	八七	二一九

○縣立中學校長ハ刑法ニ所謂官吏ナリトス從テ其職務ニ對シ侮辱シタル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成ス

○檢疫委員ノ職務ハ傳染病豫防法第十五條市制第六十一條ニ依リ市參事會員ニ屬ス而シテ市長ハ市參事會員ナルヲ以テ檢疫委員長ハ公吏タル市長ノ公務ナルコト勿論トス從テ其職務ニ對シ侮辱シタル所爲ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス

○特ニ當該官吏ノ氏名ヲ掲ケサルモ東京地方裁判所刑事部ト記載アル以上ハ特定ノ官吏ヲ指示シテ侮辱シタルモノナリトス

○刑法第四百四十一條第二項ノ演說トハ或事項ノ問題ヲ掲ケ之ヲ演述說示スルモノ、ミヲ云フニ非ス

○裁判所構内辯護士控所ニ於テ辯護士新聞記者廷丁給仕傍聽人等數十名居合セタル際暗ニ檢事ヲ指シ侮辱ノ語ヲ放チ大聲演述シタル所爲ハ刑法第四百四十一條第二項ニ所謂公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタルモノトス

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百四十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百四十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス

○警察官カ刑事訴訟法第五十八條ノ規定ニ基キ令狀ヲ待タスシテ逮捕シ

タル被告人ハ未決ノ囚徒ナリトス而シテ其囚徒ニシテ監獄ノ一部ナル警察署ノ留置場ニ拘禁セラレタルトキハ其入監中ナルコト論ヲ跋タス從テ該囚徒ニシテ逃走シタルトキハ刑法第四百四十四條ノ囚徒逃走罪ヲ構成スルモノトス

第五百一十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○刑法第五百一十一條ノ犯罪人隱避ノ罪ハ自ラ隱避ノ行爲ヲ行ハサルモ犯罪人ニ隱避ノ便ヲ與ヘタルニ依リテ成立ス

○罪人隱避罪(刑法第五百一十一條)ハ犯罪人ナルコトヲ知リテ之ヲ隱避セシムルニ因リテ成立ス從テ隱避ノ所爲カ其犯罪人ニ對スル告訴又ハ豫審請求前ニ在ルヤ若クハ其後ニ在ルヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ

第五百一十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメントテ圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○人ヲ教唆シ自己ノ犯罪ノ證トナルヘキ物件ヲ隱蔽セシメタル所爲ハ刑法第五百一十二條罪證隱蔽罪ノ教唆罪ヲ構成ス

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

刑法 第五百一十一條 第五百一十二條

三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
七	五	五	四	六	五	六	六
八三	一七	一七	一七〇	一三五	三六	九〇七	四八一

テ之ヲ行使セシメタル場合ニ在リテハ貨幣偽造行使ノ一罪ニ問フヘキモノトス

○五十錢二十錢十錢ノ銀貨ハ各異ナリタル法益ノ附着セルモノナルヲ以テ之ヲ偽造スルトキハ各銀貨固有ノ法益ヲ侵害ス從テ一銀貨毎ニ一罪ヲ構成スルモノトス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

○印章偽造ノ行爲ハ行使ノ手段ニ外ナラス唯官印ニ付テハ特ニ手段タル偽造ノミナルモ之ヲ罰スヘキコトヲ規定シタルニ過キス從テ偽造ト行使ト併發シタル場合ニ在テハ其目的タル行使ノ所爲ニ付キ其罪ヲ定ムヘキモノトス

第九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重懲罰ニ處ス

○山林ノ樹木ニ押用スル印章ハ刑法第九十六條第一項ニ所謂產物ニ押用スル印章ナリトス

第九十七條 御覽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造

ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

○衡器ニ施用スヘキ官ノ印章ハ刑法第九十六條ニ所謂商品ニ押用スル官ノ印章ナリトス從テ檢定濟ノ衡器ニ刻施シアル檢定印章ヲ挾取シ他ノ衡器ニ嵌入シタル所爲ハ刑法第九十七條ニ所謂官ノ印章ノ影蹟ヲ盜用シタル所爲ニ該當ス

○石川縣立輸出織物檢査所ハ石川縣內務部ノ監督ニ係リ縣廳ノ一部ニシテ官署ニ外ナラス從テ其檢査所ノ印ハ官印ナリトス

第九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重懲罰ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○一旦貼用ノ上消印ヲ施シ印紙ノ效用ヲ了リタルモノハ再ヒ印紙トシテ使用スヘカラサル紙片タルニ過キス從テ此紙片ヲ切斷シ其斷片ヲ彼此繼合シテ新ニ印紙ヲ製造シタル所爲ハ印紙ノ偽造ナリトス

第二節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

○文書偽造罪ハ信用ヲ害スル罪ナルヲ以テ或目的ヲ以テ偽造若クハ變造

刑法 第九十八條 第二百三條

三五	四	三
三六	九	二
三七	一〇	九
三八	一〇	九
三九	一〇	九
四〇	一〇	九
四一	一〇	九
四二	一〇	九
四三	一〇	九
四四	一〇	九
四五	一〇	九
四六	一〇	九
四七	一〇	九
四八	一〇	九
四九	一〇	九
五〇	一〇	九
五一	一〇	九
五二	一〇	九
五三	一〇	九
五四	一〇	九
五五	一〇	九
五六	一〇	九
五七	一〇	九
五八	一〇	九
五九	一〇	九
六〇	一〇	九
六一	一〇	九
六二	一〇	九
六三	一〇	九
六四	一〇	九
六五	一〇	九
六六	一〇	九
六七	一〇	九
六八	一〇	九
六九	一〇	九
七〇	一〇	九
七一	一〇	九
七二	一〇	九
七三	一〇	九
七四	一〇	九
七五	一〇	九
七六	一〇	九
七七	一〇	九
七八	一〇	九
七九	一〇	九
八〇	一〇	九
八一	一〇	九
八二	一〇	九
八三	一〇	九
八四	一〇	九
八五	一〇	九
八六	一〇	九
八七	一〇	九
八八	一〇	九
八九	一〇	九
九〇	一〇	九
九一	一〇	九
九二	一〇	九
九三	一〇	九
九四	一〇	九
九五	一〇	九
九六	一〇	九
九七	一〇	九
九八	一〇	九
九九	一〇	九
一〇〇	一〇	九

ノ文書ヲ行使スルニ因リ成立シ結局ノ目的ヲ達シ得ルト否トハ犯罪ノ構成ニ影響ナシ

○電報送達紙ヲ偽造シ之ニ必要ナル文言ヲ記入シテ配達ノ手續ヲ爲シタルトキハ縦令日附印ノ押捺ナシト雖モ官文書偽造行使罪ヲ構成ス

○電報送達紙ハ郵便電信局ニ於テ作成スル文書ナレハ私人ノ通信ト雖モ尙ホ官文書ナリトス

○官吏ニシテ其官廳ノ取扱例ニ依リ記入スヘキ事項ヲ偽造スルトキハ官文書偽造罪ヲ構成ス

○同一ノ文書ニシテ一面ハ私文書偽造トナリ一面ハ官文書偽造トナル場合ニ於テハ私文書偽造罪ハ自ラ官文書偽造罪中ニ包含ス

○刑法第二百三條ニ所謂官文書トハ官吏カ其職務ノ執行上法令其他所屬官廳ノ職務規定ニ基キ作成スル書類ヲ總稱ス

○官廳ノ内達慣例等ニ依リ作成スヘキ書類ニ關シ其例規ノ存在スルヤ否ヤハ一ノ事實問題ナリトス從テ裁判所ハ各種ノ證據方法ニ依リ其存否ヲ認定シ官文書ナルヤ否ヤヲ解決スヘキモノトス

○官文書作成ノ目的及ヒ其本來ノ效用如何ニ拘ハラス之ヲ他ノ目的ニ使シ本來定マレル效用以外ノ效用ヲ致サシムルコトヲ得從テ此場合ニ

於テモ官文書偽造行使罪ヲ構成ス

○法律ニ於テ代理ヲ許ス場合ナルト其然ラサル場合ナルトヲ問ハス苟モ代理權限ヲ有セサル者カ擅ニ某代理ト記入シ之ヲ以テ眞ニ官ヨリ發シタル文書ナリトシテ行使シタルトキハ官文書偽造行使罪ヲ構成ス

○郵便貯金通帳ハ郵便局ナル官廳ニ於テ官吏カ職務上作成スヘキ文書ナリトス從テ其記載事項ハ一私人ノ貯金證明ニ過キスト雖モ官ノ文書ニ外ナラス

○有體動産ノ差押ヲ爲シ其調書ヲ作成スルハ執達吏ノ職務ニシテ執達吏ハ右等ノ職務ヲ自己ノ責任ヲ以テ代理ノ資格ヲ有スル者ニ委任スルコトヲ得(執達吏規則第十一條)從テ其代理人カ作成シタル調書ハ執達吏カ自ラ作成シタル文書ト同シク官文書ナリトス

○明治三十四年度第一期縣稅地租割ノ領收書中第一期ノ一ナル文字ノ上ニ更ニ一畫ヲ加ヘ二ノ字ト爲シ以テ第二期縣稅地租割ノ領收書ヲ作成シタル所爲ハ文書ノ變造ニ非スシテ偽造ナリトス

○書類ノ作成者ニ非サル他ノ係官ニシテ承認ノ爲メ其書類ニ捺印スルモ書類ヲ作成シタルモノト云フヲ得ス從テ捺印ノ所爲ハ文書偽造變造罪ヲ構成セス

同主官判例
三〇年四卷
三六頁

三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
一	二	二	二	二	二	二
一四	二三	二三	二三	二三	二三	二三
一〇六	一〇六	一〇六	一〇六	一〇六	一〇六	一〇六
一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七	一〇七
二	二	二	二	二	二	二
九	九	九	九	九	九	九

○凡ソ文書ノ偽造變造アリトスルニハ其目的タル文書即チ言語文章ヲ以テ表出シタル記録アルヲ要ス而シテ捺印ノミハ一ノ記録ニ非サルヲ以テ文書偽造罪ヲ構成スルコトナシ

三六

九

○事務取扱ノ便宜上主任者ニ代リテ書類ノ文詞ヲ筆記シタルニ止マルトキハ書類ヲ作成シタルモノト云フヲ得テ其書類ハ職權アル主任者ノ作成シタルモノニシテ偽造文書ヲ以テ目スヘキモノニ非ス

三六

九

○官吏公吏カ其職務上作成スヘキ文書ト雖モ虚偽ノ事項ヲ記載シテ一箇ノ文書ヲ作りタルトキハ其所爲ハ一個人カ官公吏タル記録者ノ資格ヲ詐リ偽造文書ヲ作成シタルモノニ外ナラス從テ其所爲ハ官文書偽造罪ヲ構成ス

三六

二八二

○郡長ハ水利組合條例第二十九條ノ規定ニ基キ府縣知事ノ指定ニ依リ水利組合ヲ管理スルモノナレハ水利組合其者ハ公共事務ヲ處理スル團體ナリトスルモ之ヲ管理スルハ郡長ノ職務ナリ從テ其管理者タル郡長ノ作製スヘキ文書ハ公文書ニ非スシテ官文書ナリトス

三六

三〇四

○町村學校組合收入役ハ公吏ナリトス從テ其名義ノ領收證ヲ偽造行使シタル所爲ハ公文書偽造行使罪ヲ構成ス而シテ收入役任命ノ手續ニ不完全ノ點アリシヤ否ヤハ毫モ此犯罪ノ構成ニ關係ナシ

三六

三三七

○文書偽造罪ノ完成ニ必要ナル行使アリトスルニハ犯人ノ所爲カ文書ノ信用ニ對スル危險ヲ生スルノ程度ニ達シタルノミヲ以テ足レリトシ犯人ノ行爲ヨリ生スル其後ノ結果如何ハ之ヲ問フノ必要ナシ從テ犯人カ或方法ヲ以テ偽造文書ヲ利害關係人ノ閱覽ニ供シ利害關係人ヲシテ其内容ヲ知ルコトヲ得セシムヘキ状態ニ置キタルトキハ利害關係人ニ於テ現ニ之ヲ閱覽シテ其内容ヲ認識シタルト否トニ拘ハラズ偽造文書ノ行使アリタルモノトス

三六

五〇七

○帳簿中正當ノ記事アル一葉ヲ毀棄シ其次葉以下ニ無實ノ記入ヲ爲シタル所爲ハ帳簿ヲ毀棄スルト同時ニ之ヲ偽造シタルモノトス從テ文書毀棄及ヒ偽造ノ二罪ヲ構成ス

三六

七二六

○送達證書カ一旦執達吏ノ管掌ニ歸シタルトキハ其證書ハ全部官文書トナリ受取人ノ氏名ノ部分ノミヲ分割シテ私文書ナリト云フヲ得ス從テ執達吏自ラ送達證書中受取人ノ氏名ヲ偽造又ハ變造シ若クハ他人カ執達吏ノ手中ニ在ル送達證書ノ受取人ノ氏名ヲ偽造又ハ變造シタルトキハ官文書ノ偽造又ハ變造罪ヲ構成ス

三六

九二〇

○町村制第六十四條ニハ町村ニモ區長ヲ置クノ制アリテ其第七十三條ニ依レハ區長ハ町村長ノ事務ヲ補助執行スル町村吏員ナルコト明カナレ

ハ區長ハ町村長ニ代リ當然公文書類ヲ保管スルノ職責ヲ有ス從テ變造ノ地圖ヲ區長タル町村吏員ニ交付シ他人ヲシテ之ヲ閱覽スルノ状態ニ置キタル所爲ハ偽造文書行使罪ヲ構成ス

○村役場ニ於テ其必要上作成保管シタル地圖ハ法令ノ規定ニ基キ作成シタルモノニ非サルモ其性質公文書ナリトス

同法官判例
三二年一卷
四八頁

○官文書トハ必スシモ官吏ノ作成シタル文書ノミヲ云フモノニ非ス從テ一私人ノ作成シタル文書ト雖モ之ヲ官廳ニ差出シ官廳ニ於テ保存スヘキ文書ナル以上ハ官ノ記録又ハ官ノ帳簿ニ外ナラサルヲ以テ官文書ナリトス

○刑法第二百三條第一項ニハ單ニ「官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ云々」トアリテ公法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルト私法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルトヲ區別スルコトナシ從テ苟モ官吏カ其職務上作製スヘキ文書ナル以上ハ總テ官ノ文書ナリトス

○郵便取扱所ハ官衙ニ非ス且郵便取扱人ハ私人ニシテ官吏ニ非サルモ郵便取扱所ニ於テ取扱人ノ擔任司掌スル所ノ郵便事務ハ官廳ノ事務ナリトス從テ取扱人名義ノ時金拂戻證書ヲ偽造シ之ニ取扱人ノ職印ヲ盜用シタル所爲ハ官文書偽造行使及ヒ官印盜用罪ヲ構成ス

○戶籍簿ノ謄本ハ戶籍簿内容ノ事項ヲ證明シテ人民ニ下付スル文書ニ非スシテ戶籍簿ノ記載其儘ヲ謄寫シテ人民ニ下付スル文書ナリトス從テ戶籍簿ノ謄本ハ公證文書ニ非スシテ公文書ナリ

○公簿ハ刑法第二百三條ニ所謂文書中ニ包含ス
○文書偽造行使罪ヲ構成スルニハ其文書ヲ偽造行使シタルニ因リ他人ニ害ヲ生シ又ハ生シ得ヘキ事實ヲ要件ト爲スヘキモノトス而シテ其眞實ヲ僞リタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○警察署ハ古物商取締法第七條但書ニ依リ住所氏名ノ詳ナラサル者カ其所持品ヲ賣買交換セントスル場合ニ於テ其申請ニ依リ證明ヲ與フルノ職權ヲ有ス從テ其證明書ヲ僞造シタル行爲ハ官文書偽造罪ヲ構成ス
○文書偽造行使罪ハ信用ヲ害スルノ罪ニシテ財産ニ關スル罪ニ非ス故ニ金錢ヲ私スルト否トハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ナシ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ

○町長ガ自己ニ關スル事項ノ取扱ヲ避ケスシテ其町長タルヲ機トシ他人

三六	一四八四
三六	一五四四
三六	一六七七
三六	一六八二
三六	一八二五
三六	一八五五
三六	九八五
三六	九八五
三六	二二二
三六	二二〇

使罪ヲ構成ス

○ 苟モ他人ノ姓名ヲ署シ擅ニ他人名義ノ文書ヲ作成スルニ於テハ文書偽造罪ヲ構成ス從テ文書ニ署シタル姓名カ作成者固有ノ姓名ニ非スシテ他人ノ姓名ナルトキハ作成者カ其人ノ姓名ヲ冒シ自ラ其人ナリト稱シ來リタルノ事實アリトスルモ其姓名ヲ文書ニ署シタル所爲ヲ以テ氏名詐稱ノ結果ナリトシ之ヲ不問ニ付スルコトヲ得サルモノトス

○ 會社ノ取締役カ其資格ヲ以テ記載スルノ權限ナキ事項ヲ會社ノ帳簿ニ記載シ恰モ自己ノ權限内ニ於テ記載シタルモノ、如ク裝ヒ之ヲ行使シタル事實ハ文書作製者ノ資格ヲ詐ハリタルモノトス從テ其所爲ハ私書偽造行使罪ヲ構成ス

○ 自己ノ氏名ヲ署シテ文書ヲ作成シタル場合ト雖モ他人ノ代表者ナリト僭稱シ其名義ヲ以テ文書ヲ作成スルニ於テハ文書偽造罪ノ成立ニ必要ナル作成者ノ資格ヲ詐ハリテ文書ヲ作成シタル所爲アリタルモノトス

○ 親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リテ其不動産ヲ賣却スルニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス而シテ親族會員カ右賣却ニ同意ヲ與フルト否トハ其權利ナルヲ以テ親族會員カ右賣却ヲ議決シタル旨ノ會議録ヲ偽造シタル所爲ハ刑法第二百十條第一項ニ所謂權利ニ關スル證書ヲ偽造シタルモノナリトス

同主官判例
三二年八卷
一九頁

タルモノナリトス

○ 白紙委任狀ナルモノハ委任事項ノ記載ナキモ一定ノ範圍ニ於テ權利ヲ付與スルノ意思ヲ表示スルモノナル以上ハ其實質ニ於テハ權利付與ノ文書ナリトス從テ刑法ニ所謂權利義務ニ關スル證書ニ外ナラス

○ 苟モ文書ヲ偽造シテ之ヲ行使スルニ於テハ其文書カ絶對ニ實害ヲ生セシメ能ハサルモノニ非サルヨリハ文書偽造罪ヲ構成ス而シテ其程度ヲ決定スルハ一ニ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

○ 苟モ權利ナクシテ他人名義ノ文書ヲ作成行使スルトキハ私文書偽造行使罪ハ完全ニ成立シ其文書ノ趣旨カ名義人ノ權利義務ニ關スルトキハ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造行使シタルモノニ該當ス而シテ其偽造文書カ實體上名義人ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシトス

○ 他人ノ代理資格ヲ僞リテ文書ヲ作成シタル以上ハ其代理者ノ氏名ニ虛無ノ名稱ヲ用キタル場合ト雖モ文書偽造罪ヲ構成ス

○ 偽造文書ノ行使トハ偽造ノ文書ヲ真正ノ文書トシテ他人ニ提示シ其人ヲシテ錯誤ニ陥ラシメントスルノ行爲ヲ云フ

○ 訴訟代理ヲ委任スルニ當リ金員辨濟ノ證據トシテ裁判上證明ノ具ニ供

三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二	二七二

セシメシカ爲メ偽造ノ文書ヲ辯護士ニ提示シタルトキハ文書偽造行使罪ヲ構成ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

○刑法第二百十四條ハ苟モ詐欺ノ所爲ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル者ヲ處罰スルモノトス從テ其鑑札名義者ノ何人タルヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ

○刑法第二百十四條ニ所謂免狀トハ之ヲ受クルト同時ニ或特殊ノ行爲ヲ實行シ得ヘキ權利ヲ享有スルモノヲ云フ從テ書記試験及第證書ノ如キ試験ニ及第シタルコトヲ證スルニ過キサルモノハ同條ニ所謂免狀ニ非ス

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

○刑法第二百十五條第一項ニハ醫師ノ氏名ヲ用ヒテ疾病證書ヲ偽造行使シタル者ニ對スル刑罰ヲ定メ同條第二項ニハ人ノ囑託ヲ受ケ詐偽ノ疾

病證書ヲ作りタル醫師ニ對スル刑罰ヲ定メアルモ其疾病證書ノ作成ヲ醫師ニ囑託シタル者ニ對スル刑罰ノ定メアルコトナシ

○刑法第二百十五條ノ公務トハ公共ノ利益ノ爲メニ法令ニ依リ命セラレタル義務ヲ指シタルモノトス而シテ娼妓カ規則ニ因リ健康診斷所ニ出頭シテ定期ノ健康診斷ヲ受クヘキコトヲ命セラレタルハ公衆衛生上ノ必要ニ基キ法令ニ依リテ定メラレタル義務ナリトス從テ同條ニ所謂公務ニ該當ス

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル證人トシテ裁判所ニ呼出サレタル者被告入ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ爲シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

- 一 重罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 三 違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依テ處斷ス

○或事實ヲ見聞セサル證人カ現ニ之ヲ見聞シタリト稱シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ニ於テハ偽證罪ハ完全ニ成立ス而シテ證人カ現ニ見聞シタリト偽リタル事實カ偶々實際ノ事實ニ適合スルモ偽證罪ノ成立ニ何等

三 一九七

三五 五 六

三五 五 一四

三五 一〇 九一

三六 一八〇六

ノ影響ヲ及ホサス

○證人カ數回訊問ヲ受ケタル場合ト雖モ一回毎ニ調書ノ讀聞ヲ受ケ其供述ヲ變更増減セサル意思ヲ表示シタルトキハ證人ノ供述ハ一回毎ニ確定シ其確定ト共ニ偽證罪ハ成立ス從テ證人カ前回ニ爲シタル供述ヲ取消スモ之カ爲メ既ニ成立シタル犯罪ヲ消滅セシムルモノニ非ス

○證人ノ直接ノ目的ハ被告人ヲ曲庇若クハ陷害スルニ非スシテ自己ノ惡事ヲ隱蔽スル爲メナリトスルモ現實被告人ヲ曲庇若クハ陷害スルコトヲ知り故ラニ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス

反對判例三
二年六卷九
一頁

○豫審廷ニ於テ爲シタル偽證ニ付テハ刑法第二百十八條第一號第二號ニ於ケル重罪輕罪ノ區別ハ檢事ノ起訴ニ依リ之ヲ爲スモノトス

○苟モ證人カ刑事事件ニ關シ宣誓ノ上被告人ヲ曲庇スル爲メ偽證ヲ爲シタル以上ハ偽證罪ハ直チニ成立ス從テ被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタルト否トハ偽證罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシトス

○凡ソ行爲及ヒ其結果ノ單一ナル場合ニ在テハ其制裁モ亦單一箇ヲ以テスヘキモノトス從テ證人カ一箇ノ供述ヲ以テ偽證ヲ爲シ其結果偶々重罪輕罪ヲ曲庇シタルトキト雖モ其所爲ハ一箇ニ過キササルヲ以テ一罪トシテ處斷スヘク二罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス

○二人以上ヲ曲庇陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル場合ニ在テハ其行爲ハ一箇ノ供述ニ基クトキト雖モ一罪ヲ構成スルニ止マラスシテ數罪ヲ構成ス

○證人トシテ訊問スヘキ旨ノ告知ヲ受ケタル者カ裁判所ニ向テ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ縱令其供述ハ各事項ノ訊問ニ對シ爲シタルモノニ非スシテ證人自ラ其訊問ニ先チ爲シタルモノト雖モ尙ホ偽證罪ノ責ニ任スヘキモノトス

○刑法第二百十八條第一項ニ所謂裁判所トハ裁判所構成法ニ定メタル普通裁判所ノ外刑事ノ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ハ悉ク之ヲ包含スルモノトス

○證人カ裁判所ノ訊問ヲ受クルニ當リ不實ノ陳述ヲ爲シタル場合ニ其陳述ニシテ苟モ係爭事實ニ關聯スル以上ハ偽證罪ヲ構成ス而シテ其陳述ノ趣旨カ正面ニ訊問事項ニ該當スルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽證ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○刑法第二百二十三條ノ偽證罪ハ裁判所ニ於テ宣誓ノ上虛偽ノ陳述ヲ爲

三五	八	三七
三五	九	三五
三五	一〇	四六
三五	二	六六
三六	三	六六
三六	四	六六
三六	五	六六
三六	六	六六
三六	七	六六
三六	八	六六
三六	九	六六
三六	一〇	六六
三六	一一	六六
三六	一二	六六
三六	一三	六六
三六	一四	六六
三六	一五	六六
三六	一六	六六
三六	一七	六六
三六	一八	六六
三六	一九	六六
三六	二〇	六六
三六	二一	六六
三六	二二	六六
三六	二三	六六
三六	二四	六六
三六	二五	六六
三六	二六	六六
三六	二七	六六
三六	二八	六六
三六	二九	六六
三六	三〇	六六
三六	三一	六六
三六	三二	六六
三六	三三	六六
三六	三四	六六
三六	三五	六六
三六	三六	六六
三六	三七	六六
三六	三八	六六
三六	三九	六六
三六	四〇	六六
三六	四一	六六
三六	四二	六六
三六	四三	六六
三六	四四	六六
三六	四五	六六
三六	四六	六六
三六	四七	六六
三六	四八	六六
三六	四九	六六
三六	五〇	六六
三六	五一	六六
三六	五二	六六
三六	五三	六六
三六	五四	六六
三六	五五	六六
三六	五六	六六
三六	五七	六六
三六	五八	六六
三六	五九	六六
三六	六〇	六六
三六	六一	六六
三六	六二	六六
三六	六三	六六
三六	六四	六六
三六	六五	六六
三六	六六	六六
三六	六七	六六
三六	六八	六六
三六	六九	六六
三六	七〇	六六
三六	七一	六六
三六	七二	六六
三六	七三	六六
三六	七四	六六
三六	七五	六六
三六	七六	六六
三六	七七	六六
三六	七八	六六
三六	七九	六六
三六	八〇	六六
三六	八一	六六
三六	八二	六六
三六	八三	六六
三六	八四	六六
三六	八五	六六
三六	八六	六六
三六	八七	六六
三六	八八	六六
三六	八九	六六
三六	九〇	六六
三六	九一	六六
三六	九二	六六
三六	九三	六六
三六	九四	六六
三六	九五	六六
三六	九六	六六
三六	九七	六六
三六	九八	六六
三六	九九	六六
三六	一〇〇	六六

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○官名並ニ職名ヲ明示シテ身分ヲ詐稱シタルニ非サルモ何々縣廳第何課ニ奉職スル役人某ト詐稱シタル所爲ハ官職詐稱罪ヲ構成ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○舊衆議院議員選舉法ハ投票ヲ得ル目的ヲ以テ金錢等ヲ授與スルノミニテ未タ其目的ヲ遂ケサル場合ト既ニ其目的ヲ遂ケタル場合トヲ區別シタルモ新法ニ於テハ之ヲ合併シ目的ヲ遂ケタルト否トヲ問フコトナシ從テ衆議院議員及ヒ衆議院議員選舉法ヲ準用スヘキ其他ノ選舉ニ付テハ刑法第二百三十四條ハ新法ニシテ特別法タル同法ニ依リ自然改正セラレタルモノトス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百六十條 賭場ヲ開設シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

○賭場開張ノ罪ハ賭場ヲ開設シテ手数料若クハ寺錢等ノ如ク一定ノ利益ヲ得ルニ因テ完成スルモノトス從テ開張者自ラ賭博ヲ爲スニ於テハ別ニ賭博罪ヲ構成ス

○賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ハ云々ノ規定(刑法第二百六十條) 中利ヲ圖リトハ利益ヲ取得スルノ企圖アルコトヲ要スルノミニシテ既ニ利益ヲ取得シタルコトヲ要スルノ趣旨ニ非ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラズ
賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

○賭場開張ノ罪ハ賭場ヲ開設シテ手数料若クハ寺錢等ノ如ク一定ノ利益ヲ得ルニ因テ完成スルモノトス從テ開張者自ラ賭博ヲ爲スニ於テハ別ニ賭博罪ヲ構成ス

○取引所ノ相場ノ高低ハ偶然ノ事柄ニ屬ス從テ其高低ニ因リ勝敗ヲ決スルノ方法ヲ以テ金錢ヲ賭シタルトキハ賭博罪ヲ構成ス
○骨子骨牌ノ如キハ賭博常用ノ器具ナルヲ以テ金錢ヲ賭シ之ヲ使用シテ博奕ヲ爲シタル旨ヲ判示スルニ於テハ偶然ノ事ニ依テ勝敗ヲ決シタル

三五	三五	三五	三五	三六	三五
八	四	五	四		一一
四七	一五	二二	一五	四九	一四

事實ハ自ラ明瞭ナリトス

○賭博ノ胴元タル甲ヨリ賭具配布方ノ周旋ヲ託サレタル乙カ賭金者ヨリ賭金ヲ受ケ賭具ヲ携帶シ即チ賭博ノ行爲中警察官ニ檢舉セラレタル場合ニ於テハ縦令胴元タル甲ハ未タ賭金ヲ受取ラス且檢舉ノ際現場ニ在ラサルモ甲カ賭博ノ行爲中檢舉セラレタルモノナリトス
○チーハート稱スル賭博ノ賭金及ヒ紙札ヲ其胴元ニ送致ノ途中逮捕セラレタル事實ハ賭博ノ實行中其犯罪ノ發覺シタルモノニシテ賭博ノ現行犯ナリトス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ

○明治二十三年法律第百號ニ所謂公吏トハ主トシテ地方自治團體ニ屬スル行政事務ノ執行ヲ掌ル吏員ヲ指シタルモノトス而シテ市參事會員ハ右法律ニ所謂公吏ナリトス

三五	一〇	四
三五	二	二六
三六	九〇	
三五	三	八九

○法律ハ贈賄ノ所爲ヲ以テ犯罪ト爲スモノニ非スシテ唯其賄賂ヲ收受シタル所爲ヲ以テ犯罪ト爲ス從テ會社ヨリ賄賂ヲ收受シタル事實アルニ於テハ收賄罪ヲ構成ス而シテ會社カ犯罪能力ヲ有スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○賄賂ノ聽許ニ止マルモノハ其聽許ニ依リ犯罪ハ成立スヘキモ賄賂ヲ收受スルニ於テハ其收受カ請託ヲ受ケタル當時タルト職務執行ノ後ナルトヲ問ハス收受ノ時ニ至リ犯罪ハ完成スルモノトス

○收賄罪ニ於ケル請託關係ハ贈賄者ノ請託ト收賄者ノ受諾トニ依テ發生スルモノニシテ其受諾ノ通知ヲ待テ後發生スルモノニ非ス

○小學校令第二十六條ハ其第一項乃至第八項ノ本官ノ職務ニ加フルニ小學校圖書審查委員ノ職務ヲ以テシタルモノトス從テ郡視學ナル本官ノ職務ニ在ルノ故ヲ以テ審査委員ノ職ヲ命セラレタル場合ニ在テハ其委員ハ本官ノ附加職ニシテ尙ホ官職ナリトス

○官吏收賄罪ハ官吏カ其職務ニ關シ内囑ノ申込ヲ受ケタル日ニ成立スルモノニ非スシテ其内囑ノ申込ニ應シタル日ニ於テ成立ス從テ申込ヲ受ケタル日ハ未タ其職ニ在ラストスルモ申込ニ應シタル日ニ於テ其職ニ在リタル時ハ同罪ヲ構成ス

三五	三	八九
三五	三	八九
三五	三	八九
三六		二七六
三六		二七六

收入役ト共ニ村有ノ金錢ヲ費消シタルトキハ監守盜ノ正犯トシテ處罰スヘキモノトス

○村ヲ代表シ村ニ於テ徵收シタル縣稅等諸稅金ヲ郡役所ニ納付スルカ如キハ收入役ノ職務權限ニ在ラスシテ村長ノ職務ナリトス從テ村長カ郡役所ニ納付スヘキ稅金ヲ收入役ヨリ受取り其保管中之ヲ費消シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

○執達吏手數料規則ニ依レハ執達吏ハ手數料及ヒ立替金ヲ豫納セシメ委任事務ノ終了スルトキハ其豫納金ヲ以テ直チニ受取ルヘキ手數料又ハ立替タル金額ニ充當スルコトヲ得ルモノトス從テ其豫納金ニ付キ監守盜ヲ以テ處罰スルニハ執達吏カ委任事務ノ終了前ニ費消シタルカ又ハ其終了後委任者ニ返還スヘキ殘餘ヲ費消シタル事實ヲ明示スルヲ要ス

○區長ハ區有財產及ヒ區ノ事務ニ付キ市長カ市ニ於ケルト同一ナル職權ヲ有スルカ故ニ區長カ區書記ニ命シ區有財產ノ利子ヲ受領シ之ヲ市稅金受取所ニ納入スルノ手續ヲ爲サシムルハ區事務ノ分擔ニ外ナラス從テ其命ヲ受ケタル區書記カ利子ヲ受領シ其保管中之ヲ盜費シタル所爲ハ監守盜罪ヲ構成ス

○監守盜罪ハ官吏カ其監守ニ係ル金品ヲ不正ニ橫領スルニ依テ成立ス從テ犯人タル官吏カ其金品ヲ處分スルノ行爲ハ監守盜ノ結果トシテ當然其中ニ包含セラレ獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス

第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

○謀殺故殺若クハ誹毀ノ如キ犯罪ハ自他互ニ集合シ難キ人ノ生命若クハ名譽ヲ侵害スルモノニシテ被害者毎ニ異別ノ效果ヲ生ス從テ縱令同一ノ決意ヲ以テ同時同一ノ場所ニ於テ數人ヲ謀殺若クハ誹毀スルモ之ヲ一括シテ一ノ謀殺一ノ誹毀ナリト云フヲ得ス

罰二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

○甲ヲ毒殺センコトヲ謀リ致死量以上ノ毒藥ヲ包ミタル餡餅ヲ甲ニ供シタルニ偶、丙カ之ヲ貰受ケ食シタル爲メ煩悶シテ吐出シ死ニ至ラサリシ事實ハ被告カ丙ニ餡餅ヲ與ヘタルニ非サルモ之ヲ食セシムヘキ狀態ニ置キタルモノトス從テ被告ノ所爲ハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂罪ヲ構成ス

三五	三五	三六	三六	三六	三六	三六	三六
九	九	九	九	九	九	九	九
一六三	一六三	一八二	一八二	一七五	一七五	二四二	二四二
	九五						

○毒殺罪ニ付テハ殺意ヲ以テ毒藥ヲ調合シ其之ヲ服用セシメントスル人ニ渡シタルノミノ所爲ハ未タ毒殺ノ實行ニ着手シタルモノニ非ズ從テ現ニ毒藥ヲ服用セシメ又ハ目的ノ人カ服用スヘキ狀況ニ毒藥ヲ供シタル時ニ於テ始メテ實行ノ着手アリタルモノトス

第二百九十八條

謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス

○甲ヲ毒殺センコトヲ謀リ致死量以上ノ毒藥ヲ包ミタル餡餅ヲ甲ニ供シタルニ偶、丙カ之ヲ貰受ケ食シタル爲メ煩悶シテ吐出シ死ニ至ラザリシ事實ハ被告カ丙ニ餡餅ヲ與ヘタルニ非サルモ之ヲ食セシムヘキ狀況ニ置キタルモノトス從テ被告ノ所爲ハ刑法第二百九十八條ニ所謂謀殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル罪ノ未遂罪ヲ構成ス

○刑法第二百九十八條ノ罪ハ謀殺故殺ノ所爲ニ因リ誤テ其目的以外ノ人ヲ殺シタル場合ニ成立スルモノトス

第二節 毆打創傷ノ罪

第三百一條

人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラズト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

○強盜ヲ毆打創傷シタル場合ト雖モ尙ホ毆打創傷罪ヲ構成ス從テ強盜ナリト誤信シテ他人ヲ毆打創傷セシメタル所爲ヲ以テ罪トナルヘキ事實ヲ知ラザリシモノト謂フヲ得ス

○帳簿ヲ取回サンカ爲メ人ニ組付キタル所爲ハ人ノ身體ニ對シ暴行ヲ加ヘタルモノニシテ刑法ニ所謂毆打ノ所爲ナリトス

○人ヲ毆打シテ疾病休業二十日以内ノ創傷ヲ負ハシメタル後捕縛ヲ以テ捕縛シタル所爲ハ毆打創傷罪(刑法第三百一條第二項)ト制縛罪(刑法第三百二十二條)トノ二罪ニシテ毆打拷責ノ一罪(刑法第三百二十三條)ニ非ス

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

○刑法第三百四條ノ罪ハ毆打ノ所爲ニ因リ誤テ其目的以外ノ人ヲ毆打シタル場合ヲ指稱シタルモノトス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但數唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

○數人共毆ノ場合ニ於テハ刑法ハ總則ノ共犯例ヲ適用スヘカラサルモノトシテ特ニ第三百五條ノ規定ヲ爲シタルモノトス

○數人共毆ノ場合ニ於テハ刑法ハ總則ノ共犯例ヲ適用スヘカラサルモノトシテ特ニ第三百五條ノ規定ヲ爲シタルモノトス

三五	三五	三五	三五	三五	三六
二	三	二	二	九	二九
一五	六七	一九	二五	一三	